県立フラワーパーク建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡会見町

鶴田東山遺跡
ツルタヒガシヤマイセキ

鶴田合清水遺跡
ツルタゴウシミズイセキ

1995

財団法人　鳥取県教育文化財団

序

鳥取県西部、秀峰大山の西に位置する会見町・岸本町・溝口町一帯は、四季折々の美しい景観を眺望することのできる自然豊かな地域です。また、この豊かな自然に育まれた地域は、古くから遺跡の宝庫としても知られております。西伯耆最大の前方後円墳である三崎殿山古墳、三角縁神獣鏡を出土した普段寺１・２号墳をはじめ、古代人の生活や当時の人々の活発な交流を物語る貴重な遺跡が数多く存在しています。

当財団では、平成６年度に鳥取県からの委託を受け、フラワーパーク本体部分の建設事業に伴う会見町の鶴田東山遺跡と鶴田合清水遺跡の発掘調査を実施しました。

この発掘調査では、縄文時代の落し穴や、弥生時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡とそれに伴う貯蔵穴などの遺構を調査しました。その結果、弥生時代の集落の構成を考える手掛りが得られたとともに、吉備地方と関連がある分銅形土製品が出土するなど、郷土の歴史を解明するうえでの貴重な資料を得ることができました。

本書は、この発掘調査の結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめたものです。本書の「記録」が、文化財に対する認識と理解を深めるとともに、教育及び学術研究のために広く御活用していただければ幸いと存じます。

最後に、調査に際しましては、多大な御理解と御協力をいただいた地元の方々をはじめとする関係各位に対し、心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

平成７年３月

財団法人鳥取県教育文化財団

理事長　西尾邑次

例　言

1．本報告は、「県立フラワーパーク建設に係る埋蔵文化財調査委託」に伴い1994年度（平成６年度）に実施した西伯郡会見町鶴田地内に所在する鶴田東山遺跡・鶴田合清水遺跡の埋蔵文化財発掘調査記録である。

2．発掘調査は、財団法人鳥取県教育文化財団　県フラワーパーク関係埋蔵文化財調査事務所が行った。

3．本報告書に収載した鶴田東山遺跡は新発見の遺跡のため、調査着手段階では遺跡名が確定しておらず発掘調査通知等では「鶴田所在遺跡」と呼称した遺跡である。また、鶴田合清水遺跡は、当初下ノ原遺跡と呼称していたが会見町と溝口町の２町に跨るため会見町内部分について遺跡名を変更したものである。

4．調査地には国土座標第Ⅴ系に対応する10×10mのグリッドを設定し、東西ラインをアルファベット、南北ラインをアラビア数字で図示し（挿図４・挿図９）グリッド名とした。方位は国土座標第Ⅴ系に基づく座標北、レベルは海抜標高である。

5．本報告書に掲載の周辺遺跡分布図には国土地理院発行の５万分の１地形図「米子」「根雨」を使用し、遺跡周辺地形図に使用した図面は鳥取県根雨土木事務所から提供をうけた。

6．本報告書の作成は調査員の討議に基づく。本文は調査員が分担して執筆し、編集は西川が行った。
遺構・遺物の実測並びに浄写は調査員を中心に実施した。
本報告書の作成には、鳥取県埋蔵文化財センターの協力を得た。

7．石材鑑定は鳥取大学教育学部の赤木三郎教授にお願いした。

8．出土遺物・図面・写真等は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されており、出土遺物は将来的には会見町教育委員会に移管する予定である。

9．分銅形土製品の実見に際しては、古代吉備文化財センター・山陽町郷土資料館にお世話になった。

10．現地調査及び報告書作成にあたっては、下記の方々に指導・協力を頂いた。　（敬称略、五十音順）
新井　宏則　　岡田　龍平　　高畑　富子　　長田　康平　　平井　泰男　　益田　晃

凡　例

1．発掘調査時における遺構番号と報告書の番号は基本的に一致する。

2．鶴田合清水遺跡出土の遺物には遺跡名を「合シミズ」と略称でネーミングした。

3．本報告書における遺構記号は下記のように表す。
ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＢ：掘立柱建物跡　　ＳＫ：土坑・土壙墓　　ＳＡ：杭列　　Ｐ：柱穴・ピット
（全体遺構図中では遺構記号「Ｐ」を省略）

4．本報告書における遺物記号は下記のように表す。
Ｐｏ：土器・土製品　　Ｓ：石器・石製品

5．遺構図中において焼土面を[焼土]で、土器・土製品を●で、石器・石製品を▲で表す。

6．遺物実測図中における記号は以下の通りとする。
→：ケズリの方向（砂粒の動き）　[赤色塗彩]：赤色塗彩面　[擦り]：擦り面　[敲打]：敲打面
[擦り範囲]：擦り範囲　[敲打範囲]：敲打範囲

7．遺物観察表における法量の欄の番号は次の通りとする。なお、数値の後についた※は復元値、△は残存値、◎は推定値であることを表す。
①口径　②器高　③胴部最大径　④底部径　⑤脚径　⑥脚高　⑦長さ　⑧幅　⑨穴径

8．遺物観察表の備考欄に記載してあるＳ－１等の番号は実測者番号であり、遺物を特定する目的で記載した。

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
挿図目次
挿表目次
図版目次

第1章　調査の経緯
　第1節　発掘調査に至る経緯……1
　第2節　調査の経過と方法……1
　第3節　調査体制……2

第2章　位置と環境
　第1節　地理的環境……3
　第2節　歴史的環境……5

第3章　鶴田東山遺跡の調査
　第1節　土坑……9
　第2節　ピット……12

　遺構一覧表……14
　遺物観察表……14

第4章　鶴田合清水遺跡の調査
　第1節　竪穴住居跡……17
　第2節　掘立柱建物跡……29
　第3節　土坑・土壙墓……35
　第4節　杭列……60
　第5節　ピット……60
　第6節　遺構外の遺物……61

　遺構一覧表……64
　遺物観察表……73

第5章　まとめ
　鶴田合清水遺跡出土の分銅形土製品について　（西川）……84

挿図目次

挿図1　遺跡位置図…… 3
挿図2　周辺遺跡分布図…… 7
挿図3　遺跡周辺地形図…… 8
挿図4　鶴田東山遺跡全体遺構図…… 9・10
挿図5　ＳＫ－01遺構図…… 11
挿図6　ＳＫ－02遺構図…… 12
挿図7　ＳＫ－03遺構図…… 13
挿図8　鶴田東山遺跡遺物実測図…… 13
挿図9　鶴田台清水遺跡全体遺構図…… 15・16
挿図10　ＳＩ－01遺構図…… 17
挿図11　ＳＩ－02遺構図…… 19・20
挿図12　Ｐｏ1出土状況図 …… 21
挿図13　Ｐｏ2－1出土状況図 …… 21
挿図14　Ｐｏ2－2出土状況図 …… 21
挿図15　Ｐｏ3出土状況図 …… 21
挿図16　Ｐｏ6出土状況図 …… 21
挿図17　Ｐｏ7出土状況図 …… 21
挿図18　Ｐｏ8出土状況図 …… 21
挿図19　ＳＩ－02遺物実測図（1） …… 22
挿図20　ＳＩ－02遺物実測図（2） …… 23
挿図21　ＳＩ－02遺物実測図（3） …… 24
挿図22　ＳＩ－03遺物実測図…… 24
挿図23　ＳＩ－03遺構図…… 25
挿図24　ＳＩ－04遺構図…… 26
挿図25　ＳＩ－04遺物実測図…… 27
挿図26　ＳＩ－05遺構図…… 28
挿図27　ＳＩ－05遺物実測図…… 28
挿図28　ＳＢ－01遺構図…… 29
挿図29　ＳＢ－02遺構図…… 30
挿図30　ＳＢ－02遺物実測図…… 31
挿図31　ＳＢ－03遺構図…… 32
挿図32　ＳＢ－04遺構図…… 33
挿図33　ＳＢ－05遺構図…… 34
挿図34　ＳＫ－01遺物実測図…… 35
挿図35　ＳＫ－01遺構図…… 35
挿図36　ＳＫ－02遺構図…… 35

挿図37　ＳＫ－03遺物実測図…… 36
挿図38　ＳＫ－03・07遺構図…… 37
挿図39　ＳＫ－04遺構図…… 38
挿図40　ＳＫ－04遺物実測図…… 38
挿図41　ＳＫ－05遺構図…… 39
挿図42　ＳＫ－06遺構図…… 40
挿図43　ＳＫ－08遺構図…… 40
挿図44　ＳＫ－08遺物実測図…… 41
挿図45　ＳＫ－09遺構図…… 41
挿図46　ＳＫ－09遺物実測図（１）…… 42
挿図47　ＳＫ－09遺物実測図（２）…… 43
挿図48　ＳＫ－10遺物実測図…… 43
挿図49　ＳＫ－10遺構図…… 44
挿図50　ＳＫ－11遺構図…… 44
挿図51　ＳＫ－12遺構図…… 45
挿図52　ＳＫ－12遺物実測図…… 46
挿図53　ＳＫ－13遺構図…… 46
挿図54　ＳＫ－13遺物実測図…… 46
挿図55　ＳＫ－14遺構図…… 47
挿図56　ＳＫ－15遺構図…… 47
挿図57　ＳＫ－15遺物実測図…… 48
挿図58　ＳＫ－16遺構図…… 49・50
挿図59　ＳＫ－16遺物実測図…… 51
挿図60　ＳＫ－17遺構図…… 52
挿図61　ＳＫ－18遺構図…… 52
挿図62　ＳＫ－19遺構図…… 53
挿図63　ＳＫ－19遺物実測図…… 53
挿図64　ＳＫ－20・21遺構図…… 54
挿図65　ＳＫ－20遺物実測図…… 55
挿図66　ＳＫ－21遺物実測図…… 55
挿図67　ＳＫ－22遺構図…… 56
挿図68　ＳＫ－22遺物実測図…… 57
挿図69　ＳＫ－23遺構図…… 58
挿図70　ＳＫ－24遺構図…… 59
挿図71　ＳＫ－24遺物実測図…… 59
挿図72　ＳＡ－01遺構図…… 60
挿図73　遺構外遺物出土位置図…… 61
挿図74　遺構外遺物実測図（１）…… 62
挿図75　遺構外遺物実測図（２）…… 63

挿表目次

（鶴田東山遺跡）
挿表1　土坑一覧表…… 14
挿表2　ピット一覧表…… 14
挿表3　石器観察表…… 14
（鶴田合清水遺跡）
挿表4　竪穴住居跡一覧表…… 64
挿表5　掘立柱建物跡一覧表…… 64
挿表6　土坑一覧表…… 65
挿表7　ピット一覧表…… 66
挿表8　土器・土製品観察表…… 73
挿表9　石器観察表…… 83

図版目次

図版1　鶴田東山・鶴田合清水遺跡全景
図版2　鶴田東山遺跡調査後全景
鶴田合清水遺跡調査後全景
（鶴田東山遺跡）
図版3　ＳＫ－01土層断面
ＳＫ－02土層断面
ＳＫ－03土層断面
遺構外出土遺物
（鶴田合清水遺跡）
図版4　作業風景
ＳＩ－01遺物出土状況
ＳＩ－01土層断面
図版5　ＳＩ－02遺物出土状況〔全景〕
ＳＩ－02遺物出土状況〔北半〕
ＳＩ－02完掘状況
図版6　ＳＩ－02中央ピット土層断面
ＳＩ－02Po１出土状況
ＳＩ－02Po７出土状況
図版7　ＳＩ－02炭出土状況
ＳＩ－02漏量風景
ＳＩ－03完掘状況

図版 8　ＳＩ－04炭出土状況
ＳＩ－04・05土層断面
ＳＩ－04・05完掘状況
図版 9　ＳＢ－01完掘状況
ＳＢ－02完掘状況
ＳＢ－03完掘状況
ＳＢ－04完掘状況
図版10　ＳＫ－02土層断面
ＳＫ－03・07遺物出土状況
ＳＫ－04土層断面
図版11　ＳＫ－09土層断面
ＳＫ－09遺物出土状況（１）
ＳＫ－09遺物出土状況（２）
図版12　ＳＫ－10土層断面
ＳＫ－12遺物出土状況（１）
ＳＫ－12遺物出土状況（２）
図版13　ＳＫ－15完掘状況
ＳＫ－20・21・23完掘状況
ＳＫ－22・24完掘状況
図版14　ＳＩ－02出土遺物（１）
図版15　ＳＩ－02出土遺物（２）
ＳＩ－03出土遺物
ＳＩ－04出土遺物（１）
図版16　ＳＩ－04出土遺物（２）
ＳＩ－05出土遺物
ＳＫ－01出土遺物
ＳＫ－03出土遺物
ＳＫ－04出土遺物
図版17　ＳＫ－08出土遺物
ＳＫ－09出土遺物
図版18　ＳＫ－10出土遺物
ＳＫ－12出土遺物
ＳＫ－13出土遺物
ＳＫ－15出土遺物
ＳＫ－16出土遺物
ＳＫ－19出土遺物
図版19　ＳＫ－20出土遺物
ＳＫ－21出土遺物
ＳＫ－22出土遺物
ＳＫ－24出土遺物
図版20　遺構外出土遺物

第１章　調査の経緯

第１節　発掘調査に至る経緯

鳥取県では、「全県の公園化の推進」を重点施策の一つに掲げており、この全県的・総合的な景観整備・快適空間づくりの基本的な指針となる「鳥取県全県公園化構想」において拠点的施設として位置づけられたのがフラワーパークである。このフラワーパーク建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査が県フラワーパーク関係埋蔵文化財調査事務所によって実施された。

会見町・岸本町・溝口町の３町にまたがるフラワーパーク建設予定地域は、丘陵状の地形が続き平野部の少ない所であるが、グリーンパークゴルフ場建設に伴い調査された越敷山遺跡群では弥生時代の中期から後期の竪穴住居跡が百棟以上検出されており、丘陵麓付近には越敷山古墳群などの多くの古墳群が集中する地域である。そこで、フラワーパーク建設工事に先立って予定地内の遺跡・遺構の有無を確認する必要性が生じた。そのため、平成５年度に会見町・岸本町・溝口町の各教育委員会によって試掘調査が実施された。その結果、いくつかのトレンチから竪穴住居跡や土坑・ピットなどが検出され、遺跡の存在が予想されることとなった。岸本町・溝口町域内部分については遺跡を破壊しない形に計画が変更になり、掘削が避けられない会見町域内部分について発掘調査が実施されることになり、財団法人鳥取県教育文化財団が記録保存のための調査の委託を受け、県フラワーパーク関係埋蔵文化財調査事務所が調査を担当することとなった。調査予定地は総計で9051㎡、期間は平成６年４月～平成７年３月までと予定された。

第２節　調査の経過と方法

調査地は鶴田東山遺跡と鶴田合清水遺跡の２ヶ所あり、鶴田東山遺跡から調査を実施していく予定であった。

発掘調査は４月11日より開始した。しかし、地上耕作物の補償・移植が完了しておらず、当初予定していたような全面的な調査の開始は出来なかった。そこで、補償が完了しており調査に着手出来る箇所から順次開始していくことにした。調査地は耕作者の反対のために試掘トレンチがあまり入れられていなかったため、土層確認と遺構の広がりをつかむためにトレンチを設定し掘り下げた。

地上耕作物の補償・移植が完了後、４月20日から重機を使用して表土剝ぎを行った。表土剝ぎ終了後株式会社ウエスコに委託して国土座標に載るように10mグリッドを設定するための基準杭を打った。この基準杭を基にして鶴田東山遺跡を南北軸は１～11、東西軸はA～Hに区画した。A－１グリッドの北西交点は（X＝－72,250、Y＝－82,240）であり、H－11グリッド北西交点が（X＝－72,350、Y＝－82,170）となる。検出した遺構は土坑３基とピットである。調査は５月24日に終了した。

鶴田東山遺跡の調査終了に引続いて鶴田合清水遺跡の調査に着手した。鶴田合清水遺跡も植樹されていた牡丹の移植が終わっていなかったため全面的な調査の開始は出来なかった。そこで、牡丹に影響のない箇所にトレンチを設定し掘り下げた。

重機による表土剝ぎの開始は５月25日である。表土剝ぎ終了後、鶴田東山遺跡の基準杭に対応するグリッドを設定し、鶴田合清水遺跡を南北軸は９～26、東西軸はM～Sに区画した。検出した遺構は竪穴住居跡５棟、掘立柱建物跡５棟、土坑24基、ピットなどである。

調査は、雨の日がほとんどなかったため順調に進み、８月の半ばにはほぼ目処がつく状態となった。そこで、８月20日に現地説明会を実施した。調査地は交通の不便な場所にも係わらず約60名の見学者があった。調査は９月20日に終了した。

第3節　調査体制

調査は、鳥取県教育委員会・鳥取県埋蔵文化財センターの指導・助言のもと、下記の体制で実施された。

○調査主体　財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	西尾邑次（鳥取県知事）
副理事長兼常務理事	入江圭司
事務局長	若松良雄

財団法人鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター

所長	大和谷朝（鳥取県教育委員会文化課長）
次長	八木谷昇
調査指導係長	田中弘道（鳥取県埋蔵文化財センター次長）
文化財主事	久保穣二朗
	長岡充展
	山枡雅美
庶務係長	梅山昭美（鳥取県埋蔵文化財センター庶務係長）
主任事務職員	橋崎康春
事務	福田妙子

○調査担当　財団法人鳥取県教育文化財団　県フラワーパーク関係埋蔵文化財調査事務所

所長	後藤篤治
主任調査員	西川徹
調査員	松林隆裕
整理員	杉田千津子

○調査協力　会見町教育委員会　溝口町教育委員会

下記の方々に発掘調査作業員・整理作業員として協力いただいた。記して謝意を表したい。

発掘作業参加者

安藤伸一	入沢沢子	遠藤傳	遠藤万須美	大柄勲	
沢田富士子	妹尾貴美江	宅野茂	中橋智明	西川朝子	
西脇りよ	野口勝子	野口公男	野口キヨノ	野口辰枝	
野口文恵	野口ほなみ	野口百合子	野口律子	野口律子	
秦美香	幅田延	林原達枝	矢田貝孝雄	山科牧子	

（敬称略、五十音順）

整理作業参加者

小山菜穂子	左藤博	清水房子	山本清子	山本博子

（敬称略、五十音順）

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

鳥取県

鳥取県は、本州の西部、中国地方の北東部に位置する。東は兵庫県、西は島根県、南は岡山県・広島県とそれぞれ接し、北は日本海に面している。中国地方は、標高1200mを越える山々を擁する中国山地を隔てて、瀬戸内海に面する山陽地方と、日本海に面する山陰地方に分けられ、特に冬季の気候環境に大きな違いがみられる。晴れの日が多く雪のほとんど降らない山陽地方に対し、山陰地方では、どんよりとした曇り空が続き雪がかなり積もる。鳥取県は、このような山陰地方に属している。

鳥取県の県域は、東西 126㎞、南北 61.85㎞、面積3,506.96㎢で、日本全体の約１％を占める。県内は、鳥取市周辺を中心とする東部地域、倉吉市周辺を中心とする中部地域、米子市・境港市周辺を中心とする西部地域に分けられる。各地域とも地勢は山がちであり、山地が県総面積の86.3％を占める。それぞれの地域には、県下を代表する三大河川である千代川（東部）、天神川（中部）、日野川（西部）が流れ、その下流域には、鳥取平野（東部）、倉吉・北条・羽合平野（中部）、米子平野（西部）が発達している。各平野の海岸線には、全国的にも有名な鳥取砂丘をはじめとして、河川によって運ばれた多量の砂により大小の砂丘・砂州が発達している。

人々の生活領域は、山間の谷奥平野と海岸に開けた沖積平野に展開している。鳥取平野には、鳥取池田藩三十二万石の城下町として発達してきた鳥取市が位置し、現在県庁所在地となっている。天神川中流域には、伯耆国の国府が置かれていた倉吉市が位置している。米子平野には、「山陰の商都」と呼ばれ商業の町として発展してきた米子市が位置し、現在も交通の要所として発展している。米子市の北西に延びる弓が浜半島の突端部には、国内有数の漁業基地である境港市が位置している。

現在鳥取県は、前述した４市を中心として39市町村により構成されている。人口は、615,754人（平成７年１月１日現在）である。

挿図１　遺跡位置図

会見町

会見町は、鳥取県の最西端にある西伯郡の西部に位置し、東は岸本町、西は西伯町、南は日野郡溝口町、北は米子市に接している。東・西・南の三方を、手間山・滝ケ谷山・葉津山・高塚山・越敷山などの標高200～300m級の低い山地に囲まれ、南部の山々を源とする小松谷川や同川支流朝鍋川が町の中央部を北流して沖積平野を形成している。現在当町の基幹産業は農業であるが、商工業の振興策も図られてきている。主要道路が町内北部で交錯しており、周辺市町村との交通は便利である。また、諸木・天万地区には住宅用地が造成されて、米子市近郊住宅地区としての役割を果たしている。同町は、面積 30.95㎢、人口は 4,126人（平成７年２月１日現在）である。

溝口町

溝口町は、日野郡の北部、大山山麓の南西部に位置し、東は西伯郡大山町と江府町、南は日野町、西は西伯郡西伯町・会見町、北は同郡岸本町に接している。地形をみると、大山山麓の扇状台地が日野川の右岸平地に傾斜し、同川左岸は支流野上川の侵食による花崗岩地帯で、山地は急傾斜、谷底は段丘崖が形成されている。この日野川は、町域を東西に二分するようにほぼ北流している。町域面積のうち山林・原野が79.2%、耕地 9.7%、宅地 1.2%（平成２年度調べ）である。日野川沿い及び野上川沿いは、山陰・山陽を結ぶ交通上の要路にあたり文化の交流地でもあった。現在は、日野川右岸沿いを国道 181号とＪＲ伯備線が並行して走り、米子自動車道の溝口インターチェンジが町域北端にある。近年、交通事情の改善によって、観光開発や企業誘致が図られている。また、大山南西麓一帯から町域北東端部は大山隠岐国立公園に含まれている。同町は、面積100.36㎢、人口は5,761人（平成７年２月１日現在）である。

調査地域

調査地域は、会見町・溝口町・岸本町３町の境界部付近にあたり、高塚山北東麓、日野川左岸の山稜台地上に位置する。東端は急斜面の崖で、崖下を日野川が北流している。調査地の標高は 190m前後であり、日野川沿いの水田部とは比高差がおよそ120m存在する。調査地は主要地方道溝口伯太線沿いの鶴田部落より東へ0.8kmほど進んだ山林の中にあり、周辺一帯は耕作地や植林地として利用されている。

第２節　歴史的環境

旧石器時代　会見町・岸本町・溝口町域に限らず、鳥取県内には旧石器時代の遺構とされるものは確認されていないが、大山山麓一帯を中心としていくつかの旧石器が発見されている。淀江町小波出土の東山・杉久保型系統の黒曜石製ナイフ型石器、米子市泉中峰遺跡出土の玉髄製ナイフ型石器、溝口町長山馬籠遺跡(50)出土の細石刃様の石器などが発見されている。旧石器時代～縄文時代草創期とされる有舌尖頭器は、黒曜石製のものが淀江町中西尾から、サヌカイト製のものが米子市奈喜良遺跡・会見町諸木遺跡(1)・岸本町貝田原遺跡(41)・江府町山神脇遺跡などでも発見されている。

縄文時代　鳥取県内から草創期の土器は発見されていない。しかし、大山山麓の縁辺部で有舌尖頭器が出土していることを考えると、今後この時代の遺構・遺物が大山山麓を中心に発見される可能性は高い。

早期になると大山山麓を中心に押型文土器を伴う遺跡が発見されている。米子市の上福万遺跡では多くの土坑や配石墓と考えられる集石が発見されている。土器や石器も多く出土しており、早期の拠点的な遺跡となっている。尾高御建山遺跡や泉前田遺跡からも若干の押型文土器が出土している。また、溝口町の井後草里遺跡では県内では珍しい燃糸文を施した尖り底の深鉢が出土した。

前期になると遺跡も増えてくる。前期から中期を中心とする米子市の目久美遺跡からはドングリを蓄えた多くの貯蔵穴が検出されている。陰田遺跡からは人為的な痕跡の残る多くの獣骨が出土している。溝口町の長山馬籠遺跡(50)では多くの土坑や集石とともに県内では出土例の少ない竪穴住居跡が検出されており、近接する下山南通遺跡(63)からも土坑や集石が見つかった。

中期の遺跡としては岸本町の林ヶ原遺跡(47)で遺体を土器片で覆った土壙墓が見つかっている。

後期から晩期には米子市の青木遺跡から 200基以上の落し穴が検出された。淀江町の井手跨遺跡は河川跡を中心とする遺跡であるが、多くの土器に混じって西日本では類例の少ない２個の朱漆塗りの結歯式櫛や木胎耳栓が出土し注目される。会見町では田住地区の圃場整備に際して晩期の土器に伴って山陰地方で唯一の人面装飾付土器が出土している。溝口町では井後草里遺跡から貯蔵穴や炉跡が見つかっている。

弥生時代　弥生時代になると遺跡の数も多くなる。

前期の遺跡には、米子市の目久美遺跡や会見町の諸木遺跡(１)が挙げられる。目久美遺跡は前期から中期にかけての低湿地遺跡であり、３層の水田跡と多くの木製農具が見つかった。諸木遺跡(１)では全体が明らかではないが幅１～２ｍの溝による環濠らしき遺構が検出されている。

中期には米子市の青木遺跡や福市遺跡、淀江町の角田遺跡・福岡遺跡、会見町の天王原遺跡(10)・越敷山遺跡(６)、岸本町の貝田原遺跡(41)・林ヶ原遺跡(47)、溝口町の下山南通遺跡(63)・長山馬籠遺跡(50)などが現れる。青木遺跡・福市遺跡は後期以降も続く大規模集落である。角田遺跡からは建物や船などを描いた線刻土器が出土した。福岡遺跡からは 200基以上の粘土採掘坑が見つかった。天王原遺跡(10)や越敷山遺跡(６)では多くの竪穴住居跡や土坑が見つかった。貝田原遺跡(41)・林ヶ原遺跡(47)・下山南通遺跡(63)・長山馬籠遺跡(50)などでは数棟から十数棟の竪穴住居跡などが検出されている。

後期には米子市の池ノ内遺跡・陰田第１遺跡・尾高浅山遺跡などがある。池ノ内遺跡からは古墳時代後期までの５面の水田層が検出された。尾高浅山遺跡は一部３重の環濠がめぐる集落と四隅突出型墳丘墓が近接して存在する遺跡である。尾高浅山遺跡のそばには四隅突出型墳丘墓を含む弥生から古墳時代の墳墓群の出土した日下遺跡がある。

古墳時代　会見町・岸本町・溝口町域における前期古墳の様相は明確でない。

前期古墳としては会見町の普段寺１・２号墳が特筆される。普段寺１号墳は墳長約23ｍの小型の前方後方墳である。正式な調査は行われていないが三角縁唐草文帯二神二獣鏡が出土したことが知られている。また、１辺約21ｍの方墳である普段寺２号墳からも三角縁四神四獣鏡が出土しており、両古墳とも規模はあまり大きくないものの西伯耆において大きな勢力を持った首長であった事がわかる。

中期段階になると会見町の三崎殿山古墳・後塚山古墳（2）、岸本町の吉定１号墳(42)などが造営される。三崎殿山古墳は全長約 108ｍを測り、県下でも屈指の規模を誇る前方後円墳である。埋葬主体などは不明であるが円筒埴輪が採集されている。後塚山古墳(2)は全長約55ｍの前方後円墳である。埋葬主体などは不明であるが円筒埴輪や２個体分の人物埴輪などが出土している。吉定１号墳(42)は径約10ｍの円墳である。左片袖式の横穴式石室は割石小口積みであり、横穴式石室受容期を考えるうえで重要な古墳である。

後期になると多くの群集墳が形成される。会見町の朝金古墳群(11)・井上古墳群(12)、岸本町の坂長古墳群(23)・越敷山古墳群(30)・岸本古墳群(35)、溝口町の宮原古墳群(62)・長山古墳群(65)などである。これらの古墳群に属する古墳は径が10ｍ前後の小規模なものがほとんどであり、６～７世紀にかけて築造されたと考えられる。

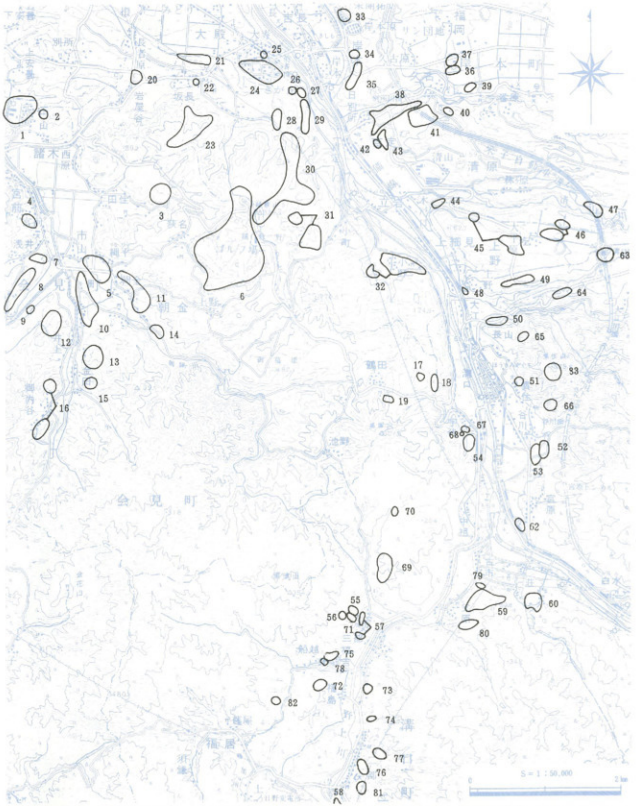
歴史時代　律令制の施行によって、現在の鳥取県域は西側の伯耆国と東側の因幡国という２つの国に編成される。伯耆国は６郡よりなるが、現在の会見町・岸本町・溝口町域は会見郡から日野郡にかけてに該当する。会見郡衙は、圃場整備に伴って調査が行われ掘立柱建物と炭化米が見つかった岸本町の長者屋敷遺跡(20)であろうと考えられている。日野郡の郡衙と思われる遺跡は見つかっていない。

白鳳時代になると寺院の建立が始まる。会見町内でこの時期の寺院跡は見つかっていないが、金田瓦窯跡でかつて大寺廃寺(25)創建時の軒丸瓦と軒平瓦が出土したと言われており、大寺廃寺(25)創建に際して瓦が焼かれていたものと考えられる。岸本町内には白鳳時代の大寺廃寺(25)、奈良時代の坂中廃寺(22)がある。大寺廃寺(25)の伽藍配置は変形の法起寺式で塔心礎はいわゆる三重孔の心礎であり、山陰地方では唯一の例である。なお、全国で２例しか出土していない石製鵄尾が残っており重要文化財に指定されている。淀江町の上淀廃寺は、最近の調査により彩色壁画片が出土した。白鳳期の彩色仏教壁画は法隆寺金堂壁画に次いで２例目であり、発掘調査によって出土したのは初めてである。さらに、伽藍配置では南北に瓦積基壇が近接して２塔並び、その北側にも基壇はないがもう１つの心礎が見つかり、３つの塔心礎が南北に並ぶ特異な伽藍配置をしていたことが明らかとなった。

中世城館としては、米子市尾高城、会見町の小松城(15)、岸本町の岸本要害(34)、溝口町の谷川城(52)・矢倉要害(66)・野上城(71)・福島城(72)・二部城(76)・古寺生松城(77)・外構城(78)などが文献に現れる。米子市尾高地域は山陰道と山陽側に抜ける日野道との分岐点に位置し、伯耆西部の交通・流通の要衝であったため、尾高城の争奪をかけて尼子・毛利両氏が幾度もの激戦を繰り広げた。尾高城は、大山山麓の入り組んだ谷と丘陵を巧みに利用し、空堀と土塁で守られた８つの主要な郭を連ねる構造である。これに対し、会見町や溝口町内にあったとされる城とは砦の様なものであったと考えられているが、未だその性格や正確な位置は特定されてはおらず不明な点が多い。

江戸時代になると、吉川広家によって築城が始められていた米子城を中村一忠が完成させ、1601年米子城に中村一忠が移ると尾高城は廃城となる。その後、米子城は鳥取藩の支城として存続したが、明治になって廃城となった。

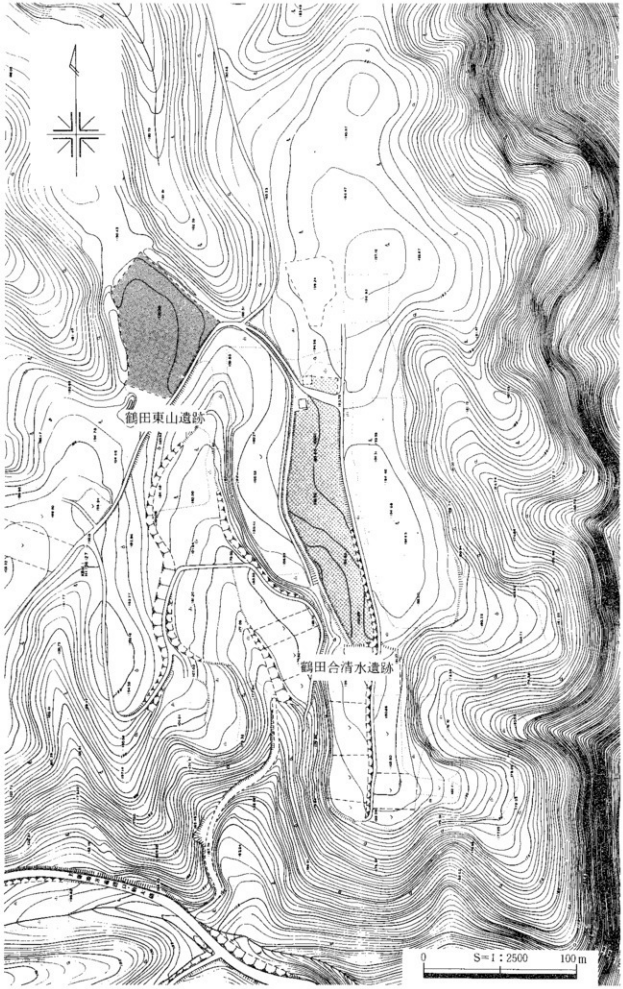
本地域周辺は、明治９年に島根県に編入されたが、明治14年には鳥取県に再編入されて現在に至っている。



1．諸木遺跡　2．狭裕山古墳　3．田住古墳群　4．宮前遺跡　5．口朝金遺跡　6．越敷山遺跡群　7．銭井上屋敷遺跡
8．高姫古墳群　9．高姫根小松遺跡　10．天王原遺跡　11．朝金古墳群　12．井上古墳群　13．金田古墳群　14．朝金小チヤ遺跡
15．小松城　16．御内谷古墳群　17．鶴田東山遺跡　18．鶴田荒神ノ峯遺跡　19．鶴田荒神ノ峯遺跡　20．長者屋敷遺跡　21．長者原古墳群
22．坂中廻寺　23．鼠兵古墳群　24．越敷が丘遺跡　25．大寺廻寺　26．大寺原遺跡　27．越敷野原遺跡　28．伯楽塚古墳群
29．越敷野原古墳群　30．越敷山古墳群　31．小町所在遺跡群　32．小野所在遺跡群　33．岸本遺跡　34．岸本要害　35．岸本古墳群
36．久古北田山遺跡　37．長塚原古墳群　38．久古第３遺跡　39．雲原第１遺跡　40．久古古墳群　41．長田原遺跡　42．宗定古墳群
43．口剖所古墳群　44．大平古墳群　45．大平原第１遺跡　46．大平原第２遺跡　47．林ケ原遺跡　48．上野貝塚遺跡　49．竹原遺跡
50．長山馬場遺跡　51．長山第２遺跡　52．谷川城　53．谷川遺跡　54．代遺跡　55．中山遺跡　56．長畑寺谷遺跡
57．三部道の下遺跡　58．宮の鼻遺跡　59．南郷寺遺跡　60．長嶋の前遺跡　61．宮原遺跡　62．宮原古墳群　63．下山南遺遺跡
64．川平遺跡　65．長山古墳群　66．矢倉要害　67．平代１号墳　68．平代１号墳　69．中ノ平古墳群　70．三部野遺跡
71．野上城　72．堀島城　73．北谷遺跡　74．代ノ原遺跡　75．山下遺跡　76．二部城　77．古寺生松城
78．外構城　79．下大赤根遺跡　80．父原古墳群　81．二部上ヒ要害　82．福居遺跡　83．鬼住山城

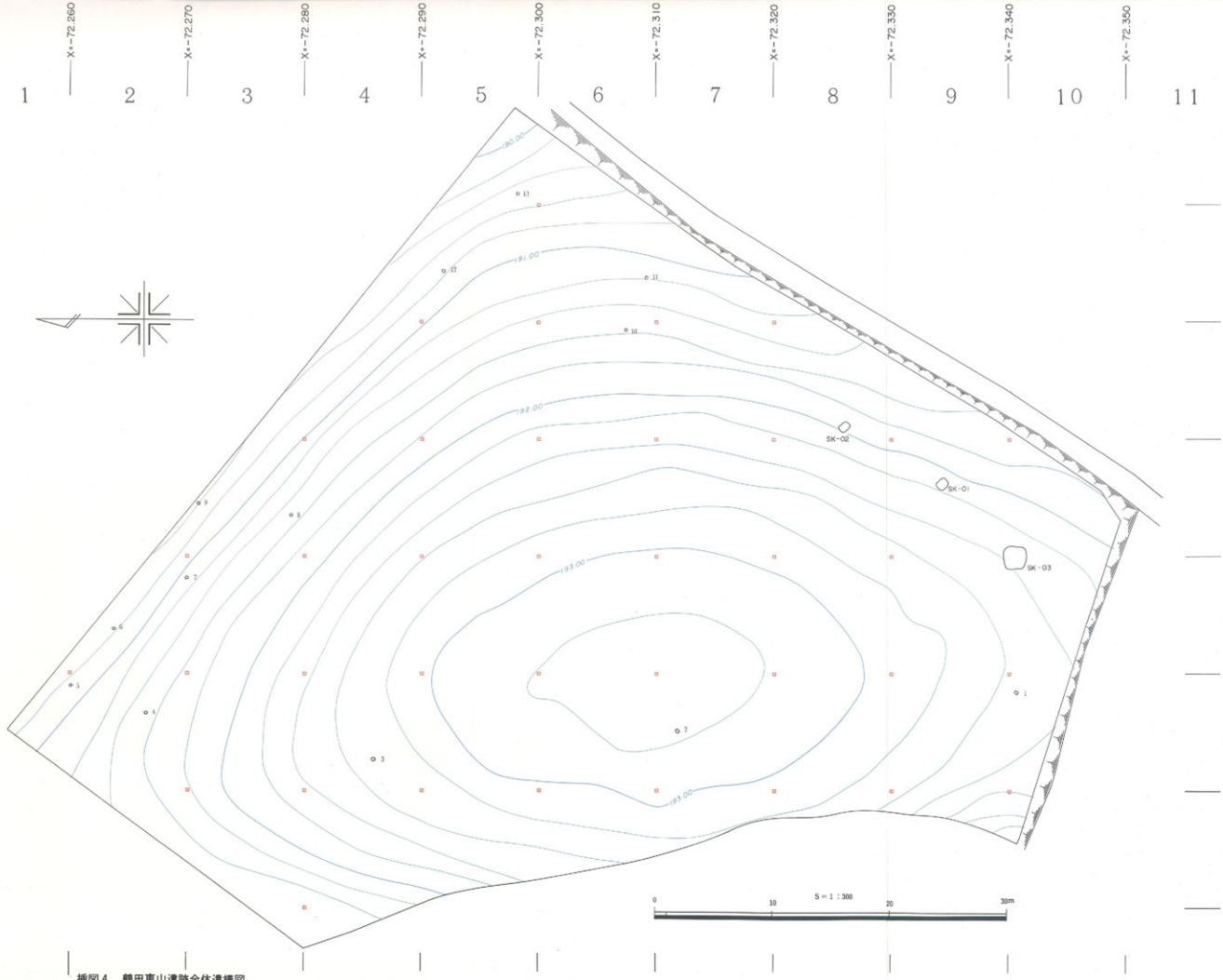
（参考文献）　鳥取県教育委員会「会見町・岸本町・溝口町遺跡分布地図」1994年
鳥取県教育委員会「会見町・岸本町・溝口町遺跡調査カード」1994年
会見町教育委員会「天王原遺跡発掘調査報告書」1993年
財団法人鳥取県教育文化財団「久古第３遺跡・長田原遺跡・林ケ原遺跡発掘調査報告書」1984年
溝口町教育委員会「長山馬場遺跡」1989年

挿図２　周辺遺跡分布図



挿図３　遺跡周辺地形図

鶴田東山遺跡



挿図4　鶴田東山遺跡全体遺構図

第3章　鶴田東山遺跡の調査

第1節　土坑

ＳＫ－01（挿図5　図版3）

位　置　調査地の南東部、Ｅ－9グリッドのほぼ中央部にあたり、緩やかに南東側に向けて地形が下がっていく標高 192.2m付近に位置する。

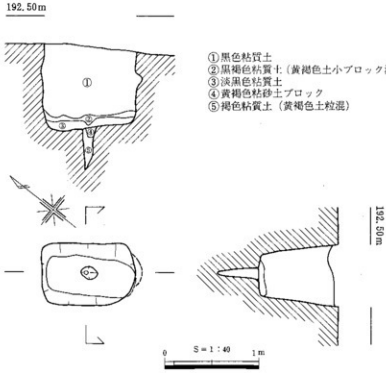
形　態　平面形は、検出面・底面ともに長方形を呈し、断面形も長方形である。規模は、検出面で長軸1.00m×短軸0.66m、底面で長軸0.96m×短軸0.40m、残存する部分の底面までの最大の深さは、0.94mを測る。底面よりピットを検出した。その規模は検出面で長軸0.17m×短軸0.13m、深さ0.47mを測る。

埋　土　埋土は5層に分層できる。基本となる土は黒色粘質土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。



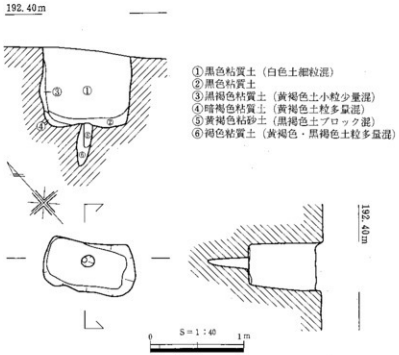
挿図5　ＳＫ－０１遺構図

ＳＫ－02（挿図6　図版3）

位　置　調査地の南東部、Ｆ－8グリッドの西側で、緩やかに南東側に向けて地形が下がっていく標高 192.0m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともに長方形を呈し、断面形も長方形である。規模は、検出面で長軸0.99m×短軸0.50m、底面で長軸0.82m×短軸0.43m、残存する部分の底面までの最大の深さは0.86mを測る。底面よりピットを検出した。その規模は検出面で長軸0.14m×短軸0.12m、深さ0.45mを測る。

埋　土　埋土は6層に分層できる。基本となる土は黒色粘質土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。
遺　物　遺物は出土しなかった。
時　期　特定できない。
性　格　底面ピットの存在より落し穴と推測する。

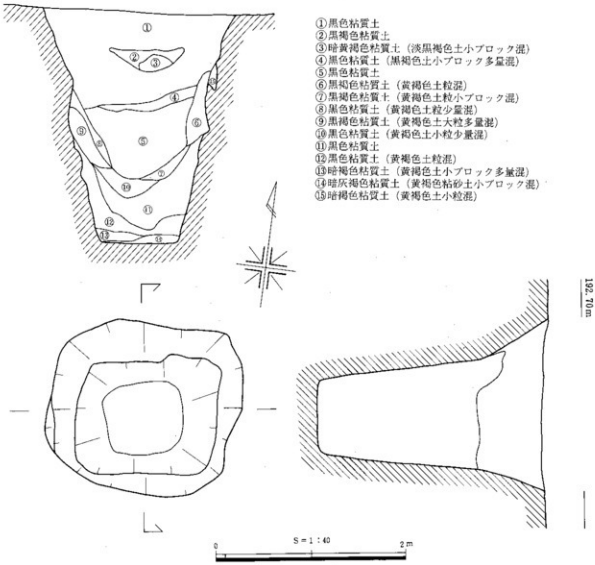


挿図6　ＳＫ－０２遺構図

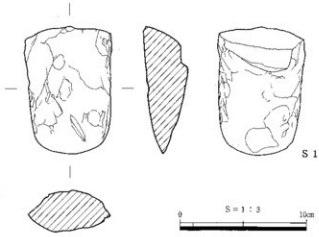
ＳＫ－03（挿図7　図版3）
位　置　調査地の南部、Ｄ・Ｅ－10グリッドの北で、緩やかに南東側に向けて地形が下がっていく標高 192.4m付近に位置する。
形　態　平面形は、検出面・底面ともに方形を呈し、断面形は逆台形である。規模は、検出面で長軸2.00m×短軸1.80m、底面で長軸0.83m×短軸0.77m、残存する部分の底面までの最大の深さは2.50mを測る。底面にピットは存在しない。
埋　土　埋土は15層に分層できる。基本となる土は黒色粘質土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。
遺　物　遺物は出土しなかった。
時　期　特定できない。
性　格　周囲の土坑との埋土の比較から落し穴と推測する。

第２節　ピット

調査地内より計13個のピットを検出した。ピット間に規則性を見いだすことはできないが、調査地内は畑地造成に伴う破壊を受けていることを考えれば、本来は数も多く、掘立柱建物等の遺構に伴うものだった可能性もあるが、現状ではその性格を推測することはできない。



挿図7　ＳＫ－０３遺構図



挿図8　鶴田東山遺跡遺物実測図

挿表1　土坑一覧表

遺構名	挿図番号	図版番号	グリッド	平面形	規模（長軸－短軸）cm 検出面	規模（長軸－短軸）cm 底面	深さ(cm)	長軸方向	遺物	備考
SK-01	5	3	E-9	長方形	100-66	96-40	94	N-37°W		
SK-02	6	3	F-8	長方形	99-50	82-43	86	N-32°W		
SK-03	7	3	D・E－10	方形	200-180	83-77	250	N-87°-W		

挿表2　ピット一覧表

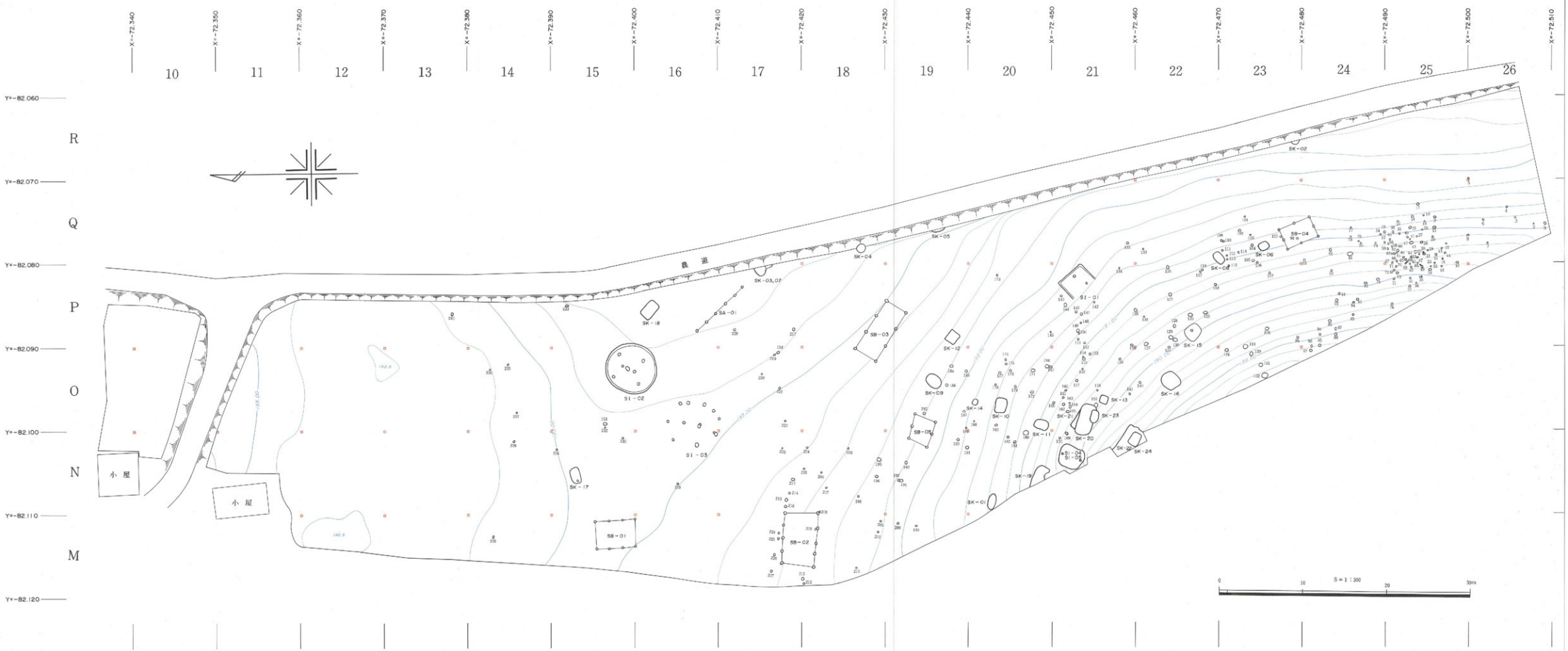
柱穴番号	規模（cm） 長径×短径	規模（cm） 深さ	海抜190mを基準とした高さ(m)	層	土色・土質	柱根有無	遺物	備考
1	35.6×31.9	14.7	2.412			×		
2	31.0×26.0	20.0	3.021			×		
3	21.5×19.5	41.5	2.283			×		
4	34.0×29.1	31.0	1.161			×		
5	21.8×21.5	17.6	0.719			×		
6	23.5×23.0	9.1	0.742			×		
7	15.0×15.0	7.3	1.059			×		
8	23.0×19.0	9.7	1.325			×		
9	31.0×25.0	14.0	0.554			×		
10	18.8×18.5	19.2	1.383			×		
11	25.0×22.1	5.6	1.115			×		
12	23.5×20.5	27.2	0.492			×		
13	28.0×24.0	33.0	0.139			×		

※　標高は高さ欄の数値に190mを加えたもの
（例）標高192.123m　　：192.123-190＝2.123…欄数字

挿表3　石器観察表　　（　）残存値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	調整	備考
S1	8	3	1	表土剥ぎ中	磨製石斧	安山岩質中生代火山砕屑岩	(10.2)	7.0	3.4	(306)		S－44

鶴田合清水遺跡



挿図9　鶴田合清水遺跡全体遺構図

第4章　鶴田合清水遺跡の調査

第1節　竪穴住居跡

ＳＩ－01（挿図10　図版4）

位　置　調査地のほぼ中央部、Ｐ－21グリッドの北東寄りで南西に向けて下がっていく標高 191.9m付近に位置する。

形　態　畑地造成に伴う破壊のため、上部および南西側を削平されて残っていないが、残存部から推測して平面形は方形を呈するものと考える。規模は北西－南東方向は3.55m、北東－南西方向は残存部で 2.6mを測る。残存壁高は最も残りの良い北東壁で最大 0.2mを測る。

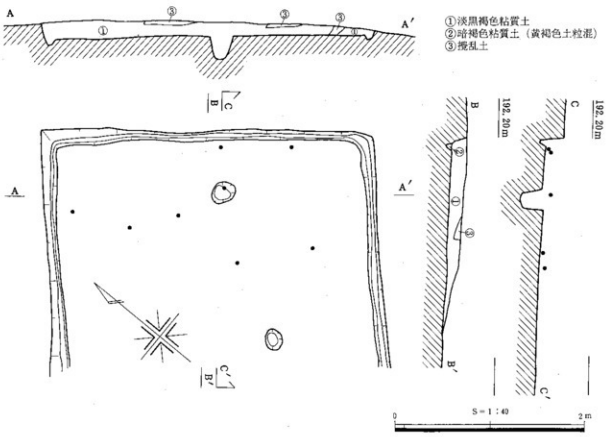
壁溝は、南西側が残っていないものの残る3方で検出できた。側壁に沿うように位置し、幅0.05m～0.20m、深さ約0.07mを測り、断面形はほぼ逆台形を呈する。

主柱穴と考えられる穴は検出できなかった。

埋　土　埋土は3層に分層できる。③層は耕作に伴う現代の攪乱層と考えられるので、遺構に伴う埋土は2層となるが、②層は側溝の一部でのみ認められる埋土であり、①層の淡黒褐色粘質土で埋まっていたと言える。残存部が少なく明確ではないが、流れ込みによる自然堆積と思われる。

遺　物　出土遺物はすべて胴部の小破片であり図化できたものはない。破片は弥生土器片と考えられる。

時　期　出土土器がすべて弥生土器片と考えられることから、弥生時代と考えられる。



挿図10　ＳＩ－０１遺構図

ＳＩ－02（挿図11～21　図版５・６・７・14・15）

位　置　調査地の北東寄り、Ｏ－15・16グリッドにまたがり、南側に続く緩斜面の頂部の標高 192.3m付近に位置する。南西側には近接した位置にＳＩ－03がある。規模的にも類似するため有機的な関連があったのかもしれない。

形　態　畑地造成に伴う破壊のため上部を削平されている。平面形はほぼ円形であり、規模は長径6.15m、短径5.80mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い所で0.24mを測る。

壁溝は側壁に沿って全周し、幅0.06m～0.13m、深さ0.06m～0.10mを測り、断面形は逆台形および「Ｕ」字状を呈する。

主柱穴はＰ１～Ｐ４の４本であり、それぞれの規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（35×30－99）cm、Ｐ２（35×26－85）cm、Ｐ３（45×34－93）cm、Ｐ４（42×40－88）cmを測る。Ｐ４の底面には柱穴の大きさに河原石を荒ら割り整形した根石が存在した。

主柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順にＰ４～Ｐ１間まで3.1m・2.7m・3.0m・2.7mを測る。

住居の中央部にはＰ５（中央ピット）が位置する。形態は丸みの強い隅丸方形を呈し、規模は長軸0.80m、短軸0.55m、深さ0.16mを測り、断面形は逆台形を呈する。

中央ピットを挟むようにしてＰ６・Ｐ７が存在する。Ｐ６・Ｐ７は中央ピットの長軸ライン上に位置し、中央ピットからの距離もほぼ等しい。規模はＰ６（32×30－58）cm、Ｐ７（32×30－64）cmである。用途は不明である。

Ｐ６・Ｐ７とも柱穴壁が風化してボロボロの状態であった。この状態はＰ１～Ｐ５では認められなかったことから、Ｐ６・Ｐ７は一定期間埋められる事なく放置されていた可能性が考えられる。逆に、中央ピットは掘り上げられた状態での利用ではなく、掘り上げ後まもなく埋め戻された可能性がある。

焼土面　住居内からは３ヶ所の焼土面を検出した。各々の焼土面はＰ１－Ｐ２間、Ｐ２－Ｐ３間、Ｐ４－Ｐ１間のほぼ中央に位置し、中央ピットから見て北・南・西の３方向にあたる。３ヶ所の焼土面が同時に使用されたとは考え難く、西側の焼土面上に石皿と考えられるＳ６が置かれていることから、順次位置を変えて使用されたと考えられる。なお、柱穴間距離の広いＰ３－Ｐ４間に焼土面が認められず土器等の遺存も少ないことから、東側に入り口があったものと考えられる。

埋　土　埋土は26層に分層したが、⑨層は現代の攪乱層であるため実際は25層となる。そのうちで、Ｐ３の⑭・⑰層、Ｐ４の㉓層は柱根の痕跡を表している。

埋土は東から西に向けて堆積しており、自然堆積したものと考えられる。

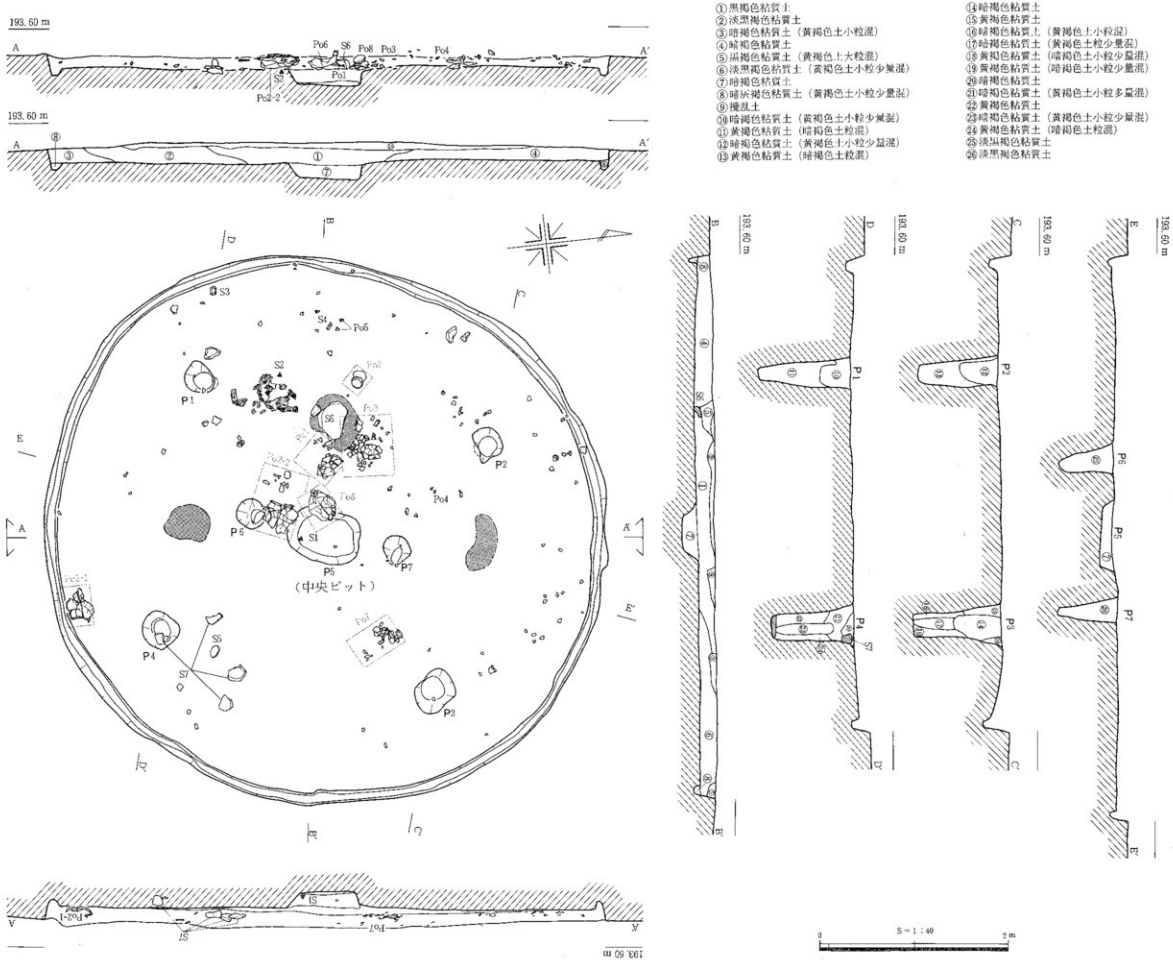
遺　物　出土遺物で図化できたものは、弥生土器の甕Po1～Po4、壺Po6・Po7、脚台付底部Po5、高坏のものと考えられる脚部Po8、石鏃Ｓ１・Ｓ２、刃部を欠損した磨製石斧Ｓ３、砥石Ｓ４、敲石Ｓ５、石皿Ｓ６、台石Ｓ７である。

土器はやや浮いた状態のPo4以外は床面直上から出土した一括遺物である。

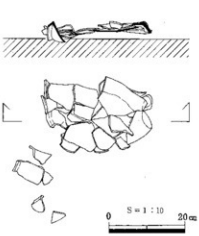
Po1は西側焼土面と中央ピットの間で、Po2は南壁際（Po2－1）と中央ピットとＰ６の間（Po2－2）に分かれて出土した。それぞれは全体のほぼ２分の１ずつが土圧で潰れた状態で出土した。偶然とは考え難く、人為的に土器を割った後に廃棄したのではなかろうか。Po3は西側焼土面の近く、Po4はＰ２とＰ７の間、Po5は西壁際、Po6は中央ピットに一部掛かる位置で、Po7は中央ピットとＰ３の間でそれぞれ出土した。また、Ｓ１が中央ピット内の底面近く、Ｓ２が西側焼土面とＰ１の間に残る炭化材の際から、Ｓ３が南西壁際、Ｓ４が西側焼土面の西側、Ｓ５はＰ４の近く、Ｓ６は西側焼土面の上、Ｓ７はＰ４の近くから４つに割れた状態で出土したが、その内の１つがＰ４の中からみつかった。

Ｐ１と西側焼土面の間を中心に炭化材が出土した。浮いた位置での出土であり混入の可能性もある。

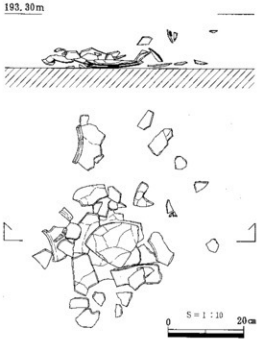
時　期　床面出土遺物から、弥生時代中期後葉のものと考えられる。



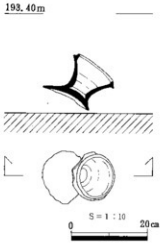
挿図11　ＳＩ－０２遺構図



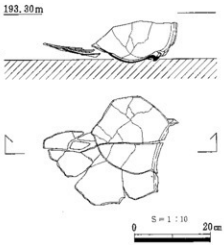
挿図12　Po 1出土状況図



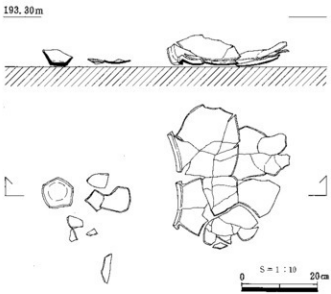
挿図15　Po 3出土状況図



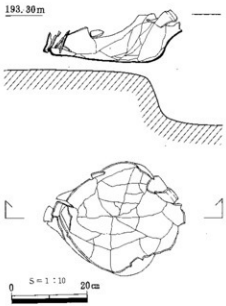
挿図18　Po 8出土状況図



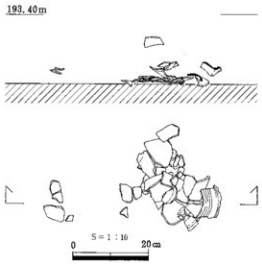
挿図13　Po 2－1出土状況図



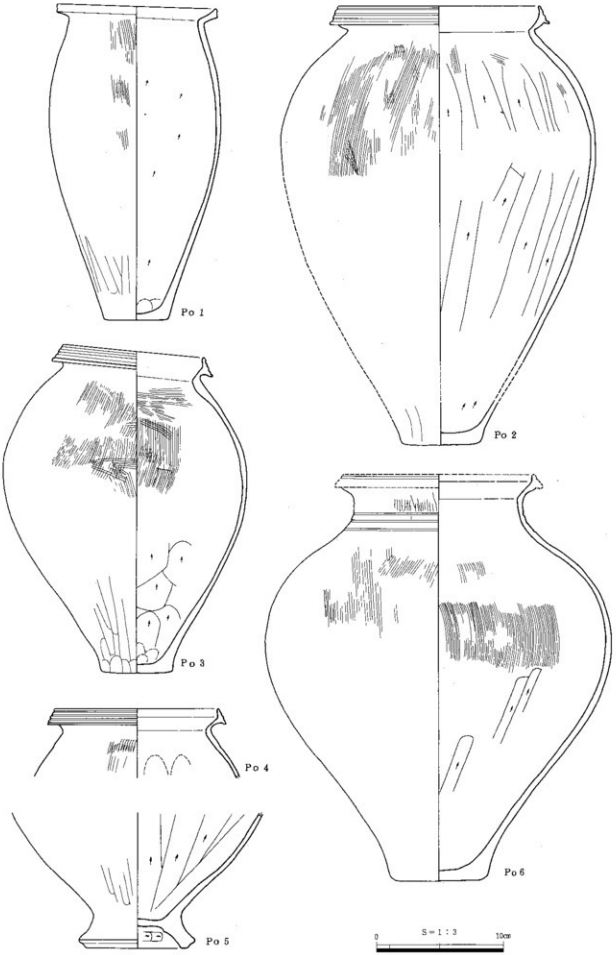
挿図14　Po 2－2出土状況図



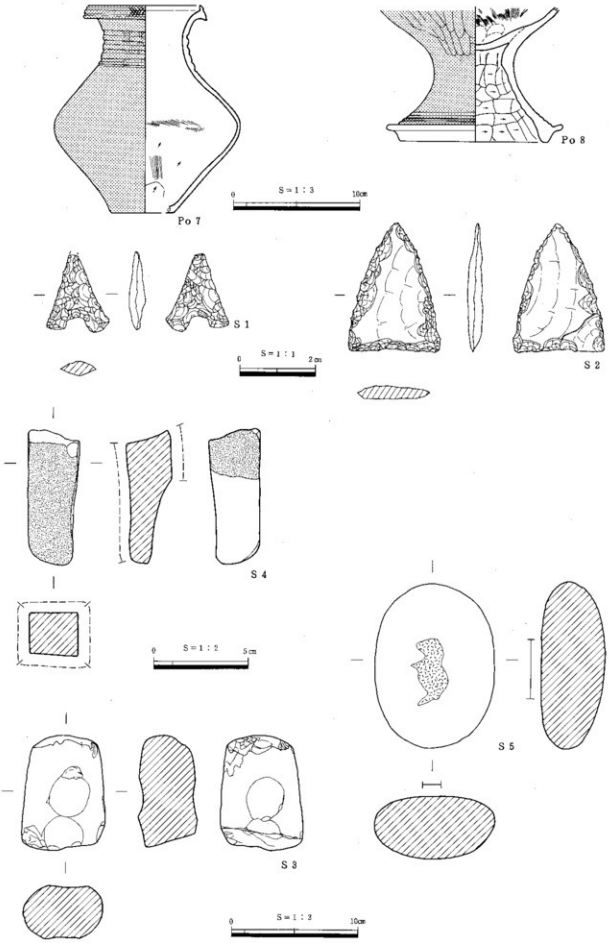
挿図16　Po 6出土状況図



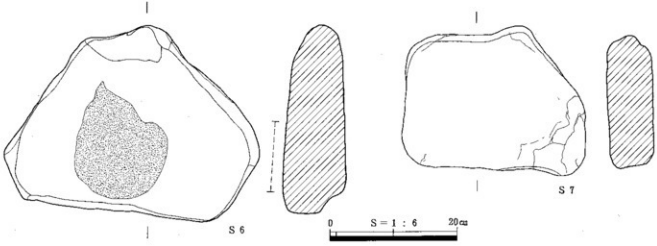
挿図17　Po 7出土状況図



挿図19　ＳＩ－０２遺物実測図(１)



挿図20　ＳＩ－０２遺物実測図(２)



挿図21　ＳＩ－０２遺物実測図（３）

ＳＩ－03（挿図22・23　図版７・15）

位　置　　調査地の北寄り、Ｎ・Ｏ－16グリッドにまたがり、南側に続く緩斜面の頂部の標高 193.1m付近に位置する。北東側には近接した位置にＳＩ－02がある。規模的にも類似するため有機的な関連があったのかもしれない。

形　態　　畑地造成に伴う破壊のため上部を削平されて側壁が残っておらず平面形は不明である。しかし、柱穴が円形状にめぐることから、平面形は円形あるいは多角形を呈すると考えられ、規模はＰ３－Ｐ９の距離から径6.3m以上と考えられる。

壁溝および中央ピットの有無は不明である。

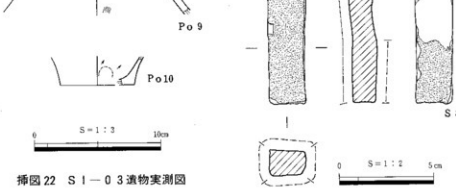
主柱穴はＰ１～Ｐ９の９本と考えられる。それぞれの規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（50×36－49）㎝、Ｐ２（37×36－56）㎝、Ｐ３（30×29－66）㎝、Ｐ４（50×35－82）㎝、Ｐ５（40×35－65）㎝、Ｐ６（50×36－34）㎝、Ｐ７（38×32－48）㎝、Ｐ８（32×30－29）㎝、Ｐ９（44×39－71）㎝を測る。

主柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順にＰ９～Ｐ１間まで3.0m・2.3m・2.3m・1.0m・1.9m・1.3m・1.2m・1.8m・2.7mを測る。

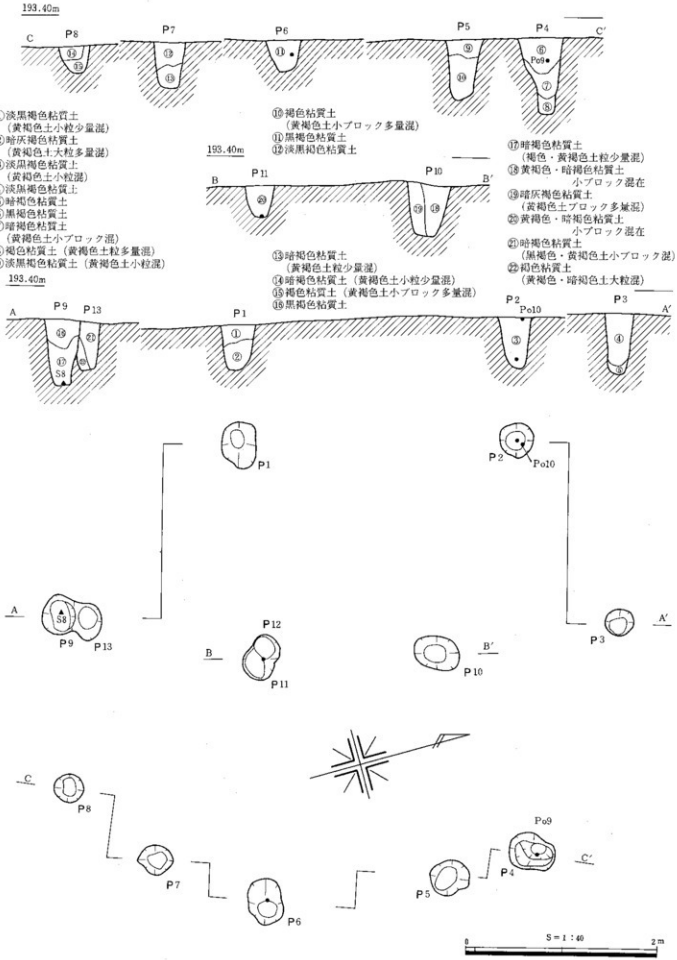
中央部にはＰ10とＰ11がある。規模はＰ10（51×36－55）㎝、Ｐ11（37×30－33）㎝を測る。用途は不明であるが、ＳＩ－02のＰ６・Ｐ７に対応するものであろう。

この他にもＰ９に切られるＰ13、Ｐ11と切り合うＰ12がある。Ｐ８～Ｐ４の主柱穴間距離が狭いことも併せて考えると、Ｐ８～Ｐ４のうちの数本とＰ13・Ｐ12は建て替えに伴う可能性も考えられる。

埋　土　　埋土はすべて柱穴埋土に限られ、Ｐ12を除き22層に分層される。



挿図22　ＳＩ－０３遺物実測図


193.40m
C
P8
P7
P6
P5
P4
C'
Po9
①淡黒褐色粘質土
（黄褐色土小粒少量混）
②暗灰褐色粘質土
（黄褐色土大粒多量混）
③淡黄褐色粘質土
（黄褐色土小粒混）
④淡黒褐色粘質土
⑤暗褐色粘質土
⑥黒褐色粘質土
⑦暗褐色粘質土
（黄褐色土小ブロック混）
⑧褐色粘質土（黄褐色土粒多量混）
⑨淡黒褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
⑩褐色粘質土
（黄褐色土小ブロック多量混）
⑪黒褐色粘質土
⑫淡黒褐色粘質土
193.40m
B
P11
P10
B'
⑬暗褐色粘質土
（黄褐色土粒少量混）
⑭暗褐色粘質土（黄褐色土小粒少量混）
⑮褐色粘質土（黄褐色土小ブロック多量混）
⑯黒褐色粘質土
⑰暗褐色粘質土
（褐色・黄褐色土粒少量混）
⑱黄褐色・暗褐色粘質土
小ブロック混在
⑲暗灰褐色粘質土
（黄褐色土ブロック多量混）
⑳黄褐色・暗褐色粘質土
小ブロック混在
㉑暗褐色粘質土
（黒褐色・黄褐色土小ブロック混）
㉒褐色粘質土
（黄褐色・暗褐色土大粒混）
193.40m
A
P9
P13
P1
P2
Po10
P3
A'
S8
S=1:40
0
2m

挿図23　S！－03遺構図

遺　物　出土遺物で図化できたものは、Ｐ５内から出土した弥生時代の甕Po9、Ｐ７内から出土した底部Po10、Ｐ９内から出土した砥石Ｓ８である。Ｓ８は底面から出土したが、Po9・10は埋土中からの出土である。

時　期　時期決定の資料としては問題もあるが、Po9から考えて弥生時代中期後葉頃であろう。

ＳＩ－04（挿図24・25　図版８・15・16）

位　置　調査地の南西部、Ｎ－21グリッドの北側で南に向けて下っていく標高 190.1m付近に位置する。ＳＩ－04の下のほぼ重なる位置にＳＩ－05がある。

形　態　南側が流失しているために平面形の残りは悪いが、残存する部分から考えて隅丸長方形状を呈すると考えられる。規模は南北が断面から3.04m以上、東西は2.66mを測る。残存壁高は最も残りの良い北壁で最大0.48mを測る。

壁溝の有無はわからないが、断面には壁溝の痕跡は認められない。

主柱穴などのＳＩ－04に伴う柱穴は確認できなかった。

埋　土　埋土は１層のみであり、自然堆積である。

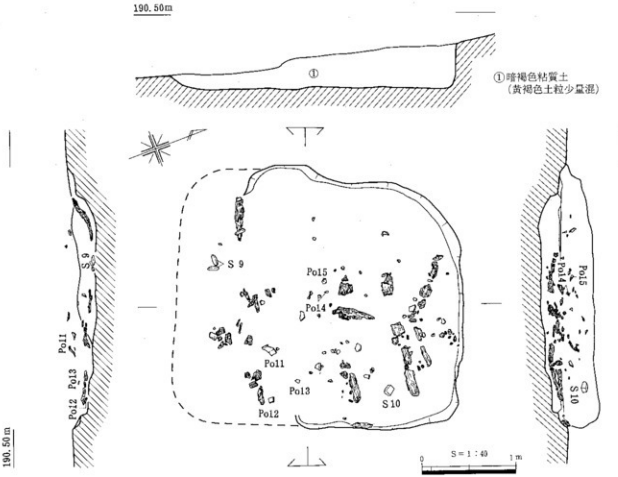
遺　物　出土遺物で図化できたものは、弥生土器の甕Po11、壺Po12、細頸壺Po13・Po14・Po15、磨製石斧Ｓ９、磨石Ｓ10である。

Po13とPo14は直接接合はしないが、色調・調整などから同一個体と考えられる。

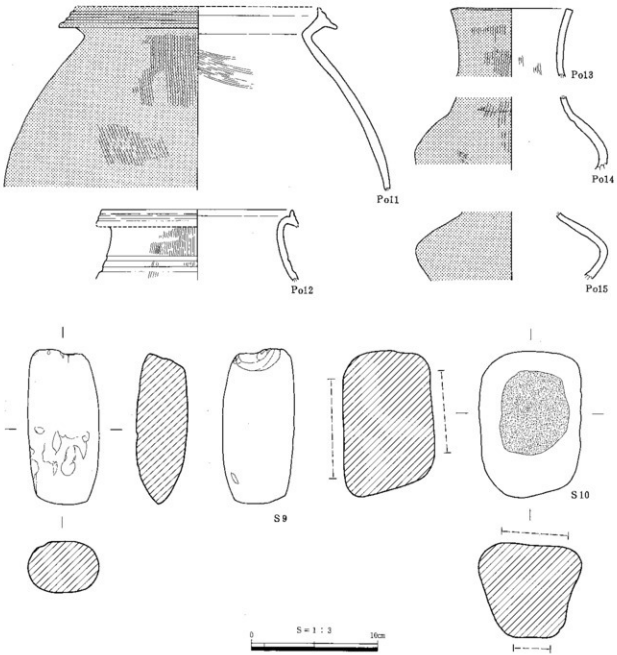
Ｓ９は底面にあたる位置から縦に２つに割れた状態で出土した。その他は浮いた位置での出土である。

底面から壁面にかけて、東西方向の炭化材が出土した。ほぼ底面直上に位置することから、住居の柱材が焼け落ちたものと考えられ、焼失住居であったことがわかる。

時　期　時期決定の資料としては問題もあるが、出土土器から考えて弥生時代中期後葉頃であろう。



挿図24　ＳＩ－０４遺構図



挿図25　ＳＩ－０４遺物実測図

ＳＩ－05（挿図26・27　図版８・16）

位　置　　調査地の南西部、Ｎ－21グリッドの北側で南に向けて下っていく標高 190.1m付近に位置する。ＳＩ－05の上のほぼ重なる位置にＳＩ－04がある。

形　態　　上部をＳＩ－04に削平されているが遺存状態は比較的良く、平面形は隅丸長方形を呈する。規模は南北は3.02m、東西は2.42mを測る。残存壁高は最も残りの良い西壁で最大0.45mを測る。

壁溝・中央ピットは認められない。

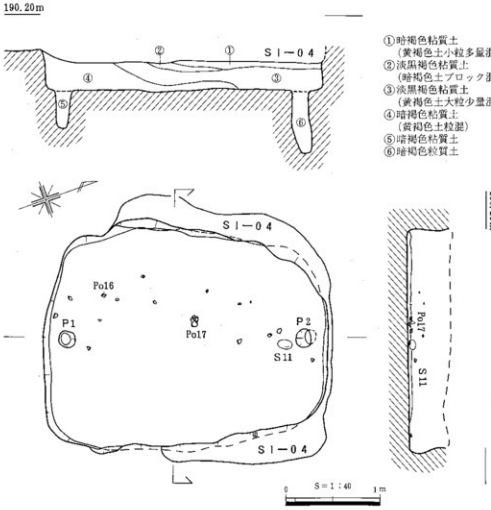
主柱穴はＰ１・Ｐ２の２本と考えられる。それぞれの規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（18×17－39）㎝、Ｐ２（20×16－65）㎝を測る。

主柱穴間距離は 2.5mである。

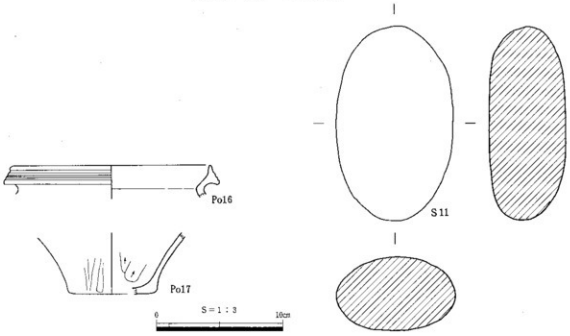
埋　土　　埋土は６層に分層した。埋土は南から北に向けて堆積しており、自然堆積したものと考えられる。

遺　物　出土遺物で図化できたものは、弥生土器の甕Po16、底部Po17、磨石S11である。Po17・S11は底面直上での出土である。

時　期　時期決定の資料としては問題もあるが、出土土器から考えて弥生時代中期後葉頃であろう。



挿図26　S I－05遺構図



挿図27　S I－05遺物実測図

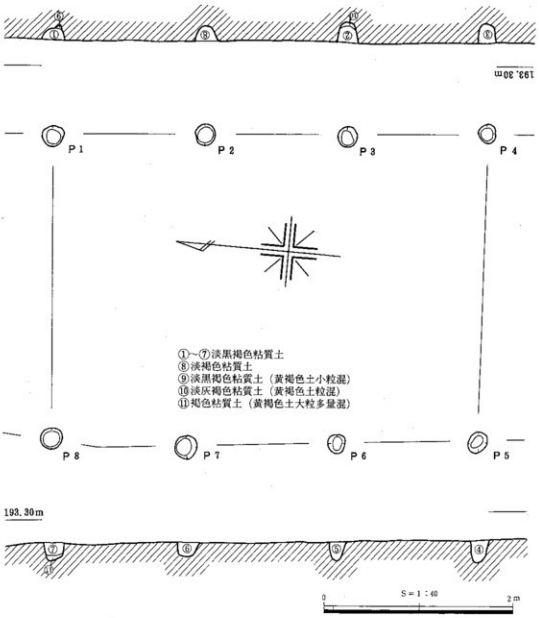
第２節　掘立柱建物跡

調査地内に群在するピットのなかには掘立柱建物の柱穴となるものも含まれていると考えられるが、削平等のため対応するピットが見いだせないため、ここでは確実に確認できたもののみを報告する。

ＳＢ－01（挿図28　図版９）

位　置　調査地の北西部、Ｍ－15グリッドの南東隅で、南側に続く緩斜面の頂部の標高 193.0m付近に位置する。

形　態　桁行３間・4.6～4.7m、梁行１間・3.2～3.3mを測る。主軸方向はＮ－４°－Ｗである。柱穴は８本であり、それぞれの規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（24×23－13）㎝、Ｐ２（24×22－17）㎝、Ｐ３（22×21－22）㎝、Ｐ４（21×19－22）㎝、Ｐ５（24×19－24）㎝、Ｐ６（21×19－20）㎝、Ｐ７（26×24－16）㎝、Ｐ８（24×23－20）㎝を測る。



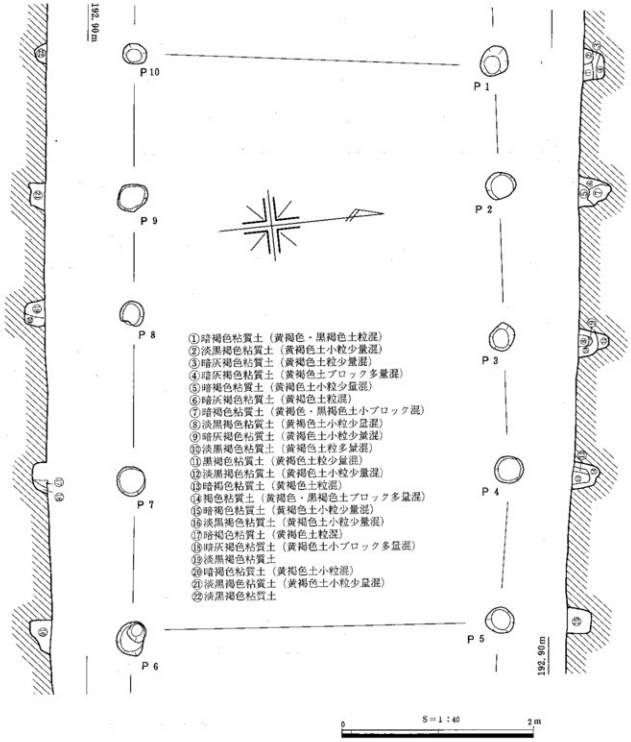
挿図28　ＳＢ－０１遺構図

柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順にＰ８～Ｐ１間まで1.6m・1.5m・1.5m・3.3m・1.5m・1.6m・1.4m・3.2mである。

埋　土　埋土は11層に分層した。①～⑦層は同一の土色であるが、埋土のつながりが明確でないため別の土層として扱った。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　時期を特定することはできなかった。



挿図29　ＳＢ－０２遺構図

ＳＢ－02（挿図29・30　図版９）

位　置　調査地の西部、Ｍ－17・18グリッドにまたがり、南に向けて下がり始める標高 192.5m付近に位置する。

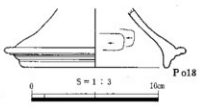
形　態　桁行４間・5.9～6.1m、梁行１間・3.8～3.9mを測る。主軸方向はＮ－84°－Ｗである。柱穴は10本であり、それぞれの規模（長軸×短軸…深さ）は、Ｐ１（34×29－22）cm、Ｐ２（33×29－34）cm、Ｐ３（30×25－33）cm、Ｐ４（31×30－29）cm、Ｐ５（30×29－26）cm、Ｐ６（37×28－23）cm、Ｐ７（32×29－16）cm、Ｐ８（27×26－21）cm、Ｐ９（34×29－16）cm、Ｐ10（26×22－13）を測る。

柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順にＰ10～Ｐ１間まで1.3m・1.6m・1.4m・1.6m・3.9m・1.6m・1.8m・1.3m・1.5m・3.8mである。

埋　土　残存埋土を22層に分層した。同一の土色としたものもあるが、埋土のつながりが明確でないため別の土層として扱った。

遺　物　出土遺物で図化できたものは、Ｐ４内から出土した弥生土器の胴部Ｐo18である。

時　期　時期決定の資料としては問題もあるが、出土土器から考えて弥生時代中期後葉頃であろう。



挿図30　ＳＢ－０２遺物実測図

ＳＢ－03（挿図31　図版９）

位　置　調査地の中央部、Ｏ・Ｐ－18・19グリッドにまたがり、南西に向けて下がっていく標高 193.0m付近に位置する。

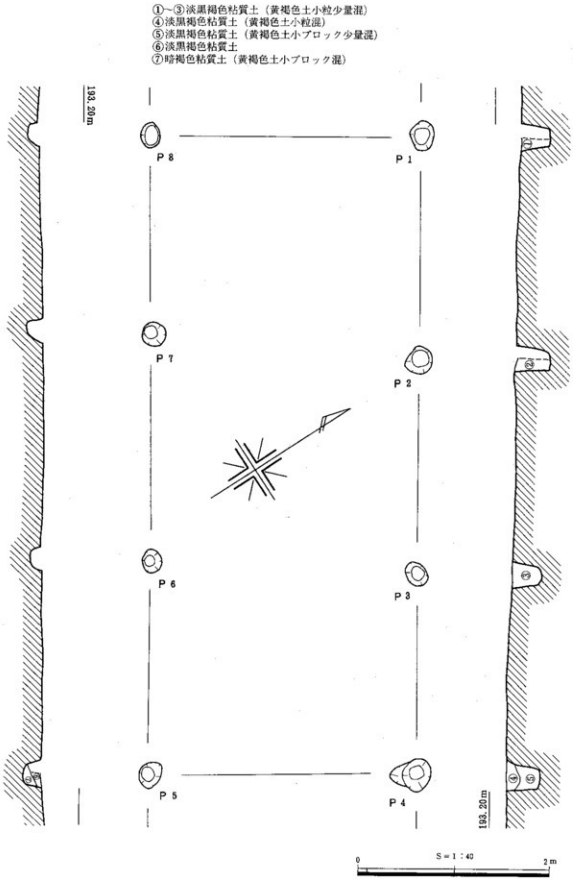
形　態　桁行３間・6.8m、梁行１間・2.9mを測る。主軸方向はＮ－56°－Ｗである。柱穴は８本であり、それぞれの規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（32×25－32）cm、Ｐ２（30×29－38）cm、Ｐ３（26×22－31）cm、Ｐ４（43×35－36）cm、Ｐ５（29×23－20）cm、Ｐ６（26×21－13）cm、Ｐ７（26×25－18）cm、Ｐ８（28×21…12）cmを測る。

柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順にＰ８～Ｐ１間まで2.4m・2.3m・2.1m・2.8m・2.3m・2.4m・2.1m・2.9mである。

埋　土　残存埋土を７層に分層した。①～③層は同一の土色であるが、埋土のつながりが明確でないため別の土層として扱った。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　時期を特定することはできなかった。



挿図31　ＳＢ－０３遺構図

ＳＢ－04（挿図32　図版９）

位　置　調査地の南部、Ｑ－23・24グリッドにまたがり西に向けて下がっていく標高 191.3m付近に位置する。

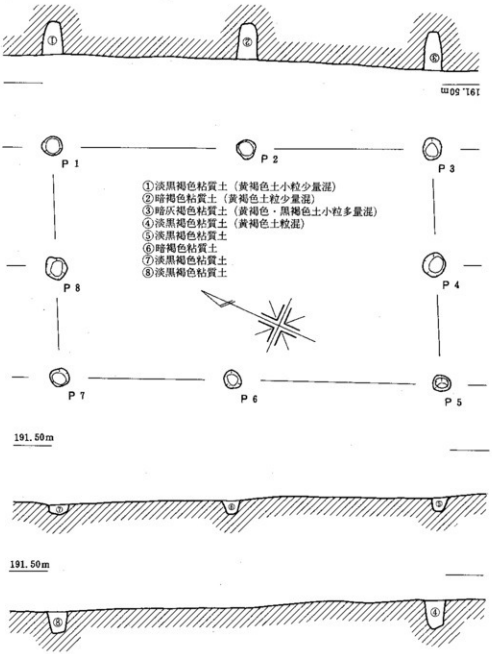
形　態　桁行２間・4.0～4.1m、梁行２間・2.5mを測る。主軸方向はＮ－23°－Ｗである。柱穴は８本であり、それぞれの規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（22×20－36）cm、Ｐ２（21×20－40）cm、Ｐ３（24×19－41）cm、Ｐ４（25×23－31）cm、Ｐ５（20×18－17）cm、Ｐ６（21×18－16）cm、Ｐ７（22×21－11）cm、Ｐ８（27×24－23）cmを測る。

柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順にＰ８～Ｐ１間まで2.0m・2.0m・1.2m・1.3m・2.2m・1.9m・1.2m・1.3mである。

埋　土　埋土は８層に分層した。同一の土色としたものもあるが、埋土のつながりが明確でないため別の土層として扱った。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　時期を特定することはできなかった。



挿図32　ＳＢ－04遺構図

ＳＢ－05（挿図33）

位　置　調査地の中央部、Ｎ・Ｏ－19グリッドにまたがり南に向けて下がっていく標高 192.2m付近に位置する。

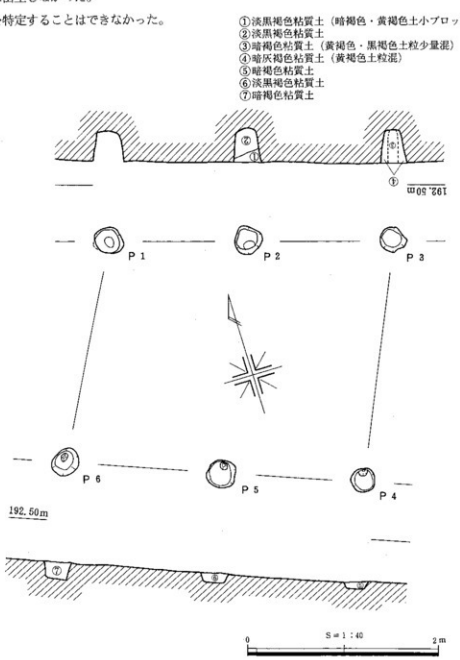
形　態　桁行２間・3.0～3.2m、梁行１間・2.4～2.6mを測る。主軸方向はＮ－71°－Ｗである。柱穴は６個であり、それぞれの規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（32×28－33）cm、Ｐ２（32×30－27）cm、Ｐ３（29×27－35）cm、Ｐ４（27×26－10）cm、Ｐ５（33×32－10）cm、Ｐ６（31×25－19）cmを測る。

柱穴間距離は、Ｐ１～Ｐ２間から順にＰ６～Ｐ１間まで1.5m・1.5m・2.6m・1.5m・1.7m・2.4mである。

埋　土　残存埋土を７層に分層した。同一の土色としたものもあるが、埋土のつながりが明確でないため別の土層として扱った。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　時期を特定することはできなかった。



挿図33　ＳＢ－０５遺構図

第３節　土坑・土壙墓

ＳＫ－01（挿図34・35　図版16）

位　置　調査地の西側、Ｎ－20グリッドの北西寄りで南に向けて地形が下がり始める標高 191.4m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともに楕円形であり、断面形は浅い逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸2.00m×短軸0.88m、底面で長軸1.86m×短軸0.75mを測る。畑地造成に伴い上部を大きく削平されており、残存する部分の底面までの最大の深さは0.11mである。

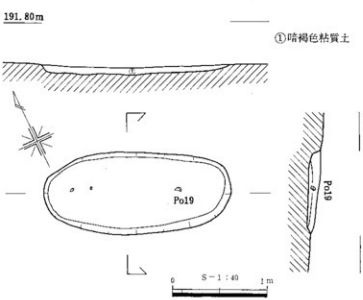
埋　土　埋土は暗褐色粘質土の単層である。

遺　物　出土遺物で図化できたものは、弥生土器の底部Ｐo19である。

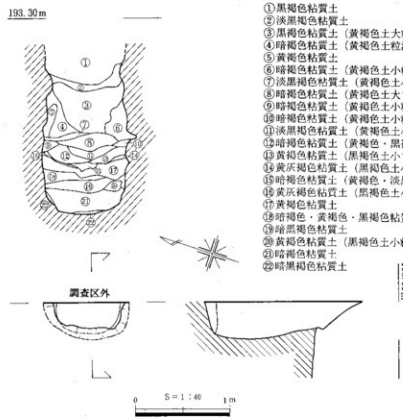
時　期　出土したPo19より弥生時代と推測する。

性　格　不明である。

挿図34　ＳＫ－０１遺物実測図



挿図35　ＳＫ－０１遺構図



挿図36　ＳＫ－０２遺構図

ＳＫ－02（挿図26　図版10）

位　置　調査地の南東側、Ｒ－23グリッドの南隅で緩やかに西側に向けて地形が下がっていく標高 192.9m付近に位置する。

形　態　本遺構は、東側が調査区外に及んでおり、平面形は不明である。検出部の平面形は、検出面・底面ともに方形状を呈し、断面形は中央部でやや膨らみを持つもののほぼ垂直に近く長方形を呈する。現状での規模は、検出面で長軸0.92m×短軸0.40m、底面で長軸0.75m×短軸0.26mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは1.66mである。

埋　土　埋土は2層に分層できる。基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積が認められる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　土坑の形態および埋土から落し穴と推測する。

ＳＫ－03（挿図37・38　図版10・16）

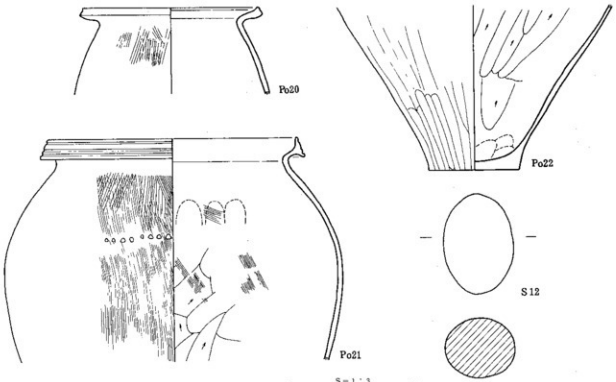
位　置　調査地の東側、Ｐ－17グリッドの東隅の標高 193.5m付近に位置する。

形　態　本遺構は、東側が調査区外に及んでいるため形態不明であり、西側は畑地造成に伴う削平を受けており底部付近が残存するのみである。検出部の平面形は、検出面・底面ともに楕円形状を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸1.36m×短軸1.22m、底面で長軸1.27m×短軸1.08mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.48mである。ＳＫ－０７を切っている。

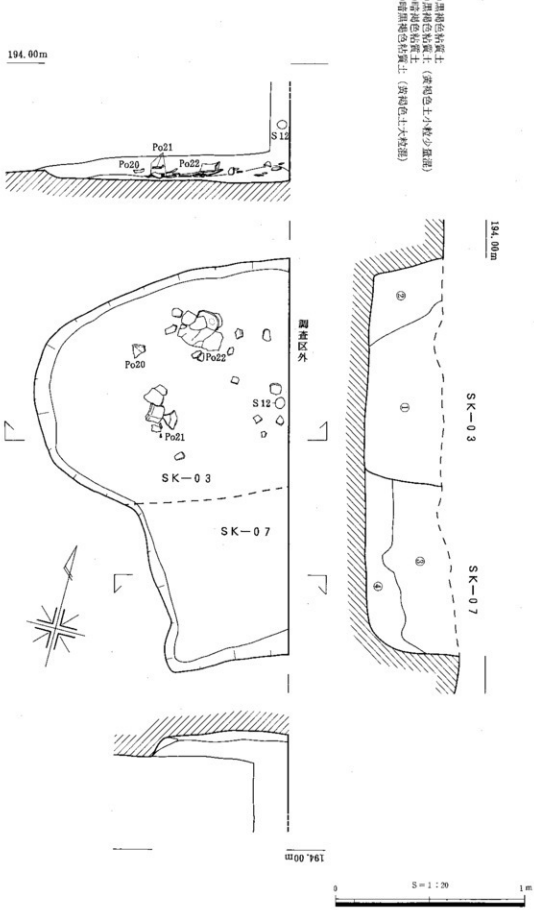
埋　土　埋土は２層に分層できる。基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から上部からの流れ込みが認められる。

遺　物　出土遺物で図化できたものは、甕Ｐo20・21、底部Ｐo22、敲石Ｓ12である。

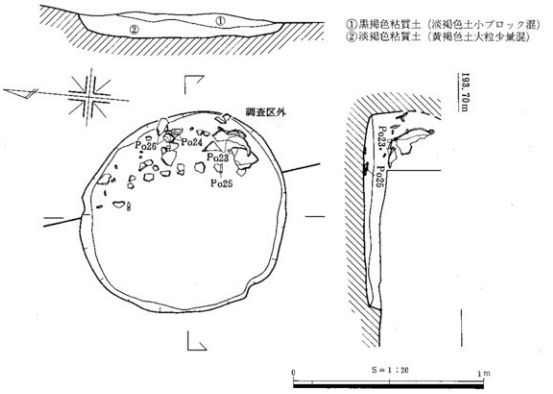
性　格　遺構の残存状況が悪く、形態から性格を判断することは難しいが、周囲の土坑との関連から考えて貯蔵穴の可能性が高い。



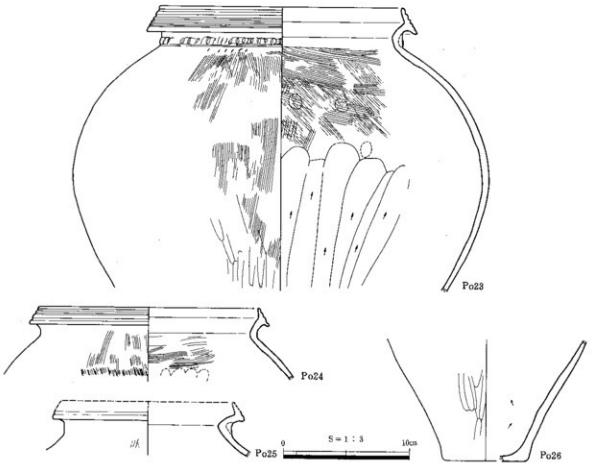
挿図37　ＳＫ－０３遺物実測図



挿図38　SK－03・07遺構図



挿図39　ＳＫ－０４遺構図



挿図40　ＳＫ－０４遺物実測図

ＳＫ－04（挿図39・40　図版10・16）

位　置　調査地の東側、Ｑ－18グリッドの西寄りで緩やかに南西に向けて地形が下がっていく標高 193.3m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともに円形を呈する。実測部分での断面形は皿状であるが、削平部の壁面では弱い袋状である。規模は、検出面で長軸1.13m×短軸1.04m、底面で長軸1.04m×短軸0.98mを測る。実測部分での深さは0.14m、削平部の壁面では0.40m以上ある。

埋　土　埋土は２層に分層できる。基本となる土は上層の黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積が認められる。

遺　物　出土遺物で図化できたものは、甕Ｐo23～Ｐo25、底部Ｐo26である。Ｐo26は底面から、他は少し浮いた位置で出土した。

時　期　出土遺物より弥生時代中期後葉と考えられる。

性　格　形態から貯蔵穴と推測する。

ＳＫ－05（挿図41）

位　置　調査地の東側、Ｑ－19グリッドのほぼ中央で緩やかに南西に向けて地形が下がっていく標高 193.5m付近に位置する。

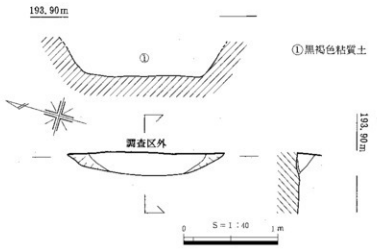
形　態　本遺構は、東側が調査区外に及んでいるうえに、西側は畑地造成に伴う削平を受けており、底部付近が残存するのみであり、平面形は不明である。検出部の断面形は逆台形を呈する。残存する部分の底面までの最大の深さは0.29mである。

埋　土　埋土は黒褐色粘質土の単層である。

遺　物　出土遺物で図化できたものはないが、底部より弥生土器の胴部片が若干出土した。

時　期　特定はできないが、土器の出土から弥生時代と推測する。

性　格　不明である。



挿図41　ＳＫ－０５遺構図

ＳＫ－06（挿図42）

位　置　調査地の南部、Ｑ－23グリッドの西寄りで西側に向けて地形が下がっていく標高 191.1m付近に位置する。

形　態　上部を畑地造成に伴う削平を受けている。平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形である。規模は、検出面で長軸1.18m×短軸0.97m、底面で長軸1.10m×短軸0.90mを測る。

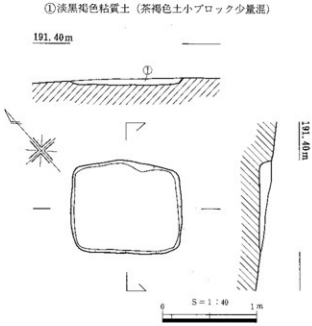
残存する部分の底面までの最大の深さは0.13mである。

埋　土　埋土は淡黒褐色粘質土の単層である。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　性格を判断する積極的な根拠はないが、周囲に存在する土坑との形態の類似から貯蔵穴の可能性がある。



挿図42　SK－06遺構図

SK－07（挿図38　図版10）

位　置　調査地の東部、P－17グリッドの東隅で緩やかに南西側に向けて地形が下がり始める標高 193.5m付近に位置する。

形　態　本遺構は、東側が調査区外に及んでいる。西側は畑地造成に伴う削平を受けて底部付近が残存するのみであり、北側はSK－03によって切られている。そのため、平面形は不明であるが残存部分から考えて方形状を呈すると推測する。現状での残存部規模は、検出面で長軸0.90m×短軸0.73m、底面で長軸0.85m×短軸0.65m、残存する部分の底面までの最大の深さは0.45mを測る。

埋　土　埋土は2層に分層できる。基本となる土は暗褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積が認められる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

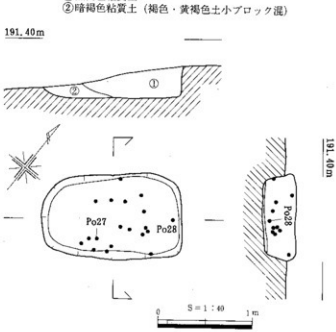
性　格　不明である。

SK－08（挿図43・44　図版17）

位　置　調査地の南部、Q－22・23グリッドにまたがり、南西に向けて地形が下がっていく標高 191.1m付近に位置する。

形　態　上部は畑地造成に伴う削平を受けている。平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形である。規模は、検出面で長軸1.50m×短軸0.90m、底面で長軸1.38m×短軸0.76mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.32mである。

埋　土　埋土は2層に分層できる。基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から上部からの流れ込みが認められる。自然堆積である。



挿図43　SK－08遺構図

挿図44　ＳＫ－０８遺物実測図

遺　物　出土遺物で図化できたものは、壺Po27・Po28である。Po28 はO－22グリッドの包含層中から接合する破片が出土した。

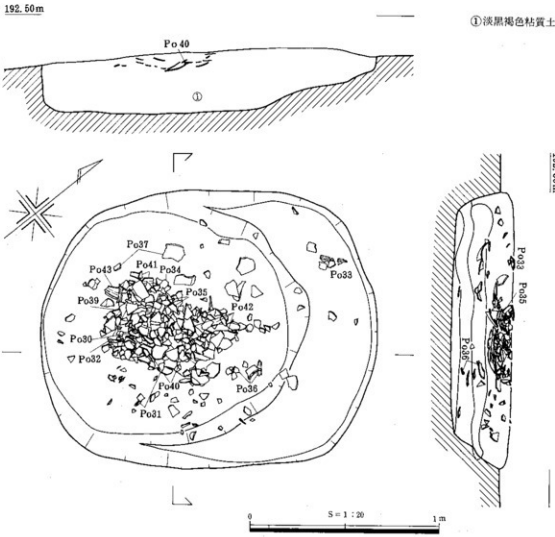
時　期　出土遺物より弥生時代中期後葉と考えられる。

性　格　不明である。

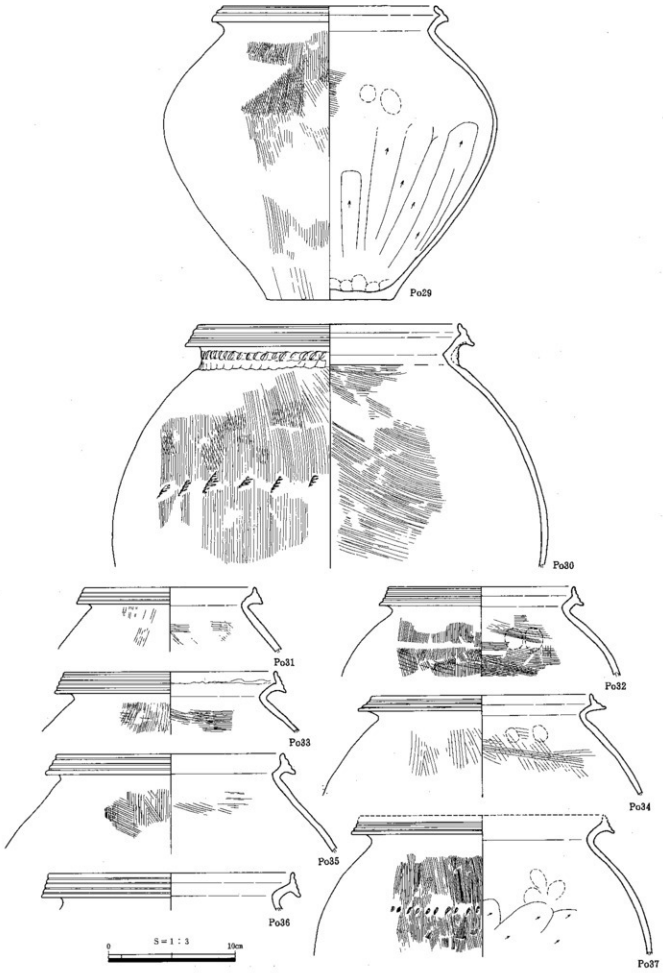
ＳＫ－09（挿図45・46・47　図版11・17）

位　置　調査地の中央部、O－19グリッドのほぼ中央で南に向けて地形が下がっていく標高 192.3m付近に位置する。

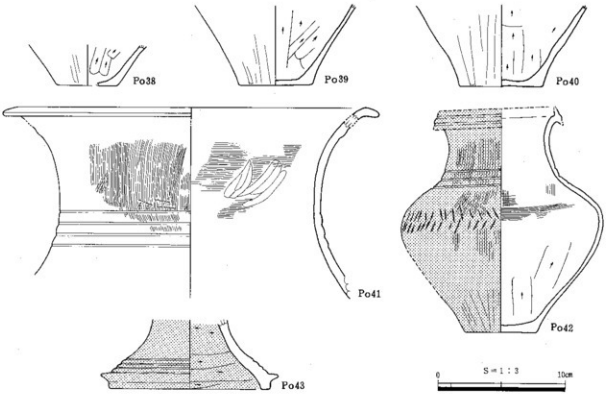
形　態　平面形は、検出面・底面ともに楕円形を呈し、底面は二段に掘り込んでいる。断面形は逆台形状を呈する。規模は、検出面で長軸1.81m×短軸1.75m、深さ0.22m掘り込み、幅0.3～0.4mの平坦面を設けた後に、さらに長軸1.43m×短軸1.30m、底面で長軸1.30m×短軸1.18m、深さ0.14m掘り込んでいる。検出面より、残存する部分の底面までの最大の深さは0.33mである



挿図45　ＳＫ－０９遺構図



挿図46　ＳＫ－０９遺物実測図（１）



挿図47　ＳＫ－０９遺物実測図（２）

埋　土　　埋土は淡黒褐色粘質土の単層である。

遺　物　　出土遺物で図化できたものは、甕Ｐｏ29～Ｐｏ37、壺Ｐｏ41・Ｐｏ42、底部Ｐｏ38～Ｐｏ40、脚部Ｐｏ43 である。いずれも検出面近くから一括して出土した一括遺物である。耕作等の撹乱のため遺存状態は必ずしも良好とは言えないが、検出状況から判断して意図的に置かれたものと考えられる。

時　期　　出土遺物より弥生時代中期後葉と考えられる。

性　格　　埋土の上方から甕・壺などが一括して置かれた状態で出土したことから、意識的な土器埋置が認められ、祭祀色の強い遺構である。

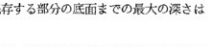
ＳＫ－10（挿図48・49　図版12・18）

位　置　　調査地の中央部南側、Ｏ－20グリッドの北西寄りで南に向けて地形が下がっていく標高 191.5m付近に位置する。

形　態　　平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は長方形である。規模は、検出面で長軸1.80m×短軸1.26m、底面で長軸1.69m×短軸1.13mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.47mである。

埋　土　　埋土は４層に分層できる。基本となる土は淡黒褐色粘質土である。堆積状況は①層が南北断面で舟底形にくぼんでいることから、上部からの落ち込みと思われる。

遺　物　　出土遺物で図化できたものは、甕Ｐｏ44である。Ｐｏ44は埋土中からの出土である。

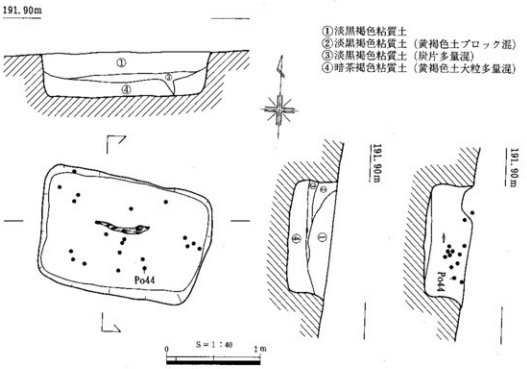


挿図48　ＳＫ－１０遺物実測図

③層と④層の間で遺存状態は悪いが板状の炭化材が出土した。①層が南北断面で舟底形にくぼむことから、何らかの木製遺物が存在していたと考えられる。

時　期　　時期決定の資料としては問題もあるが、出土土器から考えて弥生時代中期後葉頃であろう。

性　格　　土坑断面および炭化材の出土から考えて、木棺墓の可能性がある。



挿図49　ＳＫ－１０遺構図

ＳＫ－11（挿図50）

位　置　調査地の南西部、Ｏ－20グリッドの南西隅で南に向けて地形が下がっていく標高 191.0m付近に位置する。

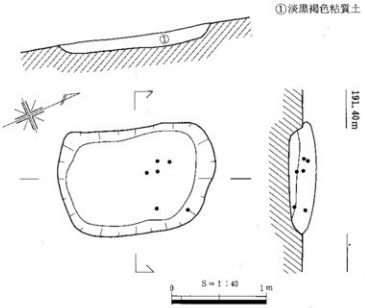
形　態　平面形は、検出面・底面ともに不整な隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形である。規模は、検出面で長軸1.68m×短軸1.13m、底面で長軸1.40m×短軸0.90mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.15mである。

埋　土　埋土は淡黒褐色粘質土の単層である。

遺　物　出土遺物で図化できたものはないが、埋土中より弥生土器の胴部片が若干出土した。

時　期　特定はできないが、土器の出土から弥生時代と推測する。

性　格　不明である。



挿図50　ＳＫ－１１遺構図

SK－12（挿図51・52　図版12・18）

位　置　調査地の中央部、P－19グリッドの南西隅で南西に向けて地形が下がっていく標高 192.4m付近に位置する。

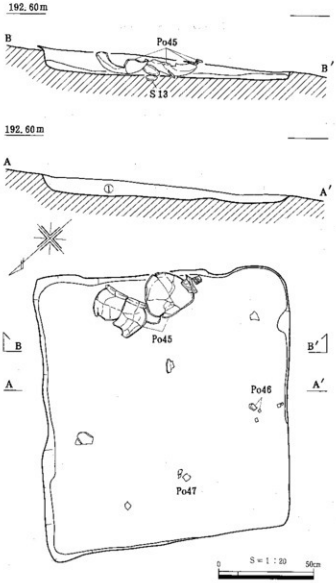
形　態　上部は畑地造成に伴う削平を受けている。平面形は、検出面・底面ともに方形を呈し、断面形は長方形である。規模は、検出面で長軸1.46m×短軸1.29m、底面で長軸1.43m×短軸1.25mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.11mである。

埋　土　埋土は淡黒褐色粘質土の単層である。

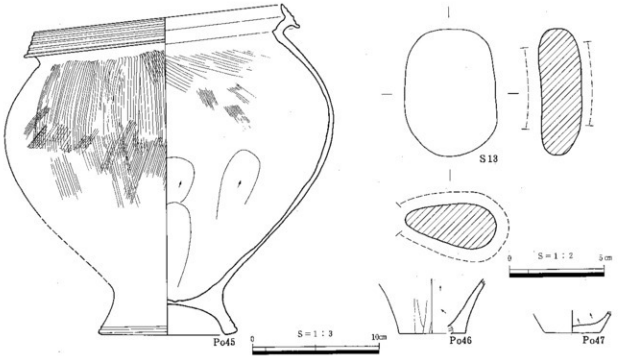
遺　物　出土遺物で図化できたものは、台付甕Po45、底部Po46・Po47、磨石S13である。Po45は2つに割れた状態で出土した。

時　期　出土遺物より弥生時代中期後葉と考えられる。

性　格　形態より貯蔵穴と考えられる。



挿図51　SK－12遺構図



挿図52　ＳＫ－１２遺物実測図

ＳＫ－13（挿図53・54　図版18）

位　置　調査地の南西部、Ｏ－21グリッドの南西寄りで南西に向けて地形が下がっていく標高 190.3m付近に位置する。

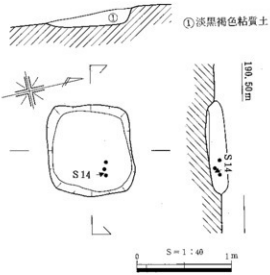
形　態　平面形は、検出面・底面ともに隅丸方形を呈し、断面形は逆台形である。規模は、検出面で長軸0.99m×短軸0.90m、底面で長軸0.85m×短軸0.81mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.16mである。

埋　土　埋土は淡黒褐色粘質土の単層である。

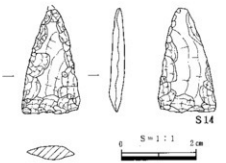
遺　物　出土遺物で図化できたものは石鏃Ｓ14である。埋土中より弥生土器の胴部片が出土したが、図化することはできなかった。

時　期　特定はできないが、土器の出土から弥生時代と推測する。

性　格　不明である。



挿図53　ＳＫ－１３遺構図



挿図54　ＳＫ－１３遺物実測図

ＳＫ－14（挿図55）

位　置　調査地の中央部南側、Ｏ－20グリッドの北隅で南西に向けて地形が下がっていく標高 191.8m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともにいびつな方形であり、断面形はいびつな皿状を呈する。規模は、検出面で長軸0.76m×短軸0.70m、底面で長軸0.66m×短軸0.58mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.15mである。

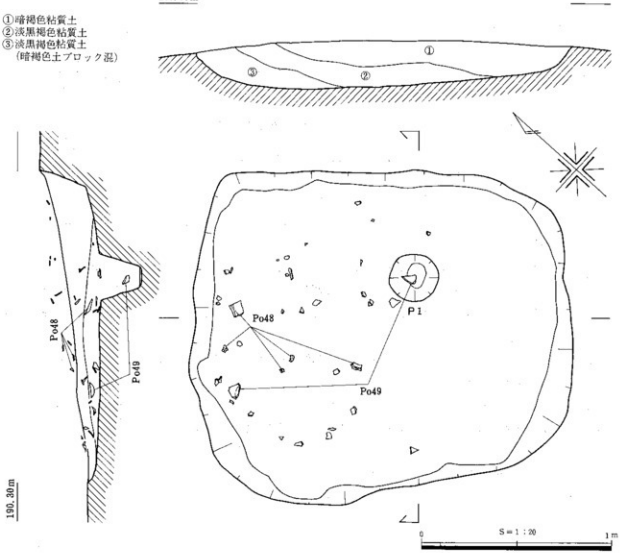
埋　土　埋土は淡黒褐色粘質土の単層である。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。

挿図55　ＳＫ－１４遺構図



挿図56　ＳＫ－１５遺構図

ＳＫ－15（挿図56・57　図版13・18）

位　置　調査地の南部西側、Ｐ－22グリッドの南西寄りで南西に向けて地形が下がっていく標高 190.1m付近に位置する。

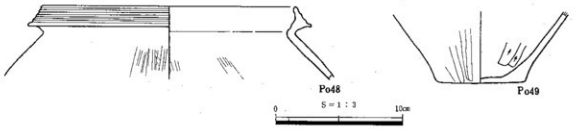
形　態　平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形であり、断面形は逆台形を呈する。規模は、検出面で長軸2.03m×短軸1.67m、底面で長軸1.83m×短軸1.58mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.25mである。底面中央やや西よりでピットＰ１を検出した。底面から出土した底部がＰ１内出土の破片と接合した（Po49 ）ことからＰ１はＳＫ－15に伴うものと考えられる。その規模は、長軸0.27m×短軸0.25m、深さ0.23mを測る。

埋　土　埋土は３層に分層できる。基本となる土は淡黒褐色粘質土である。堆積状況から上部からの流れ込みが認められる。

遺　物　出土遺物で図化できたものは、甕Po48、底部Po49である。Po49は底面上とピット内で、Po48は浮いた位置で出土した。

時　期　出土遺物より弥生時代中期後葉と考えられる。

性　格　形態から貯蔵穴と考えられる。Ｐ１は覆い屋根の様な施設に伴うものであろう。



挿図57　ＳＫ－１５遺物実測図

ＳＫ－16（挿図58・59　図版18）

位　置　調査地の南西部、Ｏ－22グリッドのほぼ中央で南西に向けて地形が下がっていく標高 189.6m付近に位置する。

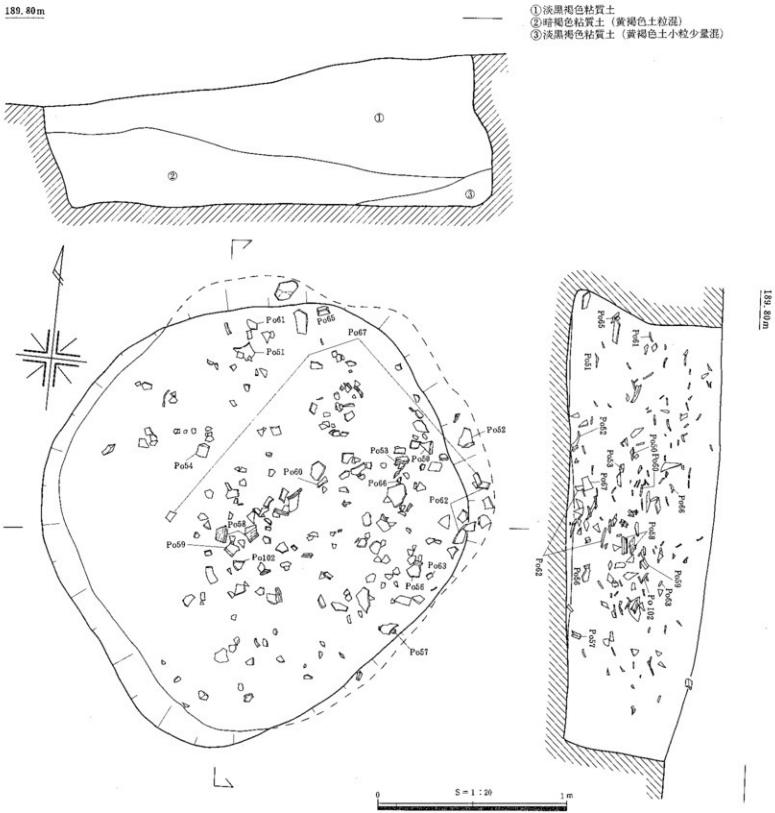
形　態　平面形は、検出面・底面ともに円形状を呈し、断面形は北側から東側にかけては内傾し、南側から西側にかけては外傾する。内傾した壁体の上部が崩落したためである。規模は、検出面で長軸2.18m×短軸2.17m、底面で長軸2.13m×短軸2.12mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.80mである。

埋　土　埋土は３層に分層できる。基本となる土は淡黒褐色粘質土である。堆積状況から流れ込みによる自然堆積が認められる。

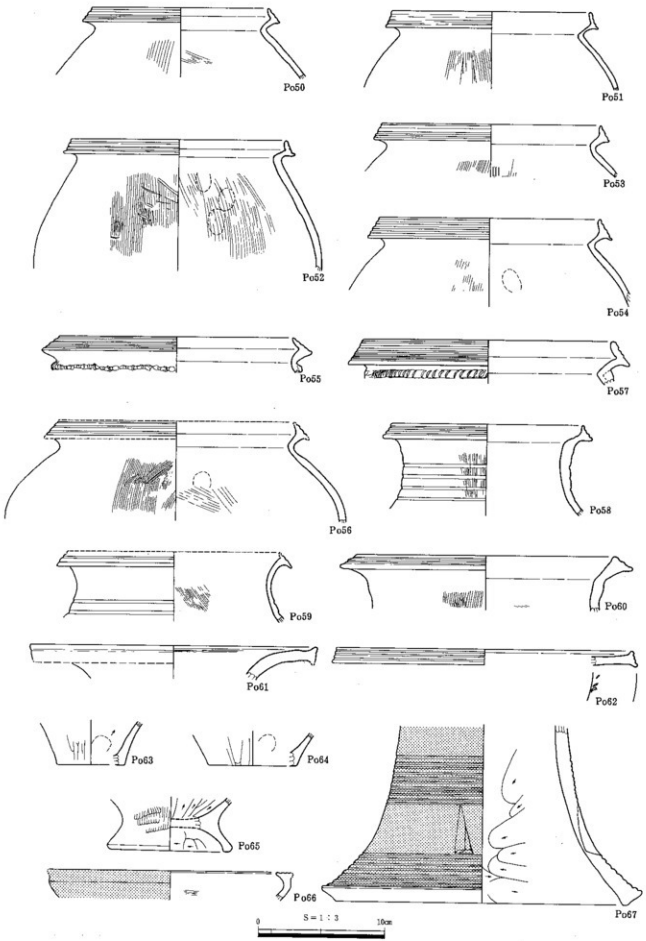
遺　物　出土遺物で図化できたものは、甕Po50～Po57、壺Po58～Po62、底部Po63～Po65、高坏坏部Po66、脚部Po67である。Po52・Po62・Po67は、土坑東側の袋状に底部付近で広がった部分から出土した。その他は埋土中からの出土である。遺物は土坑東側に偏在する。

時　期　出土遺物より弥生時代中期後葉と考えられる。

性　格　袋状を呈することから、貯蔵穴として用いられたと考えられる。



挿図58 ＳＫ－１６遺構図



挿図59　ＳＫ－１６遺物実測図

ＳＫ－17（挿図60）

位　置　調査地の北部、Ｎ－15グリッド北寄りの平坦面で、標高 193.1m付近に位置する。

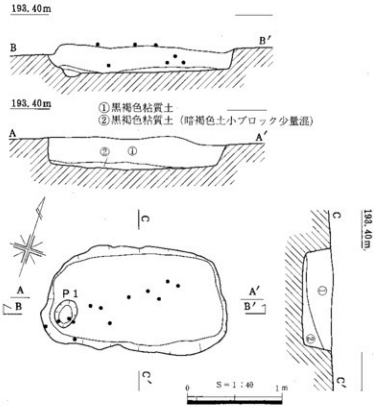
形　態　平面形は、検出面・底面ともに不整な隅丸長方形を呈し、断面形は壁がほぼ直立する長方形である。規模は、検出面で長軸1.98m×短軸1.04m、底面で長軸1.84m×短軸0.91mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.34mである。底面南西隅より浅いピットＰ１を検出した。その規模は長軸0.30m×短軸0.22m、深さ0.08mを測る。Ｐ１はＳＫ－17とは別遺構とも考えられるが、掘り下げ中に土色等での識別ができなかったことと周囲にはほとんどピットが存在しない点からＳＫ－17に伴うものと考えた。位置や規模からＰ１の用途を推測することはできない。

埋　土　埋土は２層に分層できる。基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積が認められる。

遺　物　出土遺物で図化できたものはないが、埋土中より厚手で赤彩の認められるものを含む弥生土器の胴部片が若干出土した。

時　期　特定はできないが、土器の出土から弥生時代と推測する。

性　格　不明である。



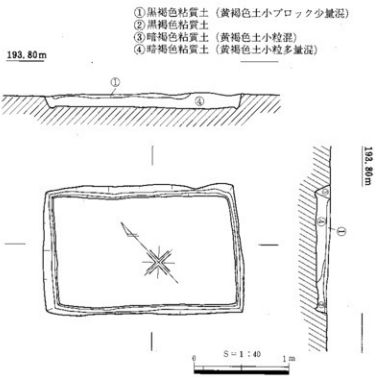
挿図60　ＳＫ－１７遺構図

ＳＫ－18（挿図61）

位　置　調査地の北東部、Ｐ－16グリッドの北側で緩やかに西に向けて地形が下がり始める標高 193.4m付近に位置する。

形　態　平面形は、検出面・底面ともに長方形を呈し、断面形は逆台形である。規模は検出面で長軸2.12m×短軸1.35m、底面で長軸1.90m×短軸1.14mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.15mである。底面より壁溝を検出した。幅0.06～0.08m、深さ0.02～0.03mを測り、断面は「Ｕ」字状を呈する。

埋　土　埋土は４層に分層できる。基本となる土は黒褐色粘質土である。



挿図61　ＳＫ－１８遺構図

堆積状況から自然堆積が認められる。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。

ＳＫ－19（挿図62・63　図版18）

位　置　調査地の西側、Ｎ－20グリッドの南側で、南に向けて地形が下がっていく標高 190.7m付近に位置する。

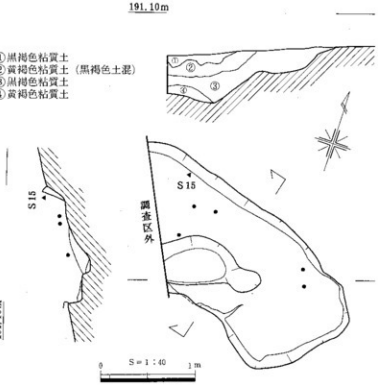
形　態　本遺構は、西側が調査区外に及んでおり全体の平面形は不明であるが、残存部は不定形を呈する。断面形も不定形である。規模は、検出面で長軸2.26m×短軸1.23m、底面で長軸2.13m×短軸1.10mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.29mである。

埋　土　埋土は４層に分層できる。基本となる土は黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積が認められる。

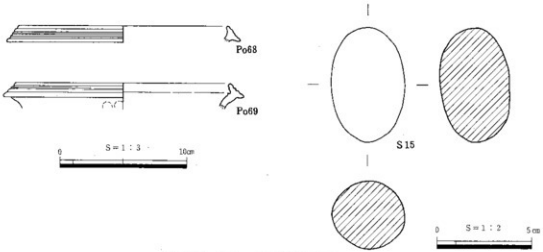
遺　物　出土遺物で図化できたものは、甕Po68・Po69、投弾Ｓ15である。Ｓ15は遺跡が同様の転石がない地域にあることから人為的に持ち込まれたことは明らかであり、規模・形態の点で投弾と考えた。

時　期　時期決定の資料としては問題もあるが、出土土器から考えて弥生時代中期後葉頃であろう。

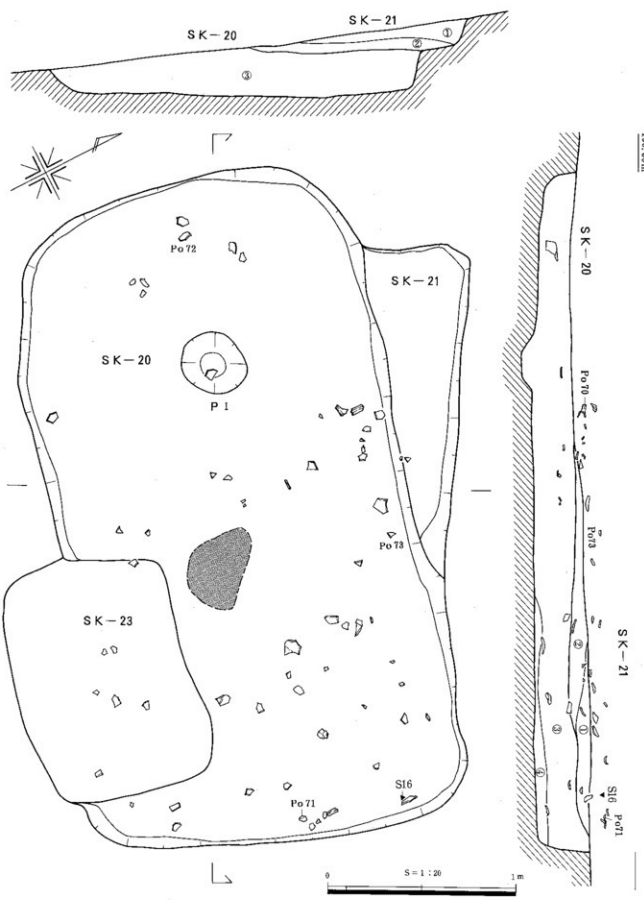
性　格　形態が不定形を呈する点と土層の観察から風倒木の可能性が高いが、遺物が出土したことから土坑として扱った。



挿図62　ＳＫ－１９遺構図



挿図63　ＳＫ－１９遺物実測図



挿図64　SK－20・21遺構図

ＳＫ－20（挿図64・65　図版13）

位　置　調査地の南西部、Ｎ・Ｏ－21グリッド西側で南西に向けて地形が下がる標高 190.2m付近に位置する。

形　態　本遺構は、上部をＳＫ－21によって切られ、南側をＳＫ－23と切り合っている。平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形である。規模は、検出面で長軸3.60m×短軸1.90m、底面で長軸3.54m×短軸1.79mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.30mである。底面よりピットＰ１を検出した。Ｐ１の規模は長軸0.36m×短軸0.32m、深さ0.06mを測る。浅いことから上部に位置するＳＫ－21に伴うことも考えられるが土層では確認できなかった。用途は不明である。

埋　土　埋土は③・④層の２層に分層できる。基本となる土は淡黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積が認められる。

遺　物　出土遺物で図化できたものは、弥生土器の底部Ｐo70である。

時　期　出土したPo70から弥生時代と推測する。

性　格　不明である。

挿図65　ＳＫ－２０遺物実測図

ＳＫ－21（挿図64・66　図版13・19）

位　置　調査地の南西部、Ｏ－21グリッドの西側で南西に向けて地形が下がる標高 190.3m付近に位置する。

形　態　本遺構は下部にあるＳＫ－20を切っている。平面形は不明であるが、残存する部分から方形状を呈すると考えられる。断面形は逆台形状である。規模は、断面から東西2.10m以上、南北1.46m以上である。残存する部分の底面までの最大の深さは0.14mを測る。

底面から、0.45m×0.30m程度の範囲で焼土面を検出した。

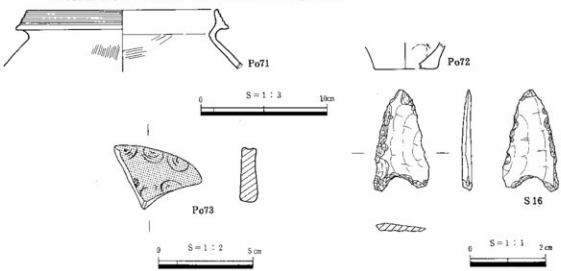
埋　土　埋土は①・②層の２層に分層できる。基本となる土は淡黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積が認められる。

遺　物　出土遺物で図化できたものは、甕Ｐo71、底部Ｐo72、分銅形土製品Ｐo73、石鏃Ｓ16である。分銅形土製品Ｐo73 は大部分を欠損し全体の数分の１が残るのみである。表面には周線部とくりこみ部に小重弧文が描かれ、赤彩の痕跡が認められる。穿孔は認められない。色調は表裏とも淡黄白色。焼成はほぼ良い。

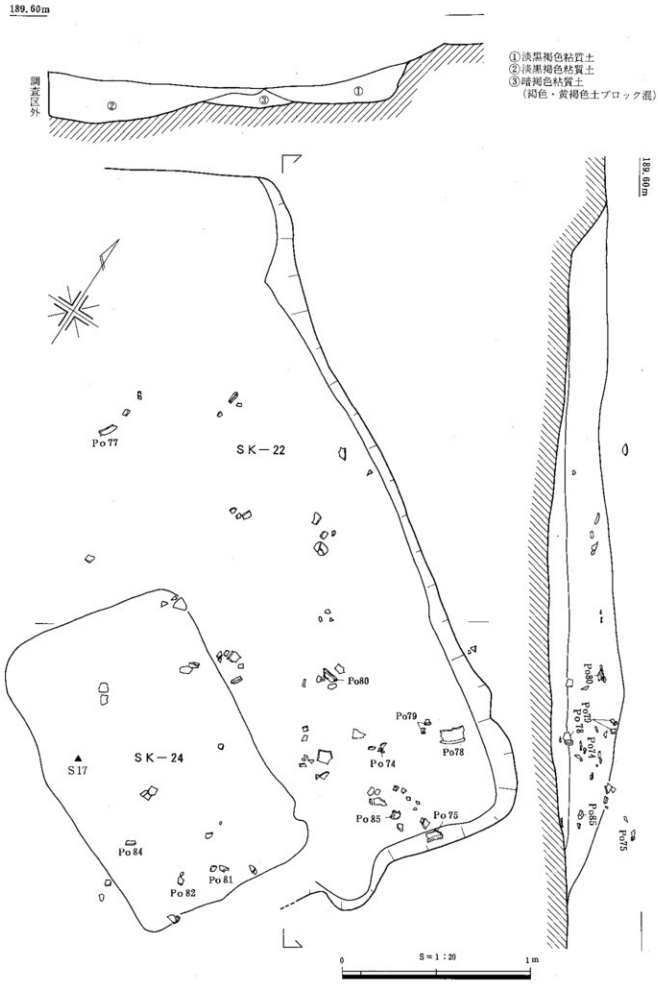
出土遺物は流れ込みと考えられる。

時　期　時期決定の資料としては問題もあるが、出土土器から考えて弥生時代中期後葉頃であろう。

性　格　遺存状況が悪く土坑の性格を判断する事は困難である。底面から焼土面が検出されたことから住居跡の可能性も考えられるが、ここでは土坑として扱った。



挿図66　ＳＫ－２１遺物実測図



挿図67　SK－22遺構図

ＳＫ－22（挿図67・68　図版13・19）

位　置　調査地南西部、Ｎ－21グリッドの南東側で南西に向けて地形が下がる標高 189.3m付近に位置する。

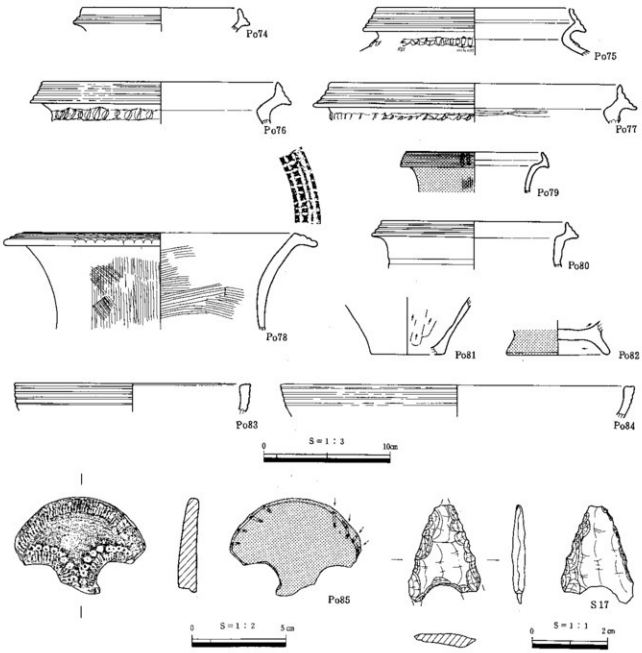
形　態　本遺構は下部にあるＳＫ－24を切る。西側は調査区外に及んでおり、平面形・底面形ともに不明であるが、残存部から長方形状を呈すると考えられる。残存部での規模は、検出面で長軸3.97m×短軸1.90m、底面で長軸3.87m×短軸1.81mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.40mである。

埋　土　埋土は３層に分層でき、基本となる土は淡黒褐色粘質土である。堆積状況から自然堆積が認められる。

遺　物　出土遺物で図化できたものは、甕Ｐo74～Ｐo77、壺Ｐo78～Ｐo80、底部Ｐo81・Ｐo82、高坏部Ｐo83・Ｐo84、分銅形土製品Ｐo85、石鏃Ｓ17が出土した。分銅形土製品Ｐo85は全体のほぼ２分の１が残る。表面には周縁部とくりこみ部に幅５mmの連続した刺突文が施され、周縁部から裏面にかけて８ヶ所の穿孔が認められる。裏面には丁寧なナデ仕上げが施される。表裏とも赤彩が認められる。色調は表裏とも茶褐色。焼成は良好である。出土遺物は流れ込みと考えられる。

時　期　時期決定の資料としては問題もあるが、出土土器から考えて弥生時代中期後葉頃であろう。

性　格　不明である。



挿図68　ＳＫ－２２遺物実測図

ＳＫ－23（挿図69　図版13）

位　置　調査地の南西部、Ｏ－21グリッドの西側で南西に向けて地形が下がっていく標高 190.0m付近に位置する。

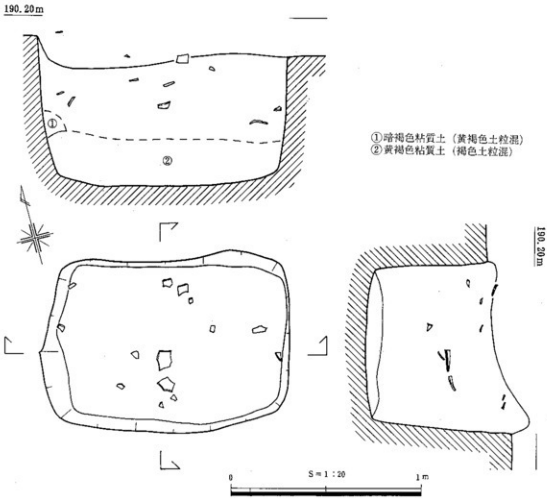
形　態　本遺構は一部重なる位置にあるＳＫ－20と切り合うが、断面で切り合い関係を確認することができなかった。平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は長方形である。規模は、検出面で長軸1.29m×短軸0.96m、底面で長軸1.19m×短軸0.81mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.80mである。

埋　土　埋土は残存部で２層に分層できる。②層は他の土が混じらないもので人為的に埋め戻された可能性が高い。土坑埋土の上部３分の２程度の土層は確認していないが、暗褐色系の土であった。

遺　物　出土遺物で図化できたものはないが、埋土中より弥生土器の胴部片が若干出土した。

時　期　特定はできないが、土器の出土から弥生時代と推測する。

性　格　不明である。



挿図69　ＳＫ－２３遺構図

ＳＫ－24（挿図70・71　図版13・19）

位　置　調査地の南西部、Ｎ－21・22グリッドにまたがり、南西に向けて地形が下がっていく標高 189.0m付近に位置する。

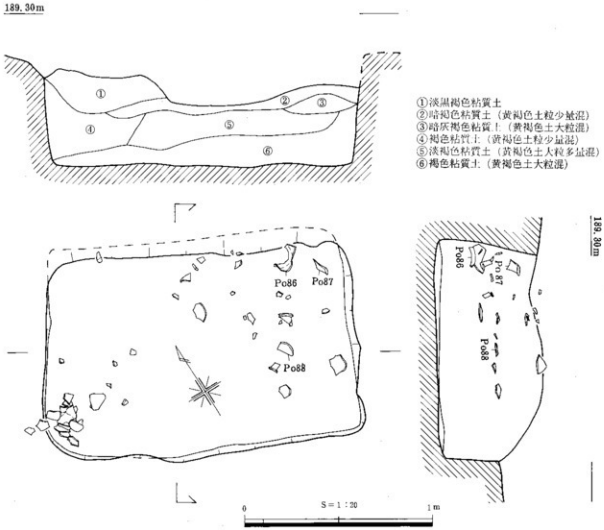
形　態　本遺構は上部にあるＳＫ－22に切られる。平面形は、検出面・底面ともに隅丸長方形を呈し、断面形は長方形である。規模は、検出面で長軸1.66m×短軸1.07m、底面で長軸1.61m×短軸1.12mを測る。残存する部分の底面までの最大の深さは0.58mである。

埋　土　埋土は６層に分層できる。基本となる土は褐色粘質土である。

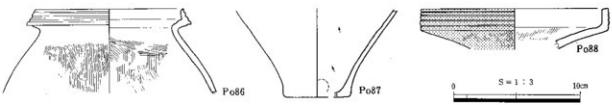
遺　物　出土遺物で図化できたものは、甕Ｐo86、底部Ｐo87、高坏坏部Ｐo88 である。遺物は浮いた状態での出土である。

時　期　時期決定の資料としては問題もあるが、出土土器から考えて弥生時代中期後葉頃であろう。

性　格　不明である。



挿図70　ＳＫ－２４遺構図



挿図71　ＳＫ－２４遺物実測図

第４節　杭列

ＳＡ－01（挿図72）

位　置　調査地の東側、Ｐ－16・17グリッドにまたがり、南西に続く緩斜面の頂部の標高 193.4m付近に位置する。北側にはＳＫ－18、北西側にはＳＩ－02がある。

形　態　造成に伴う破壊のため、上部を 0.4m以上削平されている。

柱穴はＰ１～Ｐ６の６本あり、それぞれの規模（長軸×短軸－深さ）は、Ｐ１（20×18－20）cm、Ｐ２（24×22－20）cm、Ｐ３（18×17－11）cm、Ｐ４（23×17－17）cm、Ｐ５（20×20－13）、Ｐ６（17×15－8）cmを測る。

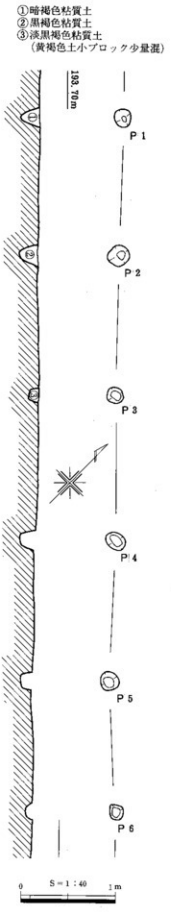
柱穴間距離はＰ１～Ｐ２間から順にＰ５～Ｐ６まで1.5m、1.5m、1.6m、1.5m、1.4mを測り、主軸方向はＮ－44°－Ｗである。

埋　土　埋土はＰ１～Ｐ３で確認した。各柱穴とも１層ずつである。Ｐ４～Ｐ６については確認していない。

遺　物　遺物は出土しなかった。

時　期　特定できない。

性　格　不明である。



挿図72　ＳＡ－０１遺構図

第５節　ピット

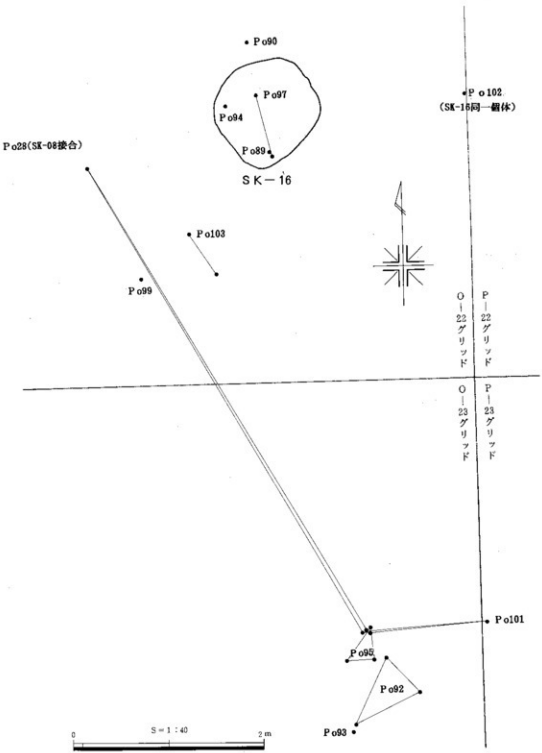
ピット（挿図９）

調査地の南半分を中心にして多数のピットを検出した。総数は 240個であり、特にＰ・Ｑ－25グリッドに集中している。ピットの規模には径10cm程度のものから径が40cmを越えるものまであるが、多くは径が20cm前後のものである。柱根が残るものはなかったが、埋土に柱根の痕跡が認められるピットがいくつか存在した。埋土は暗褐色粘質土ないしは淡黒褐色粘質土の単層のものが多く、複数の層に分かれるものはわずかである。Ｐ・Ｑ－25グリッドでは、比較的狭い範囲にピットが集中することから、掘立柱建物に伴うピットが含まれていることも考えられるが、規格・規模の点で対応するものを抽出することはできなかった。

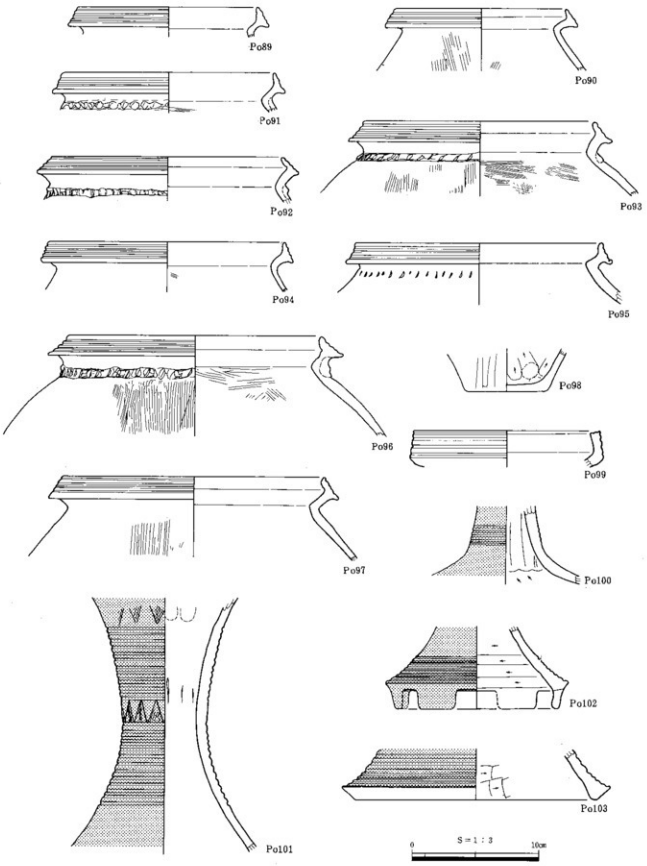
ピット中より遺物は出土しなかった。

第６節　遺構外の遺物

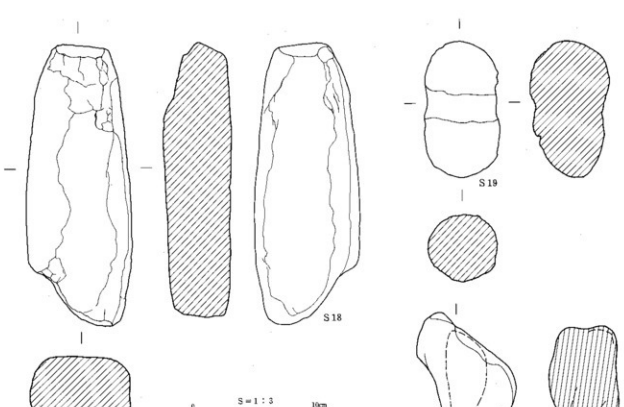
調査地のＯ－22・23グリッドを中心に包含層中から遺構に伴わない遺物が出土した。畑地造成時に住居跡・土坑等が削平を受けていることから、本来は遺構に伴っていたと考えられる。



挿図 73　遺構外遺物出土位置図



挿図 74　遺構外遺物実測図(1)



挿図75　遺構外遺物実測図(2)

土器（挿図73・74　図版20）

遺構外出土土器で図化できたものは、甕Po89～Po97、底部**Po98**、高坏坏部Po99、脚筒部Po100・Po101、脚部Po102・Po103である。これらのうち、Po89・Po90・Po92～Po95・Po97・Po99・Po101～Po103はO－22・23グリッドから出土した。

甕はPo89～Po97の9点で、いずれも口唇部を上下に拡張した口縁部が内傾して面を持ち、3～4条の凹線を施す。Po91～Po93・Po96には頸部に刻み目圧痕突帯が施される。Po95には頸部に刻み目圧痕突帯を意識したと思われる刺突が認められる。**Po98**は平底の底部である。Po99～Po103は高坏と考えられるもので、このうちPo101は上向きと下向きの2つの鋸歯文帯が巡り、鋸歯文内にはともに左下がりの平行線が描かれる。このような鋸歯文土器は西播磨に分布の中心があり、西播磨を中心とする東瀬戸内地域の影響が認められる。Po102は脚部であるが、脚端部に方形状の抉りが施される。他に類例が見あたらず特異な存在である。なお、SK－16埋土中から接合はしないが同一個体と考えられる破片が出土している。Po100～Po102には赤彩が認められる。

石器（挿図75　図版20）

遺構外出土石器で図化できたものは、磨製石斧を転用したと考えられる砥石S18、石錘S19、有孔石S20である。S19はSI－04・05の西側から、S20はSK－19の北側からの出土である。

S18は大型の石斧を転用したと考えられるものであり、刃部欠損後に2次的に砥石に利用したようである。S19は石錘であり、くびれ部を丁寧に加工している。S20は未貫通の孔を持つ。孔は内部で広がる。自然のものの可能性もあるが調査地内で出土したため記載した。

挿表 4　竪穴住居跡一覧表

（ ）残存値

遺構名	挿図番号	図版番号	グリッド	形態	規模（m）	残存壁高（m）	主柱穴（本）	遺物	時期	備考
SI-01	10	4	P－21	（方形）	3.55×(2.6)	0.20	0		弥生時代	
SI-02	11～21	5・6 7・14 15	O－15・16	円形	6.15×5.80	0.24	4	甕 壺 脚台付底部 脚部 石錘 磨製石斧 砥石 敲石 石皿 台石	弥生時代 中期後葉	
SI-03	22・23	7・15	N・O－16	円形	6.3以上	0	9	甕 底部 砥石	弥生時代 中期後葉 頃	
SI-04	24・25	8・15 16	N－21	隅丸長方形	(3.04)×2.66	0.48	不明	甕 壺 細類壺 磨石 磨製石斧	弥生時代 中期後葉 頃	SI-05を 切る
SI-05	26・27	8・16	N－21	隅丸長方形	3.02×2.42	(0.45)	2	甕 底部 磨石	弥生時代 中期後葉 頃	SI-04に 切られる

挿表 5　掘立柱建物跡一覧表

遺構名	挿図番号	図版番号	グリッド	桁×梁（間）	規模（桁）（m）		規模（梁）（m）		主軸方向	遺物	時期
SB-01	28	9	M－15	3×1	4.7	4.6	3.3	3.2	N－4°－W		
SB-02	29・30	9	M－17・18	4×1	6.1	5.9	3.9	3.8	N－84°－W	脚部	弥生時代 中期後葉頃
SB-03	31	9	O・P－18・19	3×1	6.8	6.8	2.9	2.9	N－56°－W		
SB-04	32	9	Q－23・24	2×2	4.1	4.0	2.5	2.5	N－23°－W		
SB-05	33		N・O－19	2×1	3.2	3.0	2.6	2.4	N－71°－W		

挿表 6　土坑一覧表

（ ）残存値

遺構名	挿図番号	図版番号	グリッド	平面形	規模（長軸－短軸）cm		深さ	長軸方向	遺物	備考
					検出面	底面	(cm)			
SK-01	34・35	16	N－20	楕円形	200-88	186-75	11	N-79°-W	底部	
SK-02	36	10	R－23	（方形状）	(92)-(40)	(75)-(26)	(166)	N-17°-W		
SK-03	37・38	10・16	P－17	（楕円形状）	(136)-(122)	(127)-(108)	(48)	N-68°-E	甕 底部 敲石	
SK-04	39・40	10・16	Q－18	円形	113-104	104-98	14	N-20°-W	甕 底部	
SK-05	41		Q－19	不明			(29)			
SK-06	42		Q－23	隅丸長方形	118-97	110-90	18	N-32°-W		
SK-07	38	10	P－17	（方形状）	(90)-(73)	(85)-(65)	(45)	N-58°-E		
SK-08	43・44	17	Q－22・23	隅丸長方形	150-90	138-76	32	N-52°-E	壺	
SK-09	45・46・47	11・17	O－19	楕円形	181-175	130-118	33	N-34°-E	甕 底部 壺 脚部	
SK-10	48・49	12・18	O－20	隅丸長方形	180-126	169-113	47	N-81°-W	甕	
SK-11	50		O－20	隅丸長方形	168-113	146-90	15	N-18°-E		
SK-12	51・52	12・18	P－19	方形	146-129	143-125	11	N-48°-W	台付甕 底部 磨石	
SK-13	53・54	18	O－21	隅丸方形	99-90	85-81	16	N-77°-W	石鏃	
SK-14	55		O－20	方形	76-70	66-58	15	N-10°-E		
SK-15	56・57	13・18	P－22	隅丸長方形	203-167	183-158	25	N-43°-W	甕 底部	
SK-16	58・59	18	O－22	（円形状）	218-217	213-212	80	N-51°-E	甕 壺 底部 高坏 脚部	
SK-17	60		N－15	隅丸長方形	196-104	184-91	34	N-72°-E		
SK-18	61		P－16	長方形	212-135	190-114	15	N-50°-W		
SK-19	62・63	18	N－20	不定形	(226)-(123)	(213)-(110)	29	N-68°-W	甕 石製投弾	
SK-20	64・65	13	N・O－21	隅丸長方形	360-190	354-179	30	N-73°-W	底部	
SK-21	64・66	13・19	O－21	（方形状）	(210)-(146)		14		甕 底部 分銅形土製品 石鏃	
SK-22	67・68	13・19	N－21	（長方形状）	(397)-(190)	(387)-(181)	40	N-54°-W	甕 壺 底部 高坏 分銅形土製品 石鏃	
SK-23	69	13	O－21	隅丸長方形	129-96	119-81	(80)	N-75°-W		
SK-24	70・71	13・19	N－21・22	隅丸長方形	166-107	161-112	58	N-61°-W	甕 底部 高坏	

挿表7　ピット一覧表

柱穴番号	規模（cm） 長径×短径	深さ	海抜188mを基準とした高さ(m)	層	土色・土質	柱根有無	遺物	備考
1	28.5×25.5	19.0	2.885	1	暗褐色	×		
2	15.0×14.0	10.0	2.965	1	暗褐色（黄褐色土小ブロック混）	×		
3	15.0×14.0	8.0	3.121	1	暗褐色	×		
4	21.0×19.0	14.5	3.100	1	淡黒褐色	×		
5	21.0×18.0	14.0	3.255	1	淡黒褐色	×		
6	21.0×16.0	21.0	2.925	1	暗褐色	×		
7	19.0× 8.5	13.0	2.505	1	暗褐色	×		
8	33.0×14.0	20.0	2.596	2	①暗褐色 ②暗褐色（黄褐色土ブロック多量混）	×		
9	36.0×29.0	20.0	3.080	1	暗褐色	×		
10	25.0×23.0	10.0	2.084	1	淡黒褐色	×		
11	39.0×21.0	21.0	2.839	1	暗褐色	×		
12	15.0×14.5	15.0	2.545	1	暗褐色	×		
13	20.0×16.0	15.0	2.462	1	暗褐色	×		
14	21.0×20.0	9.0	2.402	1	暗褐色	×		
15	18.0×15.0	24.0	2.100	1	淡黒褐色	×		
16	16.0×15.0	7.5	2.098	1	暗褐色	×		
17	28.0×22.0	23.0	2.817	2	①暗褐色 ②暗褐色（黄褐色土大粒混）	○		
18	15.0×14.0	11.0	3.216	1	暗褐色	×		
19	14.0×13.0	17.5	3.021	1	暗褐色	×		
20	21.0×21.0	20.0	2.605	2	①暗褐色 ②淡黒褐色（黄褐色土ブロック混）	×		
21	24.0×23.0	22.0	2.220	2	①暗褐色（黄褐色土大粒少量混） ②黒褐色	×		
22	13.0×12.0	10.5	2.153	1	褐色	×		
23	13.0×11.0	7.0	2.126	1	褐色	×		
24	24.0×23.0	28.5	3.025	1	暗褐色（黄褐色土ブロック少量混）	×		
25	19.0×19.0	15.0	2.925	1	褐色	×		
26	24.0×17.0	11.0	2.854	1	暗褐色	×		
27	16.0×15.0	21.0	2.671	1	暗褐色	×		
28	28.0×21.0	13.5	2.595	1	暗褐色	×		
29	17.5×17.0	19.0	2.347	1	暗褐色	×		
30	16.0×15.0	21.0	2.326	1	暗褐色	×		
31	31.0×29.0	24.0	2.266	1	暗褐色	×		
32	11.0×11.0	9.0	2.395	1	暗褐色	×		
33	13.0×12.0	12.0	2.332	1	淡黒褐色	×		
34	28.0×22.0	19.0	2.015	1	暗褐色	×		

35	20.0×18.0	14.0	1.727	1	淡黒褐色	×		
36	20.0×17.0	24.0	1.530	1	淡黒褐色	×		
37	20.0×17.0	15.0	3.027	1	暗褐色	×		
38	22.0×20.0	14.0	2.923	2	①褐色 ②暗褐色	○		
39	18.0×16.0	13.5	2.889	1	暗褐色	×		
40	23.0×21.0	26.0	2.650	1	暗褐色	×		
41	18.0×18.0	9.0	2.730	1	褐色	×		
42	42.0×19.0	19.0	2.585	2	①褐色 ②暗褐色	×		
43	28.0×23.5	38.0	2.165	1	黒褐色	×		
44	31.0×24.0	28.0	2.170	2	①暗褐色（黄褐色土小ブロック混） ②淡黒褐色	×		
45	18.0×17.0	26.0	2.084	1	淡黒褐色	×		
46	20.0×18.0	14.0	2.101	1	暗褐色	×		
47	20.0×16.0	20.0	2.100	2	①暗褐色 ②灰黄褐色（暗褐色土小ブロック混）	×		
48	10.0×10.0	10.0	2.164	1	暗褐色	×		
49	23.0×20.0	18.0	2.025	1	暗褐色	×		
50	21.0×16.0	18.0	1.768	1	淡黒褐色	×		
51	20.0×19.0	16.0	1.857	2	①淡黒褐色 ②暗褐色	×		
52	23.0×22.0	34.5	1.480	1	淡黒褐色	×		
53	24.0×23.0	12.0	2.973	1	暗褐色	×		
54	19.0×15.0	13.0	2.917	1	暗褐色	×		
55	20.0×17.0	14.0	2.672	1	暗褐色	×		
56	15.0×15.0	23.0	2.598	1	淡黒褐色	×		
57	21.0×17.0	20.0	2.680	1	暗褐色	×		
58	15.0×14.0	10.0	2.655	1	褐色	×		
59	21.0×18.0	16.5	2.561	1	暗褐色	×		
60	35.0×32.0	29.0	2.330	1	暗褐色（黄褐色土粒混）	×		
61	19.0×17.0	17.0	2.410	1	暗褐色	×		
62	30.0×26.5	26.5	2.356	3	①淡黒褐色 ②淡黒褐色（黄褐色土大粒混） ③黄褐色土ブロック混在	○		
63	16.0×15.0	15.0	2.410	1	暗褐色	×		
64	23.0×16.0	14.0	2.323	1	暗褐色	×		
65	28.0×23.0	30.0	2.106	1	淡黒褐色	×		
66	22.0×17.0	19.0	2.218	1	淡黒褐色	×		
67	21.5×18.0	19.0	2.194	1	淡黒褐色	×		
68	20.0×19.0	19.0	2.193	1	淡黒褐色	×		
69	12.0×11.0	7.0	2.280	1	淡黒褐色	×		
70	20.0×18.0	13.5	2.176	1	暗褐色	×		

71	29.0×23.0	17.0	2.045	1	淡黒褐色	×		
72	33.0×22.0	37.0	1.853	2	①淡黒褐色 ②茶褐色（黄褐色土粒混）	×		
73	23.0×21.0	25.0	1.895	2	①淡黒褐色 ②褐色（黄褐色土小粒混）	×		
74	20.0×16.0	20.0	2.682	1	淡黒褐色	×		
75	32.0×21.0	40.0	1.653	1	淡黒褐色	×		
76	27.0×23.0	23.0	1.085	1	淡黒褐色	×		
77	18.0×17.0	18.5	3.133	1	淡黒褐色	×		
78	16.0×14.0	10.0	2.915	1	暗褐色（淡黒褐色土小粒混）	×		
79	22.0×20.0	14.0	2.820	1	淡黒褐色	×		
80	16.0×12.5	14.0	2.748	1	淡黒褐色	×		
81	64.0×44.5	18.0	1.263	1	淡黒褐色	×		
82	30.0×21.0	26.0	1.775	2	①淡黒褐色 ②暗灰褐色	×		
83	25.0×23.0	30.0	1.243	1	淡黒褐色	×		
84	26.0×24.0	26.0	1.271	1	淡黒褐色	×		
85	23.0×21.0	20.0	1.049	1	淡黒褐色	×		
86	36.0×35.0	19.0	1.034	1	淡黒褐色	×		
87	34.0×25.0	28.0	0.720	2	①淡黒褐色 ②暗褐色（黄褐色土粒混）	×		
88	26.0×23.0	26.0	0.584	1	淡黒褐色	×		
89	37.0×26.0	13.0	2.623	1	淡黒褐色	×		
90	26.0×19.0	20.0	2.135	2	①淡黒褐色 ②暗褐色（淡黒褐色土粒混）	○		
91	20.0×20.0	24.0	1.600	1	黒褐色	×		
92	26.0×26.0	46.0	1.300	1	黒褐色	×		
93	22.0×21.0	16.0	2.493	1	暗褐色	×		
94	24.0×19.0	20.0	0.760	1	淡黒褐色	×		
95	35.0×35.0	29.0	0.444	1	淡黒褐色	×		
96	24.0×18.5	17.5	0.538	1	淡黒褐色	×		
97	32.0×31.0	31.0	0.395	1	淡黒褐色	×		
98	24.0×24.0	19.0	2.870	1	淡黒褐色	×		
99	25.0×21.0	21.0	0.857	1	暗褐色	×		
100	23.0×21.0	29.0	2.820	1	淡黒褐色	×		
101	15.0×12.0	10.0	3.426	1	淡黒褐色（黄褐色土小粒少量混）	×		
102	28.0×24.0	11.0	3.213	1	淡黒褐色	×		
103	17.0×16.0	11.5	3.145	1	淡黒褐色	×		
104	26.0×22.0	16.0	2.992	1	暗褐色（黒褐色・黄褐色土小粒混）	×		
105	21.5×20.0	11.0	2.699	1	淡黒褐色	×		
106	21.0×18.0	13.0	2.655	1	淡黒褐色	×		
107	20.0×19.0	9.0	2.440	1	淡黒褐色	×		

108	42.0×40.0	21.0	1.199	2	①淡黒褐色 ②暗褐色（黄褐色土粒混）	×		
109	23.0×22.0	8.5	3.172	1	淡黒褐色	×		
110	27.0×25.0	20.0	3.057	1	淡黒褐色	×		
111	24.0×20.0	39.0	2.715	1	黒褐色	×		
112	18.0×16.5	21.0	2.800	1	黒褐色	×		
113	17.0×17.0	14.0	2.810	1	淡黒褐色	×		
114	16.0×16.0	8.5	2.940	1	淡黒褐色	×		
115	32.0×22.0	19.5	2.641	1	淡黒褐色（褐色土ブロック混）	×		
116	22.0×15.0	10.0	2.797	1	淡黒褐色	×		
117	18.0×16.0	10.5	2.793	1	淡黒褐色	×		
118	27.0×22.0	16.0	2.421	1	淡黒褐色	×		
119	56.0×48.0	18.0	1.093	1	淡黒褐色	×		
120	48.5×39.0	14.5	0.960	1	暗褐色	×		
121	46.5×39.0	15.5	0.571	1	褐色	×		
122	74.0×52.0	39.0	0.244	1	淡黒褐色	×		
123	45.0×34.0	25.0	1.955	1	淡黒褐色	×		
124	40.0×35.0	13.5	1.296	1	淡黒褐色	×		
125	45.0×38.0	41.0	1.906	1	黒褐色	×		
126	39.0×35.0	22.0	2.975	1	淡黒褐色	×		
127	40.0×31.0	16.5	2.616	1	淡黒褐色	×		
128	38.0×25.0	23.0	2.110	1	淡黒褐色	×		
129	53.0×42.0	20.5	2.075	1	淡黒褐色	×		
130	52.0×45.0	40.0	1.736	1	暗褐色	×		
131	24.0×22.0	23.0	1.742	1	淡黒褐色	×		
132	26.0×25.0	84.0	2.775	1	黒褐色	×		
133	12.5×12.0	56.5	2.950	1	黒褐色	×		
134	20.0×13.0	12.0	3.337	1	暗褐色	×		
135	42.0×26.0	11.0	2.755	1	淡黒褐色	×		
136	21.0×18.0	8.5	2.653	1	淡黒褐色	×		
137	57.0×42.0	28.5	2.088	2	①淡黒褐色 ②淡黒褐色（黒褐色・黄褐色土ブロック混）	×		
138	25.5×24.0	10.0	2.405	1	淡黒褐色	×		
139	23.0×19.0	11.0	2.372	1	淡黒褐色	×		
140	21.5×20.0	6.5	1.845	1	褐色	×		
141	20.0×17.0	14.0	1.786	1	暗褐色	×		
142	18.0×16.0	19.0	3.199	1	淡黒褐色	×		
143	28.0×20.0	13.5	3.643	1	淡黒褐色	×		
144	41.0×34.0	15.0	3.508	1	淡黒褐色	×		
145	18.0×18.0	16.5	3.364	1	暗褐色	×		

146	24.0×19.5	10.5	3.376	1	暗褐色	×		
147	24.5×22.5	13.5	3.290	1	暗褐色	×		
148	12.0×11.0	13.5	3.188	1	淡黒褐色	×		
149	45.5×37.0	13.0	3.155	1	淡黒褐色（褐色土ブロック混）	×		
150	18.0×17.0	8.0	3.130	1	暗褐色	×		
151	20.0×18.0	9.0	3.075	1	暗褐色	×		
152	22.0×20.0	10.0	2.937	1	暗褐色	×		
153	27.0×23.0	17.5	2.403	1	黒褐色	×		
154	16.0×15.0	6.5	2.866	1	淡黒褐色	×		
155	41.0×33.0	10.0	2.816	1	淡黒褐色	×		
156	20.0×17.0	11.5	2.748	1	淡黒褐色	×		
157	27.0×25.0	11.5	2.675	1	暗褐色	×		
158	15.0×13.0	16.0	2.287	1	暗褐色	×		
159	55.0×42.0	18.5	2.094	1	淡黒褐色	×		
160	22.0×21.0	10.5	2.800	1	暗褐色	×		
161	23.0×22.0	9.5	2.778	1	暗褐色	×		
162	30.0×30.0	24.0	2.527	1	淡黒褐色	×		
163	15.0×13.0	8.0	2.608	1	暗褐色	×		
164	31.0×24.0	19.0	2.434	1	淡黒褐色	×		
165	37.0×20.0	14.0	2.504	1	淡黒褐色	×		
166	55.0×45.0	18.0	3.156	1	淡黒褐色	×		
167	30.0×26.0	14.5	3.105	1	淡黒褐色	×		
168	33.0×31.0	13.5	2.840	1	淡黒褐色	×		
169	30.0×20.0	10.0	2.394	1	暗褐色（黒褐色・黄褐色土大粒混）	×		
170	18.0×17.0	6.0	2.470	1	暗褐色	×		
171	53.0×43.0	15.0	3.227	1	淡黒褐色	×		
172	36.0×35.0	53.5	2.716	1	黒褐色	×		
173	23.0×19.0	14.5	4.145	1	黒褐色	×		
174	24.5×12.5	28.0	3.424	1	淡黒褐色	×		
175	20.0×19.5	10.5	3.595	1	暗褐色	×		
176	21.0×20.0	16.0	3.445	1	淡黒褐色	×		
177	22.0×22.0	38.5	3.294	1	淡黒褐色	×		
178	20.0×18.0	19.5	3.494	1	淡黒褐色	×		
179	30.0×25.5	72.5	2.695	1	淡黒褐色	×		
180	57.0×52.0	15.5	3.015	1	淡黒褐色	×		
181	25.0×19.0	12.0	3.140	1	暗褐色	×		
182	18.0×16.5	21.0	3.126	1	暗褐色	×		
183	34.0×30.0	19.0	3.391	1	淡黒褐色	×		
184	42.0×33.0	15.0	4.080	1	淡黒褐色	×		

185	30.0×26.0	10.0	3.964	1	淡黒褐色	×		
186	37.5×34.0	12.0	4.060	1	淡黒褐色	×		
187	31.0×29.0	11.5	3.727	1	淡黒褐色	×		
188	18.0×16.0	12.5	3.632	1	暗褐色	×		
189	27.0×22.0	14.5	3.674	1	淡黒褐色	×		
190	26.0×24.0	18.0	3.687	1	淡黒褐色	×		
191	43.0×42.0	22.5	3.600	1	淡黒褐色	×		
192	25.0×22.0	8.5	4.081	1	暗褐色	×		
193	38.0×31.0	12.0	4.100	1	淡黒褐色	×		
194	31.0×30.0	10.5	4.081	1	淡黒褐色（189より濃い）	×		
195	50.0×35.0	20.0	4.239	1	暗褐色	×		
196	38.0×33.0	22.5	4.151	2	①暗褐色（黄褐色土小粒少量混） ②淡黒褐色	×		
197	25.0×23.0	8.5	4.125	1	淡黒褐色（190より薄い）	×		
198	16.0×13.0	15.0	2.822	1	黒褐色	×		
199	17.5×16.0	9.5	3.855	1	淡黒褐色（黄褐色土小粒少量混）	×		
200	15.0×15.0	20.0	3.895	1	黒褐色	×		
201	21.0×20.0	32.5	2.386	1	黒褐色	×		
202	20.0×18.0	22.5	2.486	1	黒褐色	×		
203	17.0×13.5	6.0	3.061	1	淡黒褐色	×		
204	16.0×14.0	10.0	3.234	1	淡黒褐色	×		
205	17.0×16.0	7.5	3.220	1	暗褐色	×		
206	16.0×14.0	5.5	3.110	1	暗褐色	×		
207	22.0×15.0	6.5	3.047	1	暗褐色	×		
208	24.0×18.0	11.0	2.954	1	淡黒褐色	×		
209	25.0×20.0	14.0	2.866	1	淡黒褐色	×		
210	15.0×11.0	11.0	2.680	1	淡黒褐色	×		
211	38.0×30.0	14.0	2.867	1	黒褐色	×		
212	17.5×16.0	14.0	2.898	1	淡黒褐色	×		
213	44.0×26.0	14.5	3.076	1	暗褐色（黄褐色土小粒少量混）	×		
214	23.0×23.0	28.0	2.915	1	暗褐色	×		
215	29.0×26.0	42.5	2.845	2	①茶褐色 ②暗褐色（黄褐色土小粒混）	×		
216	33.0×30.0	39.0	2.802	1	淡黒褐色	×		
217	34.0×31.0	8.5	3.665	1	暗褐色	×		
218	36.5×33.0	13.0	3.598	1	淡黒褐色	×		
219	27.0×25.0	5.5	3.666	1	淡黒褐色	×		
220	20.0×18.0	9.5	3.583	1	黒褐色	×		
221	26.0×21.0	11.5	3.401	1	黒褐色	×		
222	19.0×16.0	6.5	3.365	2	①淡黒褐色 ②暗灰褐色（黄褐色土小粒少量混）	×		

223	12.5×12.5	5.5	3.348	1	暗褐色	×		
224	28.0×25.0	21.0	2.927	2	①暗褐色（黄褐色・黒褐色土小ブロック少量混） ②淡黒褐色	×		
225	29.0×25.0	30.0	2.826	1	黒褐色	×		
226	24.0×22.0	6.5	3.063	1	淡黒褐色	×		
227	28.0×27.0	33.0	2.738	1	黒褐色	×		
228	19.0×18.0	10.0	3.833	2	①淡黒褐色 ②暗灰褐色（黄褐色・黒褐色土小粒少量混）	×		
229	18.0×14.0	6.0	5.026	1	淡黒褐色	×		
230	18.0×18.0	6.5	5.085	1	淡黒褐色	×		
231	50.0×44.0	9.0	5.067	1	暗褐色	×		
232	14.0×14.0	11.5	5.056	2	①淡黒褐色 ②暗褐色（黄褐色土小ブロック混）	×		
233	40.0×33.0	11.5	5.250	1	淡黒褐色	×		
234	15.0×13.0	5.0	4.954	1	淡黒褐色	×		
235	20.0×18.0	12.0	4.795	1	淡黒褐色	×		
236	18.0×12.0	4.5	4.725	1	淡黒褐色	×		
237	20.0×16.0	9.5	4.781	1	淡黒褐色	×		
238	20.0×18.0	8.5	4.744	1	暗褐色	×		
239	36.0×18.0	8.5	4.768	1	淡黒褐色	×		
240	37.0×30.0	7.5	4.780	1	淡黒褐色	×		

※　土質は全て粘質土
※　標高は高さ欄の数値に188mを加えたもの
　　（例）標高190.123m　　：190.123-188=2.123 --- 欄数字

SI-02

挿表 8　土器・土製品観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po1	19	14	壺	①12.8 ②26.9 ③13.6 ④ 5.1	口縁部が上方にやや肥厚して面を持つ。肩の張りは非常に弱い。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴電上半タテハケ、下半タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテナデ。 肩部以下ナナメヘラケズリ 底部指頭圧痕。	やや密 0.5～1㎜大の石英を多く含む	良好	内外面ともに黒褐色～淡黄色	外面にススが付着 ほぼ完形 S－14
Po2	19	14	壺	②26.0△ ④ 6.0	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。肩部は張らない。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部上半タテ・ナナメハケ 下半タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…口頸部ヨコナデ。 肩部タテ・ナナメハケ。 胴部タテヘラケズリ。 底部指頭圧痕。	密 砂粒を多く含む	良好	内面にぶい橙色 外面にぶい橙色～茶褐色	胴部にスス多量付着 YH－20
Po3	19	14	壺	①11.2 ②26.9 ④14.4※ ⑤ 5.6※	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。肩部はあまり張らない。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部上半タテ・ヨコハケ、下半タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴電上半タテ・ヨコ・ナナメハケ、下半タテヘラケズリ。 底部指頭圧痕。	やや密	良好	内外面ともに黒褐色～黄橙色	外面にスス多量に付着 S－17
Po4	19		壺	①13.0※ ②ー5.7△	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部ナデ、指頭圧痕。	やや密	やや不良	内外面ともに橙色	S－16
Po5	19	14	台付 甕部	②21.0△ ⑤ 9.3	「ハ」の字状に短く開く脚台を持つ。裾台端部は外傾する面を持つ	外面…胴部ヘラミガキ。 裾台部ヨコナデ。 内面…胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 脚台部上半指頭圧痕擬ナデ 下半ヘラケズリ後粗いヨコナデ。	密 多量の砂粒を含む	良好	内面灰褐色 外面橙色	うすく全体にススが付着 YH－19
Po6	19	14	壺	①24.4※ ②33.9※ ④27.8※	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁、肩部上下間隔を欠損するが口縁は内傾して面を持ち、残存部に1条の凹線を施す。 頸部には3条の凹線が巡る。	外面…頸部から胴部上半タテハケ 胴部下半調ためのため調整不明。 底部ナデ。 内面…口頸部調ためのため調整不明 胴部上半タテハケ、下半タテヘラケズリ。 底部ナデ。	密 多量の砂粒を含む	良好	内面にぶい黄橙色～褐色 外面にぶい黄橙色	全体に黒斑が見られる YH－21
Po7	20	14	壺	① 9.0 ②16.9 ④14.9 ⑤ 5.0	口縁部は上下に拡張されてくりあげ口縁を呈し、端部にはヘラ状工具による縦刻文を施す。頸部には3条の凹線が巡り、胴部は算盤玉状にふくらみかける。	外面…口頸部ナデ。 胴部調整不明。 下半はヘラミガキか？ 内面…口頸部ナデ。 胴部下半タテヘラケズリ。 中位タテ・ナナメハケ。上半調整不明。	やや密 1㎜前後の石英を多く含む	良	内外面ともに浅黄橙色	外面赤彩 S－15
Po8	20	15	高坏	②21.0△ ④11.8	口縁端部を欠損する高坏。脚部は「ハ」の字状に開き、端部は上方に拡張される。外面に5条の凹線が巡るが、一番上が消される。円盤充填による坏部は緩く内湾する。	外面…坏部タテヘラミガキ。 脚部ナデ。 内面…坏部タテ・ナナメハケ。 底部指頭圧痕。 脚部上端しぼりめ。 他はヨコヘラケズリ。	やや密 1㎜大の砂粒を含む	良好	内外面ともに浅黄橙色～橙色	外面赤彩 S－10

SI-03

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po9	22		壺	①12.6※ ②ー5.2△	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁、肩張上下端部を欠損するが口縁は内傾して面を持ち残存部に2条の凹線がある。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部ナデ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。	密	やや不良	内面にぶい赤褐色 外面橙色～暗赤褐色	外面にススが付着 P4内 S－29
Po10	22		底部	②ー2.8△ ④ 6.0※	平底。	外面…胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…胴部ヘラケズリ。 底部指頭圧痕。	密 石英を含む	良好	内面にぶい黄橙色 外面にぶい褐色～暗褐色	P2内 S－30

SI-04

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po11	25	15	壺	①19.2※ ②14.4△	口容部を上下に拡張したくりあげ口縁。拡張上端を欠損するが、口縁は内傾して面を持ち、残存部に3条の凹線を施す。	外面―口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面―胴部ナナメハケ。 他は風化のため調整不明。	密 砂粒多く含む	良好	内外面ともに 橙色	外面赤彩 小山－17
Po12	25	15	壺	①15.4※ ②5.7△	口容部を上方に拡張したくりあげ口縁。拡張下端を欠損するが、口縁は内傾して面を持ち、残存部に2条の凹線を施す。頸部に2条の凹線が巡る。	外面―頸部タテハケ。 口縁部風化のため調整不明 内面―ヨコナデ。	密	やや不良	内外面ともに 明黄褐色	小山－18
Po13	25	15	直口壺	①9.8※ ②5.5△	直立する口縁部。口縁端部は面を持つ。	外面―タテハケ後粗いナデ消し。 内面―上半ヨコナデ。下半タテハケ後粗いナデ消し。	密	良好	内外面ともに 橙色	外面及び口縁端部内面赤彩 小山－20
Po14	25	15	壺 胴部	②5.9△ ③15.5※	張り出す胴部。	外面―タテ・ヨコハケ。 内面―ヨコナデ。	密 砂粒含む	良好	内面橙色 外面橙色～にぶい赤褐色	外面赤彩 小山－21
Po15	25		壺 胴部	②5.4△ ③15.6※	算盤玉状に張り出す胴部。	内外面とも風化のため調整不明。	密 砂粒含む	良好	内外面ともに 橙色	外面赤彩 小山－19

SI-05

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po16	27	16	壺	①15.8※ ②4.6△	口容部が上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	内外面ともヨコナデ。	密 砂粒を含む	良好	内外面ともに 灰褐色	外面にスス付着 YH－45
Po17	27	16	底部	②4.6△ ④7.0※	平底。	外面―胴部ヘラミガキ。 底部ナデ。 内面―タテヘラケズリ。	密 砂粒を含む	良好	内面にぶい黄橙色 外面明黄褐色～にぶい黄橙色	全体に黒斑有り YH－37

SB-02

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po18	30		脚部	②4.7△ ⑤11.4※	「ハ」の字状に開く脚部。端部は上下に拡張されて面を持ち、3条の凹線を施す。	外面―ナデ。 内面―筒部ヘラケズリ。 脚端部ナデ。	密 少量の砂粒を含む	良好	内外面ともににぶい黄橙色	P4内 YH－22

SK-01

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po19	34	16	底部	②2.7△ ④6.0※	平底。	外面―胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面―胴部タテヘラケズリ。 底部ケズリ。	密 砂粒含む	良好	内面橙色 外面明褐色	小山－3

SK-03

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po20	37	15	壺	①14.0※ ②7.0△	口唇部はわずかに上方に肥厚し面を持つ。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部風化のため調整不明瞭だがナデか？	密	良	内外面ともににぶい橙色	YH－38
Po21	37	16	壺	①19.8※ ②18.0△	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。胴部に径2～3mの円形の刺突が1箇所。肩部はあまり張らない。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテ・ナナメハケ。 内面…口頸部ヨコナデ。胴部上半ナナメハケ後ナデ消し、下半ヘラケズリ。	密 細砂を含む	良	内面褐色 外面灰褐色	S－1
Po22	37	15	底部	②12.3△ ④7.3	平底。	外面…底部ナデ。 胴部タテヘラミガキ。 内面…底部ナデ。 胴部ヘラケズリ。	密	良	内外面ともに淡黄色～黄灰色 底部暗褐色	S－2

SK-04

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po23	40	15	壺	①19.6※ ②22.8△ ④34.0※	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、5条の凹線を施す。頸部に刻み目凸帯突帯が貼り付けられるが、粗くナデつぶされる。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部上半タテハケ、下半タテヘラミガキ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部上半ヨコ・ナナメハケ下半タテヘラケズリ。 肩部指頭圧痕。	密	良好	内面淡褐色～褐褐色 外面ににぶい橙色～淡褐色	S－3
Po24	40	16	壺	①17.6※ ②6.6△	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。胴部に刺突文の一部がみられる。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部指頭圧痕。	密 0.5mm大の砂粒を含む （石英、雲母有）	良好	内面橙色 外面橙色～灰褐色	S－4
Po25	40	16	壺	①15.0※ ②3.7△	口唇部は上端を欠損する。内傾する残存面には1条の凹線がある。頸部には突帯状に粘土が貼り付けられるがナデつぶされる。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…風化のため調整不明。	密	良	内外面ともに灰白色	YH－39
Po26	40	15	底部	②9.8△ ④6.4※	平底。	外面…胴部ヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…底部ヘラケズリ。 胴部風化のため調整不明。	やや密 1mm大の砂粒含む	良	内面灰褐色 外面ににぶい黄橙色～褐灰色	S－5

SK-08

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po27	44	17	壺 (?)	①15.2※ ②2.2△	口頸部を上方に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、5条の凹線を施す。	内外面ともナデ。	密	良好	内外面ともに橙色	YH－40
Po28	44	17	壺	①9.4※ ②1.2△	口唇部を上方に拡張した口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。3つの円形浮文が残る。	内外面ともヨコナデ。	密	良	内外面ともに黄橙色	全面に赤彩 O－22・23グリ出土あり 西川－1

SK-09

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po29	46	17	壺	①17.3㎝ ②23.8 ③26.9㎝ ④10.4	口唇部を上方に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、2条の凹線を施す。胴部中位が張り出す	外面―口頸部ヨコナデ。 胴部タテ・ヨコハケ、下端タテヘラミガキ。 底部ヘラケズリ後ナデ消し 内面―口頸部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ、中位以下タテヘラケズリ。 底部指頭圧痕。	密 砂粒多く含む	良好	内外面ともに赤い黄橙色	小山－13
Po30	46	17	壺	①21.0㎝ ②19.6△	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。頸部に引き出し突帯が貼り付けられ、突帯の下に指頭圧痕が連続する。胴部中位に貝殻腹縁による刺突文を施す。	外面―口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面―口頸部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。	密 砂粒含む	良好	内外面ともに橙色	黒斑有り 小山－8
Po31	46	17	壺	①13.6㎝ ②5.8△	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	外面―口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ後粗いナデ消し。 内面―口頸部ヨコナデ。 胴部ヨコハケ後粗いナデ消し。	密 砂粒含む	良好	内面灰色～明赤褐色 外面橙色～にぶい赤褐色	小山－2
Po32	46	17	壺	①15.2㎝ ②7.2△	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。	外面―口頸部ヨコナデ。 胴部粗いヨコハケ後タテハケ。 内面―口頸部ヨコナデ。 胴部ヨコハケ。	密	良好	内外面ともに橙色	小山－12
Po33	46	17	壺	①16.8㎝ ②5.8△	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。	外面―口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面―口頸部ヨコナデ。 胴部ヨコハケ。	密	良好	内外面ともに赤い黄橙色	外面にスス少量付着 S－11
Po34	46	17	壺	①17.7㎝ ②8.2△	口唇部を上方に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	外面―口頸部ヨコナデ。 胴部粗いタテハケ。 内面―口頸部ヨコナデ。 胴部粗いヨコ・ナナメハケ	密 砂粒含む	良好	内外面ともに橙色	小山－14
Po35	46	17	壺	①18.4㎝ ②8.0△	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	外面―口頸部ヨコナデ。 胴部タテ・ナナメハケ。 内面―口頸部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ後粗いナデ消し。	密 砂粒含む	良好	内外面ともに橙色	小山－11
Po36	46	17	壺	①19.5㎝ ②3.1△	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。	内外面ともナデ。	密 砂粒含む	良好	内外面ともに橙色～にぶい褐色	小山－1
Po37	46	17	壺	①20.4㎝ ②21.0△	口唇部上端を欠損したくりあげ口縁。口唇部は内傾して面を持ち、残存部で3条の凹線を施す。胴部にヘラ状工具による刺突文が一条巡る。	外面―口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面―口縁から頸上半ヨコナデ。 肩下半ヘラケズリ。	密 0.5～1㎜大の砂粒含む	良好	内面にぶい橙色～暗赤褐色 外面にぶい黄橙色	外面にスス付着 S－12
Po38	47	17	底部	②3.2△ ④5.6㎝	平底。	外面―胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面―胴部タテヘラケズリ。 底部ナデ。	密 少量の石英を含む	良好	内面浅黄橙色 外面橙色	YH－41
Po39	47	17	底部	②6.6△ ④6.6㎝	平底。	外面―胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 風化のため調整不明瞭。 内面―胴部タテ・ナナメヘラケズリ。 底部ナデ。	密 砂粒多く含む	良好	内面橙色 外面橙色～明赤褐色	小山－16
Po40	47	17	底部	②6.6△ ④6.8	平底。	外面―胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面―胴部タテヘラケズリ。 底部ナデ。	密 砂粒含む	良好	内外面ともに明黄褐色	小山－10
Po41	47	17	壺	②14.2△	大型壺の頸部。	外面―タテハケ。 内面―上端ヨコナデ。中位ヨコハケ、一部工具によるナデ。下半調整のため調整不明。	密 砂粒多く含む	良好	内外面ともににぶい赤褐色～橙色	小山－15

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po42	47	17	壺	①9.2◎ ②8.1△ ③16.1 ④5.7	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁。拡張上下端面を欠損するが口縁は内傾して面を持ち、残存部に2条の凹線を施す。頸部には3条の凹線が廻り、胴部が張る。ふくらんだ胴部には、ヘラ状工具による線刻文を施す。	外面…口縁部ヨコナデ。 頸部から胴部中位タテハケ 胴部下位タテヘラミガキ。 内面…口縁部ナデ。 胴部上半タテ・ヨコハケ、下半タテヘラケズリ。	密	良	内外面ともに橙色～赤橙色	外面赤彩 小山－7
Po43	47	17	鉢形	②5.6△ ③13.0	「∧」の字状に開く脚端部を上方に拡張する。外面に4条の凹線を施す。	外面…脚端部ヨコナデ。 脚台部属位のため調整不明 内面…ヨコヘラケズリ。	密 砂粒多量含む	良好	内外面ともに橙色～にぶい黄橙色	内外面赤彩 小山－9

SK-10

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po44	48	18	壺	①14.3※ ②2.1△	口頸部が上方へ拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の弱い凹線を施す。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…ヨコナデ。	密 砂粒を含む	良好	内外面ともに明褐灰色	YH－43

SK-12

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po45	52	18	台付鉢	①20.1 ②27.7 ③26.2 ④8.8 ⑤11.1	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、5条の凹線を施す。底部に短く「ハ」の字状に開く台部がつく。胴部が張る。	外面…口頸部・台部ヨコナデ。 胴部上半タテハケ、下半タテヘラミガキ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ、下半タテヘラケズリ。 底部ナデ。 台部ヘラケズリ後ナデ消し	密	良	内外面ともに橙色	外面にスス付着 ほぼ完形 S－8
Po46	52		底部	②4.4△ ④5.4※	平底。	外面…胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…タテヘラケズリ後ナデ消し	密	良好	内面灰白色 外面灰白色～にぶい黄褐色	S－27
Po47	52		底部	②1.8△ ④4.4※	平底。	外面…ナデ痕。 内面…胴部ヘラケズリ。 底部指頭圧痕。	密 細砂含む	良好	内面褐色～暗褐色 外面橙色	S－28

SK-15

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po48	57	18	壺	①20.6※ ②5.8△	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテ・ナナメハケ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。	密 1㎜程度の石英を多量に含む	良好	内外面ともににぶい橙色	YH－24
Po49	57	18	底部	②5.2△ ④6.6※	平底。	外面…胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…胴部タテヘラミガキ。 底部風化のため調整不明。	密 多量の砂粒を含む	良好	内外面ともに暗褐色	外面全体にうすくスス付着 YH－23

SK-16

遺物番号	第図番号	図版番号	器種	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
P o 50	5 9	1 8	甕	①14.0㎝ ②　5.7㎝	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	外面―口縁部ヨコナデ。 　胴部タテハケ。 内面―口縁部ヨコナデ。 　胴部ナナメハケ。	密 1㎜大の石英含む	良好	内外面ともに橙色	S－33
P o 51	5 9	1 8	甕	①16.0㎝ ②　6.2㎝	口縁部を上方に大きく拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	外面―口縁部ヨコナデ。 　胴部タテハケ。 内面―口縁部ヨコナデ。 　胴部成化のため調整不明。	密	良	内面において赤褐色～灰黄色 外面明黄褐色	S－31
P o 52	5 9	1 8	甕	①17.4㎝ ②10.5㎝	口縁部を上方に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	外面―口縁部ヨコナデ。 　胴部タテハケ。 内面―口縁部ヨコナデ。 　胴部タテハケ後ナデ消し。	密 細砂含む	良好	内面橙色～褐色 外面明黄褐色～褐色	小山－32
P o 53	5 9	1 8	甕	①17.4㎝ ②　4.8㎝	口縁部を上方に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	外面―口縁部ヨコナデ。 　胴部タテハケ。 内面―口縁部ヨコナデ。 　胴部タテハケ。	密	良好	内外面ともに橙色	S－32
P o 54	5 9	1 8	甕	①17.5㎝ ②　7.2㎝	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。	外面―口縁部ヨコナデ。 　胴部タテハケ。 内面―成化のため調整不明。	やや密	不良	内外面ともに灰白色～黒褐色	S－36
P o 55	5 9	1 8	甕	①18.6㎝ ②　2.9㎝	口縁部を上方に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。頸部に粘み目圧痕突帯が巡る。	内外面ともヨコナデ。	密	やや不良	内外面ともに明黄褐色	小山－34
P o 56	5 9	1 8	甕	①18.8㎝ ②　8.0㎝	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁。拡張上下端を欠損するが、口縁は内傾して面を持ち、残存部に4条の凹線がある。	外面―口頸部ヨコナデ。 　胴部タテ・ナナメハケ。 内面―口頸部ヨコナデ。 　胴部指頭圧痕。 　胴部中位ナナメハケ。	密	良好	内面灰橙色 外面黄橙色～黒褐色	小山－33
P o 57	5 9	1 8	甕	①19.6㎝ ②　3.6㎝	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、6条の凹線を施す。頸部には粘み目圧痕突帯が貼り付けられる。	内外面ともヨコナデ。	密	不良	内外面ともににぶい黄橙色	YH－35
P o 58	5 9	1 8	壺	①15.2㎝ ②　7.4㎝	口頸部を上方に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。口縁部は緩やかに外反する。頸部には4条の凹線を施す。	外面―口縁部ヨコナデ。 　頸部タテハケ。 内面―ヨコナデ。	密	良好	内面において橙色 外面において黄橙色	S－35
P o 59	5 9	1 8	壺	①17.0㎝ ②　5.5㎝	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁。拡張上端を欠損するが、口縁は内傾して面を持ち、残存部に1条の凹線を施す。口縁部は緩やかに外反する。頸部には3条の凹線が認められる。	外面―風化のため調整不明。 内面―口縁から頸部上半ヨコナデ 　頸部下半ナナメハケ。	密	良	内面黒褐色 外面灰黄色	S－37
P o 60	5 9	1 8	壺	①20.6㎝ ②　4.4㎝	口頸部を下方に大きく拡張した口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	外面―口縁部ヨコナデ。 　頸部タテハケ。 内面―口縁部ヨコナデ。 　頸部下端ナナメハケ。	密 砂粒を含む	良好	内面灰黄褐色 外面において黄橙色～にぶい黄橙色	YH－34
P o 61	5 9	1 8	壺	①22.8㎝ ②　2.8㎝	口頸部を上下に拡張した口縁。拡張下端を欠損するが、口縁は内傾して面を持ち、残存部に1条の凹線を施す。口縁部は大きく外反する。	外面―風化のため調整不明。 内面―口縁部ヨコナデ。 　頸部ヨコハケ。	密	やや不良	内外面ともに橙色	S－48
P o 62	5 9	1 8	壺	①23.4㎝ ②　1.2㎝	口頸部を上下に拡張した口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	内外面ともヨコナデ。	密	良好	内外面ともに橙色	スス状物質付着 S－49
P o 63	5 9	1 8	底部	②　3.5㎝ ④　5.6㎝	平底。	外面―胴部タテヘラミガキ。 　底部ナデ。 内面―胴部タテヘラケズリ。 　底部指頭圧痕。	密	良好	内面橙色 外面黒褐色	外面にスス付着 S－39

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po64	59	18	底部	②2.7△ ④7.2※	平底。	外面…胴部ヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…指頭圧痕。	密	良好	内面黄橙色 外面淡黄橙色 ～黒褐色	S－40
Po65	59	18	脚台部	③4.5△ ⑤10.0※	「ハ」の字状に短く開く脚台部。	外面…胴部ナデヘケ。 脚台部ナデ。 内面…胴部ナデヘラケズリ。 脚台部ヨコヘラケズリ。	密 細砂を含む	良好	内外面ともに 暗褐色	S－41
Po66	59		高坏	①17.0※ ②2.3△	緩く内湾する口縁端部を内外に拡張する。端部に面を持ち、3条の凹線を施すが、一部ナデつぶされる。	外面…ナデ。 内面…上半ヨコナデ、下半ヨコハケ。	密	良好	内面橙色 外面赤橙色	外面赤彩 S－38
Po67	59	18	脚部	②14.4△ ⑤23.6※	「ハ」の字状に開く脚部がすぼまりながら上方にのびる。下方に8条、三角形状の残存部点貫通の施り孔を挟んで上方に11条の凹線を施す。	外面…ナデ。 内面…ヨコ・ナナメヘラケズリ。	やや粗 2㎜大の石英を多く含む	良好	内面にぶい黄橙色～橙色 外面橙色	外面赤彩 S－50

SK-19

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po68	63	18	甕	①18.6※ ②1.4△	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。	内外面ともヨコナデ。	密	良好	内外面ともににぶい褐色	YH－42
Po69	63	18	甕	①17.0※ ②2.1△	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、3条の凹線を施す。	内外面ともヨコナデ。	密	良好	内外面ともに橙色	S－42

SK-20

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po70	65	19	底部	②1.9△ ④6.2	平底。	外面…胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…風化のため調整不明。	密 砂粒を含む	良好	内面にぶい橙色 外面灰褐色	全面に黒斑が見られる YH－30

SK-21

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po71	66	19	甕	①19.2※ ②4.8△	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内傾して面を持ち、4条の凹線を施す。	外面…口縁部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。	密 砂粒を含む	良好	内外面ともににぶい褐色	YH－25
Po72	66	19	底部	②2.2△ ④5.2※	平底。	外面…胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…ヘラケズリ。指頭圧痕。	密	良好	内外面ともに黒褐色	YH－27
Po73	66	19	分類形土製品	③3.4△ ⑦4.6△ ⑨0.9△	周縁部からくりこみ部にかけて粗い重弧文を施す。穿孔はみられない。	内外面ともナデ。	密	やや不良	内外面ともに灰白色	表面赤彩 小山－22

SK-22

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種 種別	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po74	68	19	壺	①12.8㎝ ②1.9㎝	口唇部を上方に大きく拡張したくりあげ口縁が内接して面を持ち、2条の凹線を施す。	内外面ともヨコナデ。	密 少量の砂粒を含む	良好	内面にぶい褐色 外面橙色～にぶい褐色	外面にスス付着 YH－29
Po75	68	19	壺	①15.8㎝ ②3.8㎝	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内接して面を持ち、4条の凹線を施す。頸部に刻み目圧痕突帯を貼り付ける。	外面一口縁部ヨコナデ。 　　胴部タテハケ。 内面一口縁部ヨコナデ。 　　胴部風化のため調整不明。	密	良好	内外面ともに橙色	S－22
Po76	68	19	壺	①18.8㎝ ②3.2㎝	口唇部を上方に拡張したくりあげ口縁が内接して面を持ち、4条の凹線が施す。頸部には刻み目圧痕突帯が貼り付けられる。	内外面ともヨコナデ。 全体的に風化する。	密	良好	内面にぶい黄橙色 外面灰褐色～明赤褐色	YH－36
Po77	68	19	壺	①23.6㎝ ②3.2㎝	口唇部を上下に拡張したくりあげ口縁が内接して面を持ち、4条の凹線を施す。頸部に刻み目圧痕突帯を貼り付ける。	外面一ヨコナデ。 内面一口縁部ヨコナデ。 　　胴部ヨコハケ。	密 1㎜大の石英を含む	良好	内外面ともに橙色	S－21
Po78	68	19	壺	①21.7㎝ ②7.8㎝	口縁端部を板端に刻め下方に拡張し、3条の凹線を巡らせ、ヘラ状工具による刻み目を施す。	外面一口縁部ヨコナデ。 　　頸部上半タテハケ後ナデ消し、下半タテハケ。 内面一頸部上半ヨコハケ後粗いナデ消し、下半ヨコハケ。	密 細砂を含む	良好	内外面ともに淡褐色	S－16
Po79	68	19	壺	①10.6㎝ ②3.8㎝	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁が内接して面を持ち、4条の凹線を施す。凹線上には棒状原文を貼り付け、刻み目を施す。	外面一口縁部ヨコナデ。 　　頸部タテハケ。 内面一ヨコナデ。	密 細砂を含む	良好	内外面ともに暗褐色	外面赤彩 S－19
Po80	68	19	壺	①14.8㎝ ②3.7㎝	口頸部を上方に拡張したくりあげ口縁が内接して面を持ち、3条の凹線を施す。頸部はほぼ直立し、1条の凹線が残る。	内外面ともに口縁部ヨコナデ。 頸部風化のため調整不明。	やや密 小粒の石英を多量に含む	良好	内面にぶい橙色 外面橙色	YH－44
Po81	68		底部	③4.6㎝ ④5.8㎝	平底。	外面一胴部ヨコナデ。 　　底部ナデ。 内面一ヘラケズリ。	密	良好	内面にぶい黄橙色 外面にぶい橙色	S－26
Po82	68		脚台部	②2.7㎝ ③8.0	「ハ」の字状に短く開く脚台部。	外面一ヨコナデ。 内面一胴部ヘラケズリ。 　　底部指頭圧痕。 　　脚台部ヨコヘラケズリ。	密	良好	内面浅黄色～灰褐色 外面橙色	外面赤彩 S－24
Po83	68	19	高坏	①19.6㎝ ②2.8㎝	直立する口縁を有する高坏の口縁部。外面に4条の凹線を施す。	内外面ともヨコナデ。	密 砂粒含む	良好	内面黄橙色～にぶい黄褐色 外面黄橙色～にぶい黄橙色	小山－35
Po84	68	19	高坏	①28.8㎝ ②2.5㎝	緩く外傾する口縁部。外面に4条の弱い凹線を施す。	内外面ともヨコナデ。	密	良好	内面明褐色 外面黒褐色	S－23
Po85	68	19	分銅形土製品	④5.2㎝ ⑦6.9㎝ ⑧1.0㎝	周縁部からくびれ部にかけて連続して幅5㎜の刻突文を施し、くびれ部では内側に径3㎜の竹管文を施す。周縁部には内側に粗い幅広くもしい痕跡が残る。貫孔は裏面から上縁部にかけて3個望められる。	内外面ともナデ。	密 細砂を含む	良好	内外面ともに茶褐色	表裏面赤彩 S－20

SK-24

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
P o 86	7 1	1 9	甕	①11.8㎝ ②8.9△	口縁部を上方に拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、3条の凹線を施す。	外面…口縁部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。 胴部ヨコ・ナナメ・タテハケ。	密	やや不良	内外面ともに暗褐色～浅黄橙色	外面にスス付着 小山－３３
P o 87	7 1		底部	②7.0△ ④5.5㎝	平底。	外面…胴部風化のため調整不明。 底部ナデ。 内面…胴部タテヘラケズリ。 底部指頭圧痕。	密	やや不良	内外面ともに浅黄色～灰褐色	内外面ともスス付着 S－２５
P o 88	7 1	1 9	高杯	①15.0㎝ ②3.3△	底立する口縁を持つ高杯の坏部。口縁の外面に４条の凹線を施す。	外面…口縁部ヨコナデ。 坏底部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。 坏底部ナナメハケ。	密	やや不良	内面橙色 外面黄橙色	外面赤彩 小山－３１

遺構外

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種種類	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
P o 89	7 4	2 0	壺	①14.2㎝ ②2.3△	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、４条の凹線を施す。	内外面ともヨコナデ。	密 多量の砂粒を含む	良好	内面橙色 外面にぶい橙色	O２２グリ YH－７
P o 90	7 4	2 0	壺	①13.6㎝ ②5.0△	口縁部を上方に拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、３条の凹線を施す。	外面…口縁部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…口縁部から斜部上半ナデ。 胴部下半ナナメハケ。	密 1～2㎜の石英を多量に含む	良好	内外面ともににぶい橙色	O２２グリ YH－１３
P o 91	7 4	2 0	壺	①16.6㎝ ②3.0△	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、３条の凹線を施す。頸部には顕る目圧痕突帯が巡る。	外面…ヨコナデ。 内面…口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。	密 少量の砂粒を含む	良好	内面褐色 外面褐色～暗褐色	外面にスス付着 掘り下げ中 YH－９
P o 92	7 4	2 0	壺	①13.6㎝ ②3.6△	口縁部を上方に拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、４条の凹線を施す。頸部に刻み目圧痕突帯が貼り付けられる。	内外面ともヨコナデ。 全体的に風化する。	密 砂粒含む	やや不良	内外面ともに明黄褐色	O２３グリ 小山－６
P o 93	7 4	2 0	壺	①18.6㎝ ②8.0△	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、４条の凹線を施す。頸部に刻み目圧痕突帯が貼り付けられるが、粗くナデつぶされる。	外面…口縁部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…口縁部ヨコナデ。 胴部タテ・ヨコハケ。	密	良好	内外面ともにぶい橙色～にぶい褐色	O２３グリ 小山－５
P o 94	7 4	2 0	壺	①18.8㎝ ②3.5△	口頸部を上方に大きく拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、４条の凹線を施す。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部風化のため調整不明。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。	密 2㎜大の石英をわずかに含む	良好	内面にぶい橙色 外面橙色	O２２グリ YH－１５
P o 95	7 4	2 0	壺	①19.8㎝ ②9.0△	口縁部を上下に拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、４条の凹線を施す。頸部にはヘラ状工具による刺突が巡る。突帯の貼り付けはない。	内外面ともに口頸部ヨコナデ。 胴部風化のため調整不明。	密 砂粒と2㎜程度の石英を含む	良好	内面にぶい黄橙色 外面にぶい橙色～橙色	外面うすくスス付着 O２３グリ YH－１７
P o 96	7 4	2 0	壺	①20.4㎝ ②8.0△	口頸部を上下に拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、４条の凹線を施す。頸部に刻み目圧痕突帯が貼り付けられる。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部ヨコ・ナナメハケ後粗いナデ消し。	密 砂粒含む	良好	内外面ともに灰色～にぶい褐色	掘り下げ中 小山－４
P o 97	7 4	2 0	壺	①21.0㎝ ②6.5△	口頸部を上方に大きく拡張したくりあげ口縁が内模して面を持ち、４条の凹線を施す。	外面…口頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 内面…口頸部ヨコナデ。 胴部風化のため調整不明。	密 2㎜大の石英を含む	良好	内面にぶい橙色 外面にぶい黄橙色	O２２グリ YH－１６
P o 98	7 4	2 0	底部	②3.1△ ④8.6㎝	平底。	外面…胴部タテヘラミガキ。 底部ナデ。 内面…胴部タテヘラケズリ・指頭圧痕。 底部ナデ。	密 1～2㎜大の石英を含む	良好	内面浅褐色 外面にぶい橙色	掘り下げ中 YH－１

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
Po99	74	20	高坏	①15.0※ ②3.0△	直立する口縁部。外面に4条の凹線を施す。	内外面ともナデ。	密	良好	内面黄褐色 外面暗褐色	O22グリ S-6
Po100	74	20	脚柱部	②5.9△	下方が大きく開く高坏脚部。5条の凹線を施す。	外面一風化のため調整不明瞭だがナデか? 内面一上半しぼり痕。下半ヘラケズリ後ナデ消し。	密 少量の砂粒を含む	良好	内面にぶい褐色 外面灰褐色～にぶい褐色	外面赤彩擦り下げ中 YH-12
Po101	74	20	脚裾部	②20.0※	高坏の脚裾部。下方に13条、上方に12条の凹線文帯。凹線文帯間に二等辺三角形の上向刺突文帯が巡る。上方凹線文帯の上には、下向刺突文帯が巡る。刺突文内にはともに左下がりの平行線が施される	外面一風化のため調整不明。 内面一上半部しぼり痕。 他は風化のため調整不明。	やや密	やや不良	内外面ともににぶい黄橙色	外面赤彩 O22・O23グリ S-9
Po102	74	20	脚部	②6.7△ ③12.8※	「ハ」の字状に開く裾端部を下方に拡張し、方形状の抉りを入れる。外面に8条の凹線を施す。	外面一ヨコナデ。 内面一拡張部ヨコナデ。 他はヨコヘラケズリ。	やや密 1㎜大の石英を多く含む	良好	内外面ともに浅黄橙色	外面赤彩 SK-16・O22グリ S-7
Po103	74	20	脚部	②4.1△ ③19.0※	「ハ」の字状に開く脚部。裾端部は肥厚する。外面に7条の凹線を施す。三角形状の透し孔らしき穿孔が認められる。	外面一ナデ。 内面一ヨコヘラケズリ。	やや粗 1㎜大の石英を多く含む	良好	内外面ともに橙黄色	外面赤彩 O22グリ S-13

挿表 9　石器観察表

（　）残存値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	出土位置	器種	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	調整	備考
S1	20	15	330	SI－02 P5	石鏃	黒曜石	(2.1)	1.7	0.4	(0.8)	両面	凹基無茎 西川－11
S2	20	15	324	SI－02	石鏃	無斑晶安山岩	3.5	2.4	0.4	3.3	周縁	平基無茎 西川－12
S3	20	15	339	SI－02	磨製石斧	石英粉岩	(9.3)	6.4	4.8	(475)		小山－23
S4	20	15	342	SI－02	礫石	流紋岩	(7.3)	2.6	2.3	(55.5)		YH－31
S5	20	15	393	SI－02	敲石	黒雲母角閃石安山岩	13.5	9.5	5.1	833		小山－36
S6	21	15	394	SI－02	石皿	石英安山岩質凝灰岩	30.5	41.2	10.1	18,850		小山－37
S7	21	15	326 395	SI－02	台石	角閃石安山岩	23.0	29.7	7.5	9,359		小山－38
S8	22	15	354	SI－03 P9	礫石	流紋岩質凝灰岩	7.1	2.0	1.6	(35.2)		S－47
S9	25	16	378	SI－04	磨製石斧	閃緑玢岩	12.5	5.8	4.2	518		小山－28
S10	25		329	SI－04	磨石	角閃石石英安山岩	11.8	8.3	7.6	1,231		小山－29
S11	27	16	368	SI－05	磨石	石英安山岩	15.6	9.4	6.0	1,029		小山－24
S12	37		197	SK－03	敲石	閃緑岩	7.9	5.6	4.8	301		YH－33
S13	52		271	SK－12	磨石	輝石角閃石安山岩	6.7	4.8	2.3	111		小山－27
S14	54	18	273	SK－13	石鏃	無斑晶安山岩	(2.8)	1.5	0.4	(1.5)	周縁	平基無茎 西川－13
S15	53	18	332	SK－19	投弾	角閃石石英斑岩	6.0	3.9	3.6	104		小山－26
S16	66	19	358	SK－21	石鏃	無斑晶安山岩	2.7	1.5	0.25	0.9	周縁	凹基無茎 西川－14
S17	68	19	369	SK－22	石鏃	無斑晶安山岩	(2.6)	(1.95)	0.3	(1.7)	周縁	凹基無茎 西川－15
S18	75	20	5	表土剝ぎ中	礫石（石斧転用）	角閃石ハンレイ岩	(23.0)	8.5	5.5	(1,983)		YH－32
S19	75	20	329	N－21 グリッド	石錘	黒雲母石英安山岩	7.3	4.0	4.2	125		S－45
S20	75	20	391	N－20 グリッド	有孔石		6.8	4.5	3.5	87.0		S－46

第５章　まとめ

鶴田合清水遺跡出土の分銅形土製品について

分銅形土製品は岡山県南部に分布の中心を持ち、１遺跡で33点の出土があった山陽町の用木山遺跡をはじめとして同じく山陽町のさくら山遺跡、岡山市の雄町遺跡など10点以上出土した遺跡もあり、出土総数は他地域と格段の差がある。山陰地方からも数は少ないものの出土例が存在する。古代の文化交流を考える上で分銅形土製品は注目すべき資料であり、集成や検討(1)が行われている。

鶴田合清水遺跡からは２点の分銅形土製品が出土した。このうち、ＳＫ－22から出土した分銅形土製品(Po85 挿図68)の施文形態について考えてみたい。

分銅形土製品は、土坑として扱ったＳＫ－21とＳＫ－22から１点ずつ出土した。どちらの土坑とも遺物は流れ込みの状態での出土であるが、土器の時期はやはり弥生時代中期後葉である。

Po85の文様は、周縁部からくりこみ部にかけてを縁どるように幅５㎜の刺突文が１～２㎜間隔に施される。くりこみ部には刺突文の内側に径３㎜の竹管文が施されている。竹管文をこのように施文する例は管見にのぼる限りでは見あたらない。文様構成の大枠では中期中葉の岡山県南部地域で斉一的に出土する「新郷型」(2)に対応している。縁辺部に施される櫛描重弧文が幅５㎜の刺突文に変わり、中央に連続した二つの櫛描円弧文が径３㎜の竹管文に置き変わっているのである。分銅形土製品の製作が女性の手によるものとの考えに従うならば、文様構成は受け入れながら施文具を変えることで独自性を出しているのである。中期後葉段階に遺跡周辺地域において土器文様に竹管文はあまり用いられておらず、必ずしも各時期の土器製作技法が分銅形土製品に反映されている(3)とは言い切れないことになる。この竹管文は、櫛描重弧文が退化した円形押捺文(4)をモチーフに採用したものと考えられ、土器文様とは切り離され独自に変化したものであろう。これは、土器と同一の製作者によって分銅形土製品がつくられた(5)と考えるよりも、日常とは関係なく特別につくられていると考えるべきである。これはＳＫ－21出土の分銅形土製品(Po73 挿図66)と文様構成がまったく異なることからも、日常的なものではなく、非日常的なものであることの現れであり、分銅形土製品に対する意識に変化があったことを意味しているのであろう。言い替えるならば、吉備地方に起源をもつ分銅形土製品を用いた祭祀形態を受け入れながらも、土器製作技法によらない独自の施文方法を創りだしたのであり、そこに祭祀形態の変化をうかがうことができるのである。

分銅形土製品が出土した近くからは、包含層中からではあるが脚部に鋸歯文帯をもつ高坏が出土した。鋸歯文を施す土器が播磨地方にその起源を持ち銅鐸と深い関係がある(6)とするならば、県内で銅鐸の出土例は多くないが、近接する位置にある代遺跡(7)で時期は異なる可能性がつよいながらも流水文の描かれた土器片が出土していることも併せて考えて、銅鐸祭祀が何等かの形で遺跡周辺地域に伝わっていることは十分に推測されることであり、これらの祭祀が重層的に融合して一つの祭祀形態に変化したのであろう。

（註）

（1）清水真一　「山陰の分銅形土製品」『新田原遺跡』大山町教育委員会　1979
「鳥取県内出土分銅形土製品一覧」『鳥取埋文ニュース』№７　1984
「分銅形土製品の一考察」『同志社大学考古学シリーズⅢ　考古学と地域文化』　1987

（2）東　潮　「分銅形土製品の研究（１）」『古代吉備』７　1971

（3）東　潮　「東高月遺跡群出土の分銅形土製品」『用木山遺跡』山陽町教育委員会　1977

（4）近接した越敷山遺跡では同時期にあたる竪穴住居跡から円形の押捺文を周縁部に施した例が出土した。
『越敷山遺跡群　第２分冊』会見町教育委員会・岸本町教育委員会　1994

（5）（3）と同じ

（6）篠宮　正　「鋸歯文土器と播磨の銅鐸鋳造」『文化財学論集』文化財学論集刊行会　1994

（7）『代遺跡』溝口町教育委員会　1993

図　　版

鶴田東山・鶴田合清水遺跡全景(西より)

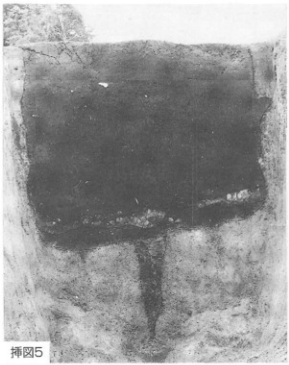
図版 2

挿図4

鶴田東山遺跡調査後全景（東より）

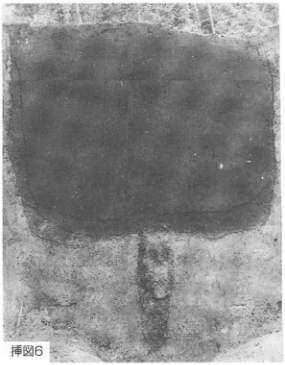
挿図9

鶴田合清水遺跡調査後全景（東より）



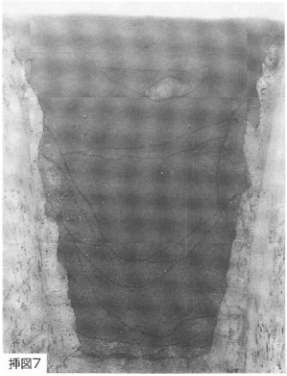
挿図5

ＳＫ－０１土層断面（南西より）



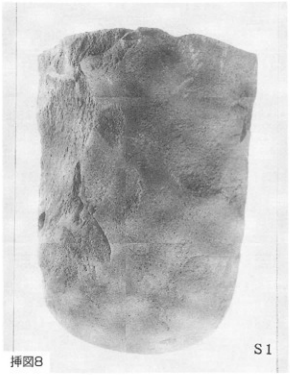
挿図6

ＳＫ－０２土層断面（南西より）



挿図7

ＳＫ－０３土層断面（南より）

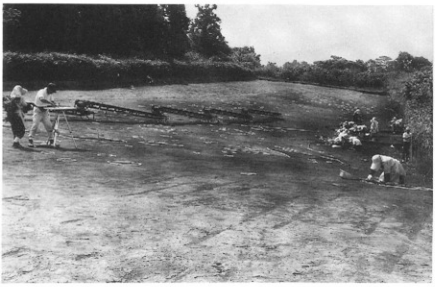


挿図8

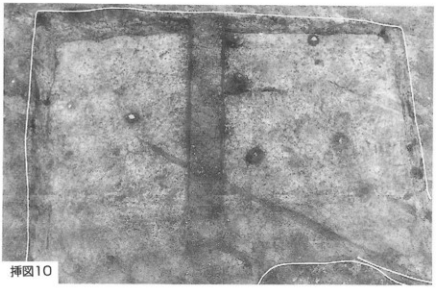
遺構外出土遺物

図版 4

鵠田合清水

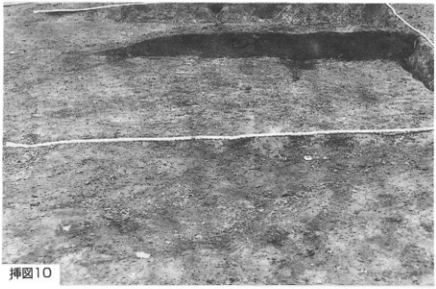


作業風景



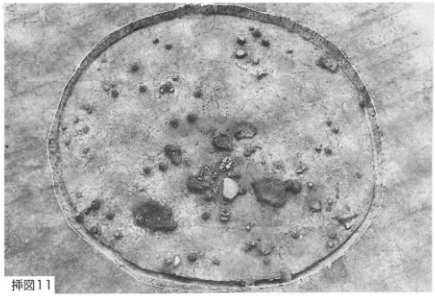
挿図10

ＳＩ－０１遺物出土状況
（西より）



挿図10

ＳＩ－０１土層断面
（南より）

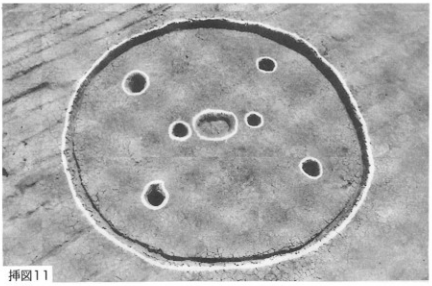


ＳＩ－０２遺物出土状況〔全景〕
（北西より）

挿図11

ＳＩ－０２遺物出土状況〔北半〕
（西より）

挿図11



ＳＩ－０２完掘状況
（北西より）

挿図11

挿図11

ＳＩ－０２中央ピット土層断面
（西より）

挿図12

ＳＩ－０２Ｐｏ１出土状況
（南より）

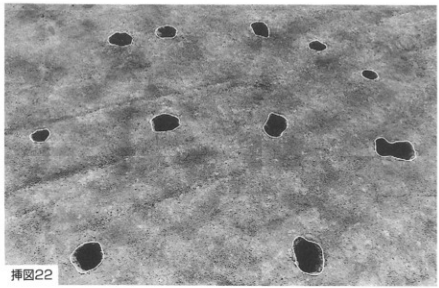
挿図17

ＳＩ－０２Ｐｏ７出土状況
（南より）

ＳＩ－０２炭出土状況
（西より）

挿図11

ＳＩ－０２測量風景

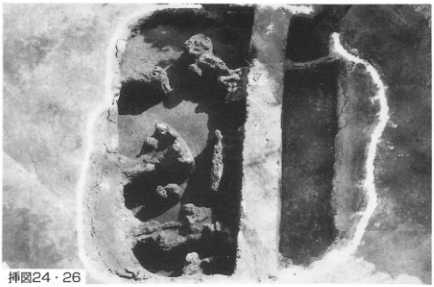


ＳＩ－０３完掘状況
（西より）

挿図22

図版 8

鶴田合清水

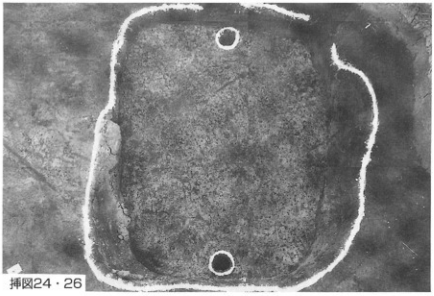


挿図24・26

ＳＩ－０４炭出土状況
（北東より）

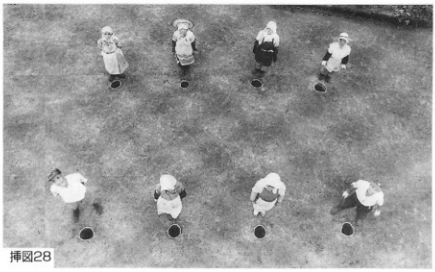
挿図24・26

ＳＩ－０４・０５土層断面
（南東より）



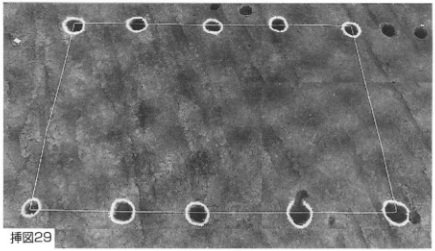
挿図24・26

ＳＩ－０４・０５完掘状況
（北東より）



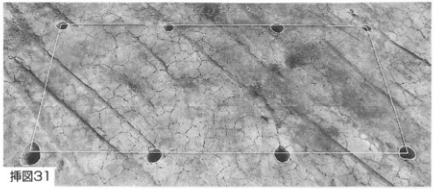
挿図28

ＳＢ－０１完掘状況
（東より）



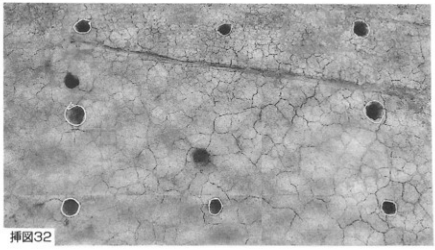
挿図29

ＳＢ－０２完掘状況
（南より）



挿図31

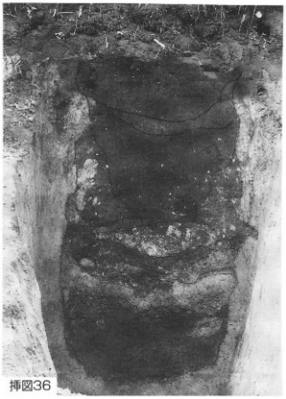
ＳＢ－０３完掘状況
（北東より）



挿図32

ＳＢ－０４完掘状況
（南西より）

鶴田合清水



挿図36

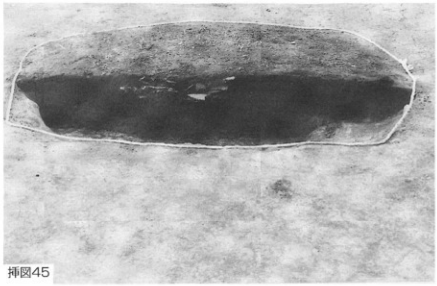
ＳＫ－０２土層断面
（西より）

挿図38

ＳＫ－０３・０７遺物出土状況
（西より）

挿図39

ＳＫ－０４土層断面
（西より）



ＳＫ－０９土層断面
（南東より）

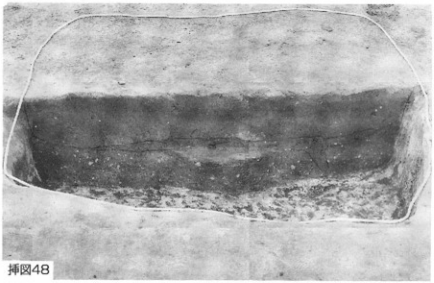
挿図45

ＳＫ－０９遺物出土状況（１）
（北西より）

挿図45

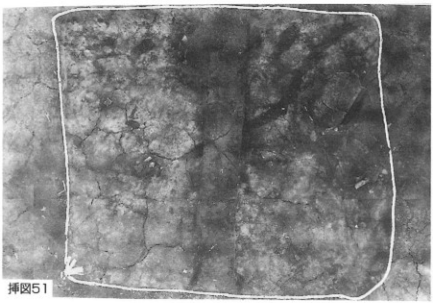
ＳＫ－０９遺物出土状況（２）
（南東より）

挿図45



挿図48

ＳＫ－１０土層断面
（南より）

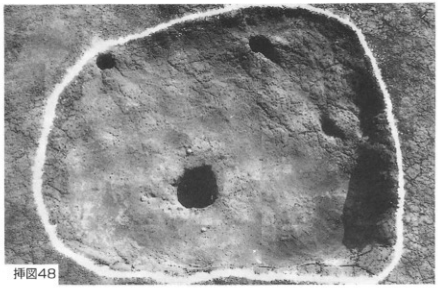


挿図51

ＳＫ－１２遺物出土状況（１）
（南西より）

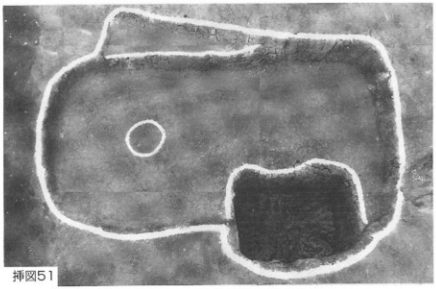
挿図51

ＳＫ－１２遺物出土状況（２）
（南東より）



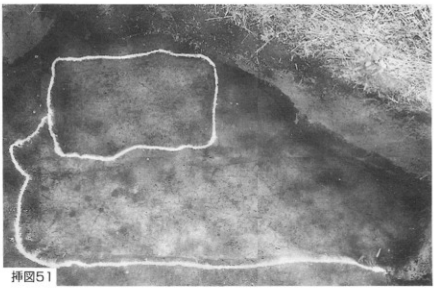
ＳＫ－１５完掘状況
（北東より）

挿図48



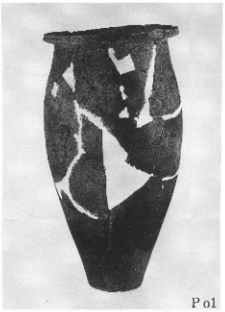
ＳＫ－２０・２１・２３完掘状況
（南より）

挿図51



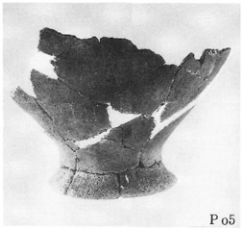
ＳＫ－２２・２４完掘状況
（北東より）

挿図51


Po1

Po2

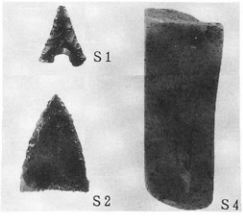
Po3

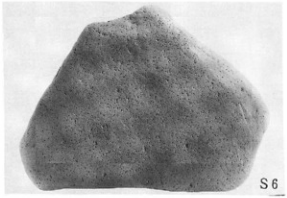

Po5

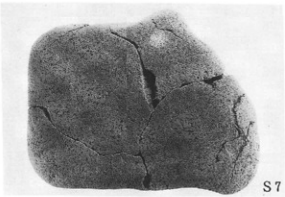
Po6

Po7

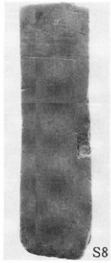
SI－02出土遺物(1)　[挿図19・20]



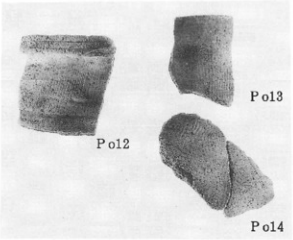




SI－02出土遺物（2）［挿図20・21］

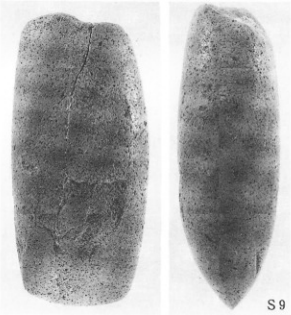


SI－03出土遺物
［挿図22］

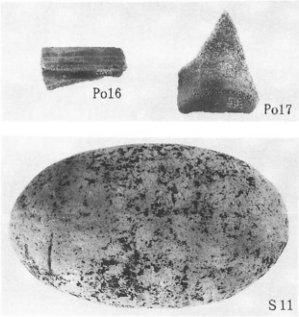


SI－04出土遺物（1）［挿図25］

図版16

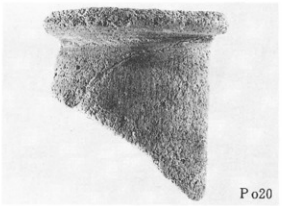


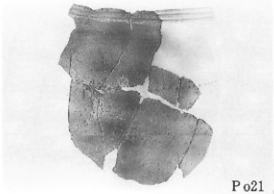
ＳＩ－０４出土遺物（２）［挿図25］



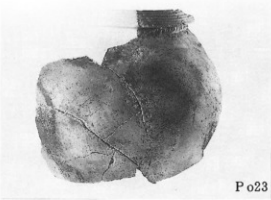
ＳＩ－０５出土遺物　［挿図27］

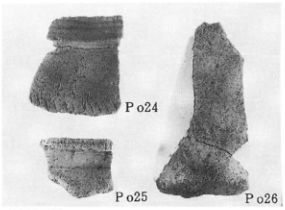
ＳＫ－０１出土遺物　［挿図34］



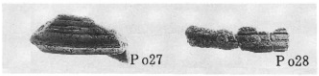


ＳＫ－０３出土遺物　［挿図37］

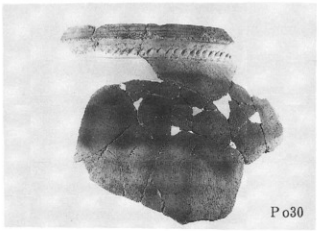


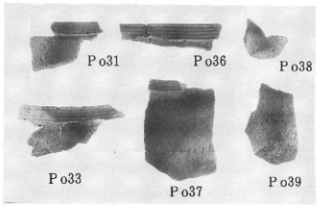


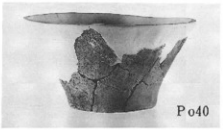
ＳＫ－０４出土遺物　［挿図40］

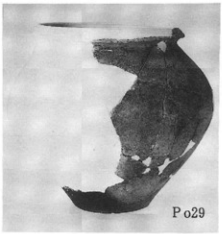


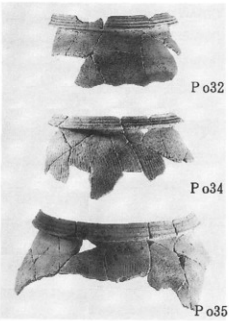
SK－08出土遺物 [挿図44]

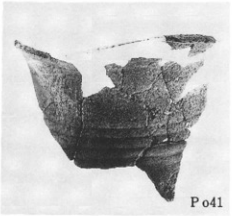










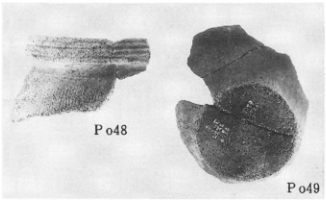


SK－09出土遺物 [挿図46・47]

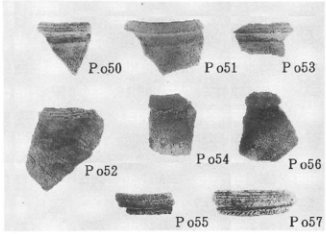
図版18

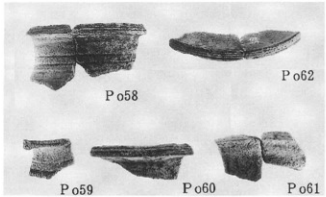
鏡田合清水

SK－10出土遺物 [挿図48] SK－13出土遺物 [挿図54]

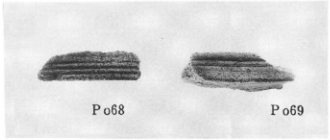


SK－15出土遺物 [挿図57]



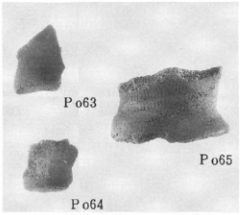


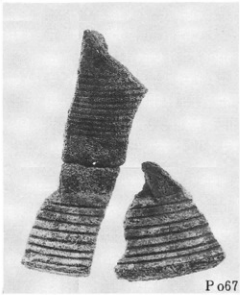
SK－16出土遺物 [挿図59]

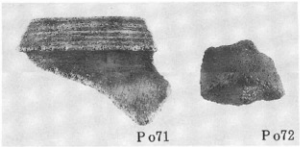


SK－19出土遺物 [挿図63]

SK－12出土遺物 [挿図52]

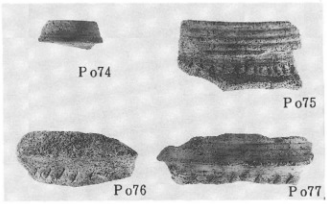


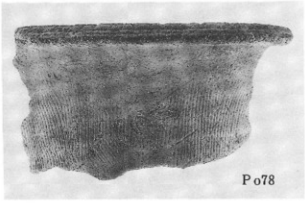


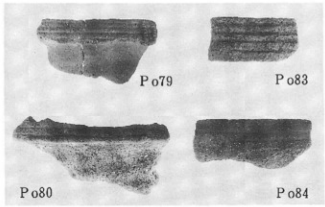


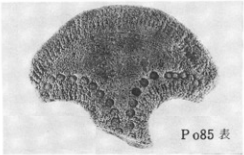
SK－20出土遺物［挿図65］

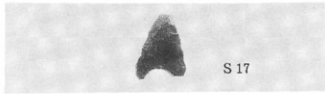
SK－21出土遺物［挿図66］



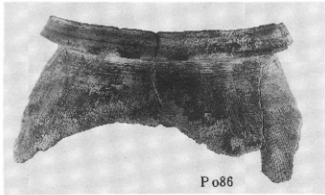


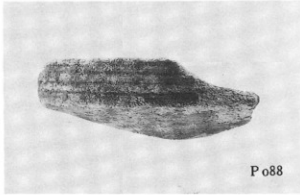






SK－22出土遺物［挿図68］

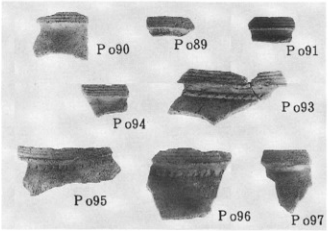


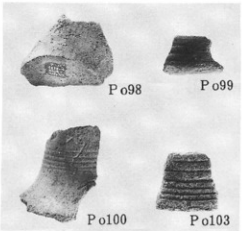


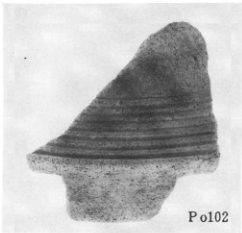
SK－24出土遺物［挿図71］

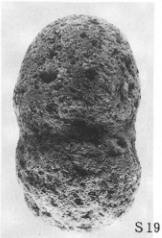
図版20

鶴田合清水









遺構外出土遺物　[挿図74・75]

報告書抄録

ふりがな	つるたひがしやまいせき　つるたごうしみずいせき
書名	鶴田東山遺跡　鶴田合清水遺跡
副書名	県立フラワーパーク建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書
シリーズ番号	４０
編著者名	西川　徹　　松林　隆裕
編集機関	財団法人　鳥取県教育文化財団　　鳥取県埋蔵文化財センター
所在地	〒　６８０－０１　鳥取県岩美郡国府町宮下１２６０　　TEL(0857)27-6711
発行年月日	西暦１９９５年　３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
つるたひがしやま 鶴田東山	とっとりけんさいはくぐん 鳥取県西伯郡 あいみちょうつるた あざ 会見町鶴田字 ひがしやま 東山	31382	441	35度 20分 41秒	133度 25分 44秒	19940411 ～19940524	３８４４	県立フラワーパーク建設工事
つるたごうしみず 鶴田合清水	とっとりけんさいはくぐん 鳥取県西伯郡 あいみちょうつるた あざ 会見町鶴田字 ごうしみず 合清水	31382	412	35度 20分 38秒	133度 25分 49秒	19940525 ～19940920	５０４２	同　上

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鶴田東山	土坑	縄文時代	落し穴状土坑　３基	磨製石斧	
鶴田合清水	集落跡	弥生時代	竪穴住居　５棟 掘立柱建物　５棟 土坑　２４基 杭列　１基	弥生土器、分銅形土製品、磨製石斧、砥石、石鏃	弥生時代中期後葉に時期が限定される集落跡

鳥取県教育文化財団調査報告書４０
県立フラワーパーク建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
鳥取県西伯郡会見町
鶴田東山遺跡
鶴田合清水遺跡
発　行 1995年３月
発行者 財団法人　鳥取県教育文化財団
〒680　鳥取市東町１丁目271番地
電話　(0857)26-8397
印　刷　株式会社　とっとりテクニカルプリント